Panasonic

パーソナルコンピューター
取扱説明書

品番 CF-M1R シリーズ

Let's note

98

活用編

便利・通信・モバイル・拡張

説明書の構成

取扱説明書

セットアップ編

コンピューターを使うための準備作業をするときに。また、初めてのかたを対象に、Windows（ウィンドウズ）の基本操作を、具体例を通して説明しています。

活用編（本書）

安全上のご注意など、取り扱いについての説明に始まり、便利な機能や通信のしかた、省電力機能、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

オンラインマニュアル

画面上で参照できるマニュアルです。
「オンラインマニュアル」の見かたについては、取扱説明書『活用編』（本書）をご覧ください。

困ったときのQ&A

本機が思ったように動かないなど困ったときの対処方法をQ&A方式で説明しています。

パソコン・サポートとつきあう方法

初めてのかたを対象に、お客様のご相談窓口を上手に利用する方法や、コンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。
（編集：社団法人 日本電子工業振興協会）

内蔵モデムコマンド一覧

ATコマンドを使って通信する場合にご利用ください。

上手に使って上手に節電

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
・取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。
・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

コミュニケーション

モバイル

拡張

本書の読みかた

表記の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。
  （例） N み は N や み と表記します。
- あるキーを押しながら、別のキーを押すような操作の説明は、次のように「+」を使って表記します。
  （例） Fn + F6
- 「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。
  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）
- 本書中の画面例は、一部実際と異なる場合があります。

ご使用前に

「安全上のご注意」は、必ずご覧ください。

本機をご使用になる前に、知っておいていただきたい「安全上のご注意」や「使用上のお願い」について説明しています。また、「各部の名称と働き」についても説明しています。

もくじ

安全上のご注意

必ずお守りください

ご使用前に

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をした時に生じる危害や障害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。（下記は、絵表示の一例です。）

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

本機を改造しない また、本書に記載のない方法で分解しない

分解禁止

高電圧に注意
本機を分解・改造しない

［本体に表示した事項］

内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

上に水などの入った容器や金属物を置かない

禁止

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

● 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

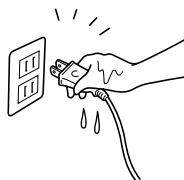
● 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

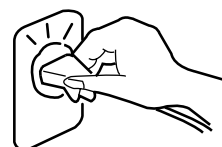
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100V 以外での使用はしない

禁止

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

感電の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。

● 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠警告

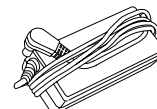
異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

電源プラグを抜く

・本体が破損した
・本体内に異物が入った ・異臭がする
・煙が出ている ・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。
● 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

電源コード・電源プラグ・AC アダプターを破損するようなことはしない

（傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない）

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
● コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

⚠注意

不安定な場所に置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

ひび割れたり変形したりした CD は使用しない

禁止

高速で回転するため、飛び散ってけがの原因になることがあります。
● 円形でないCDや、接着剤などで補修した CD も同様に危険ですので、使用しないでください。

本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

通風孔をふさがない

禁止

内部に熱がこもり、火災の原因になることがあります。

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。
● 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

1時間ごとに10～15分間の休憩をとる

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

CD-ROM ドライブの内部をのぞきこまない

禁止

内部のレーザー光源を直視すると、視力障害の原因になることがあります。
● 内部の点検・調整・修理は、販売店にご相談ください。

湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

必ず指定の A C アダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

長時間直接触れて使用しない

禁止

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間、直接触れていると、低温やけど※の原因になります。

※低温やけどについて
体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。また、電源が入っている状態でコンピューターを持ち運ばない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションが使えなくなることがあります。コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●データの機密保護としてセキュリティー機能を活用する。（→117ページ）

* 正式名称は、Microsoft® Windows® 98 Second Edition operating systemです。本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

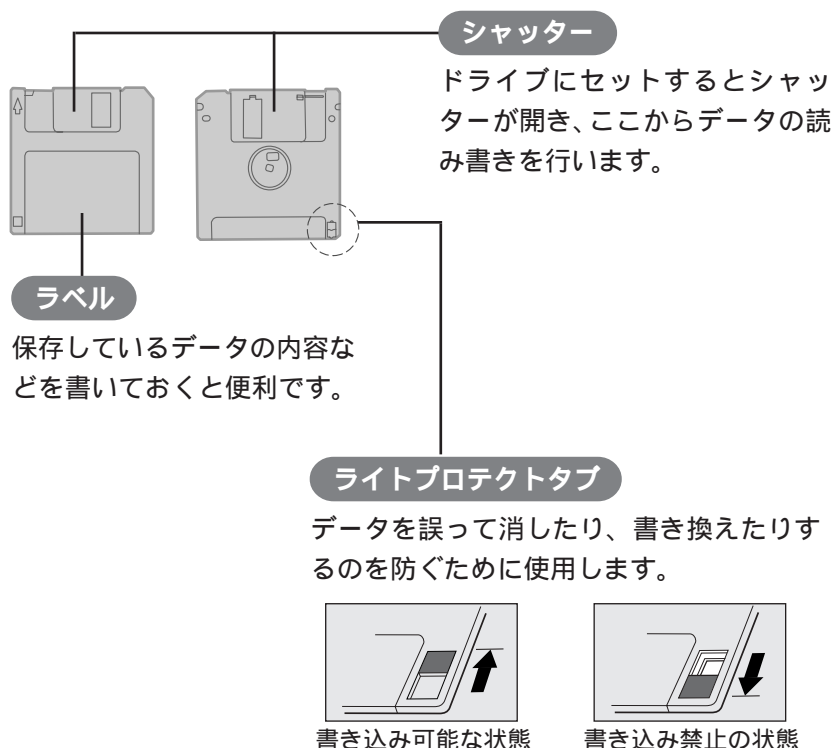
フロッピーディスクのデータ保護

●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたりしない。
フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションが使えなくなることがあります。

●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。

●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
重要なデータを保存している場合におすすめします。
これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。

●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。

・シャッターを手で開けない
・磁気を帯びたものを近づけない
・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
・ラベルを重ねて貼らない

◀フロッピーディスクを使用する場合は、フロッピーディスクドライブ（付属）と周辺接続ケーブル（付属）が必要です。

シャッター
ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ラベル
保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

ライトプロテクトタブ
データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

書き込み可能な状態

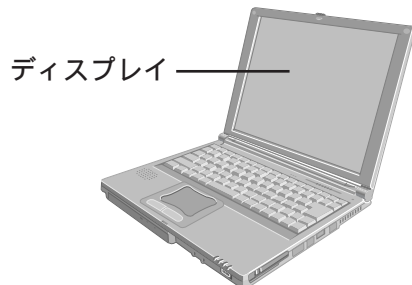
書き込み禁止の状態

使用上のお願い

LCDパネル（ディスプレイ）の取り扱い

●LCDパネルは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、LCDパネル部を持って、持ち運ばないでください。
●カラー液晶ディスプレイは精度の高い技術で製造されていますが、ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができることがあります。これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。

お手入れのしかた

・ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
・ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。
中性の台所用洗剤以外の洗剤（弱アルカリ性洗剤など）を使用すると、塗装がはげるなど、塗装面に影響を与えることがあります。

お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。塗装がはげるなど、塗装面に影響を与える場合があります。また、市販のクリーナーや化粧品の中にも、塗装面に影響を与える成分が含まれている場合があります。
・水や洗剤を直接かけたり、スプレーで噴きかけたりしないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

補足説明について

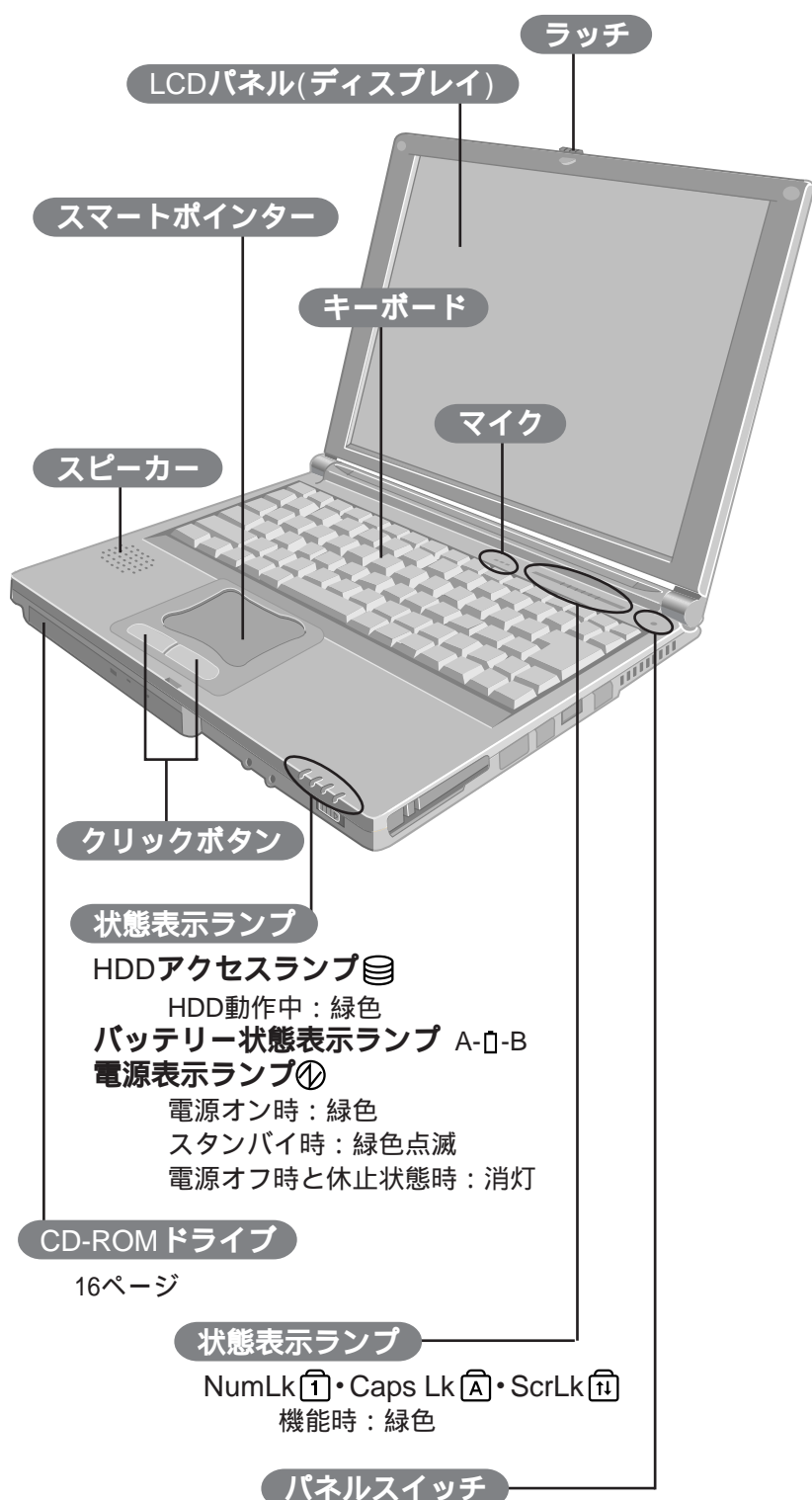
補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

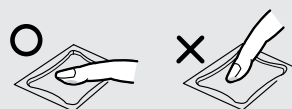
各部の名称と働き

前面

HDDアクセスランプ
HDD動作中：緑色
バッテリー状態表示ランプ A-▯-B
電源表示ランプ
電源オン時：緑色
スタンバイ時：緑色点滅
電源オフ時と休止状態時：消灯

CD-ROMドライブ
→16ページ

状態表示ランプ
NumLk・Caps Lk・ScrLk
機能時：緑色

パネルスイッチ
LCDパネルを閉じLCD上部のラッチがロック状態になると、セットアップユーティリティーの「パネルスイッチ」の設定に従い「LCDオフ」、「スタンバイ」（サスペンド）または「休止状態」（ハイバーネーション）になります。

◀ スマートポインターは指先で操作してください。ペンやつめなどでは反応しません。→18、20ページ

◀ マイク入力端子に外部マイクを接続しているときは、このマイクは使用できません。（→次ページ）

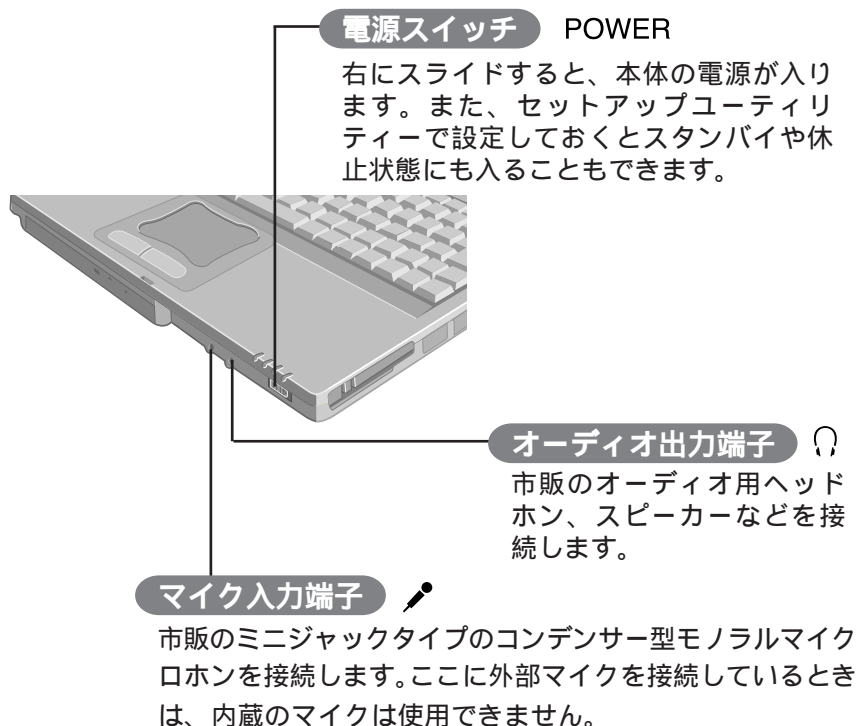
◀ スピーカーの音量調整のしかた →124ページ

◀ クリックボタンの操作については取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

◀ バッテリーパックの充電状態 →94ページ

◀ 操作を再開するとき
- 「パネルスイッチ」を「LCDオフ」や「スタンバイ」に設定時は、LCDパネルを開ける。（LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態にした場合はLCDパネルを開け、電源スイッチ（→12ページ）をスライドする。）
- 「パネルスイッチ」を「休止状態」に設定時は、LCDパネルを開け、電源スイッチ（→12ページ）をスライドする。

各部の名称と働き

前面

電源スイッチ POWER

右にスライドすると、本体の電源が入ります。また、セットアップユーティリティーで設定しておくとスタンバイや休止状態にも入ることもできます。

オーディオ出力端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

マイク入力端子

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。ここに外部マイクを接続しているときは、内蔵のマイクは使用できません。

お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。ただし、Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→124ページ

◀ 音量調整のしかた →124ページ

お願い

マイク入力端子では、コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプまたは3極プラグタイプを使用してください。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。

マイクの音量調整について

<録音時の入力レベルが小さい場合>

①「ボリュームコントロール」画面*で[オプション]→[プロパティ]をクリックする。
②「音量の調整」で「録音」を選び、「表示するコントロール」で[マイク]にチェックマークを付ける。
③[OK]をクリックした後、音量を調整する。
それでも入力レベルが小さい場合は、以下の操作を行ってください。
④[オプション]をクリックし、[トーン調整]にチェックマークを付ける。
⑤[トーン]をクリックし、「1 AGC(1)」の左側の□にチェックマークを付ける。
⑥[閉じる]をクリックし、「マイクの詳細設定」の画面を終了する。

<ハウリングについて>

手を近づけたり、LCDパネルを閉じたりするとハウリングを起こす場合があります。その場合は、「ボリュームコントロール」画面で[オプション]→[プロパティ]をクリックし、「音量の調整」で「再生」を選び、「表示するコントロール」で「マイク」にチェックマークを付けた後[OK]をクリックして、「マイク」をミュートにするようにしてください。または、ハウリングを起こさないように、マイクとスピーカーの音量を適度に調節してください。

*「ボリュームコントロール」画面を開くには
タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリックしてください。タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。

右側面

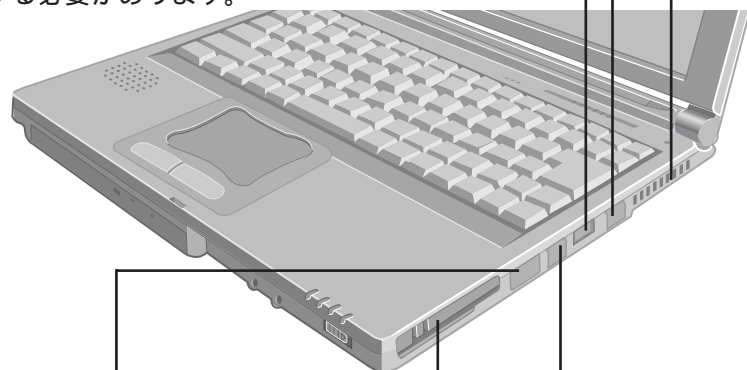
通風孔

コンピューターを使用中はふさがないでください。

LANコネクター

工場出荷時には使用できない設定になっています。(→79ページ)

USBコネクター

電源を入れたままで、USB対応のマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。

赤外線通信ポート

赤外線通信を行うときに使用します。

モデムコネクター

→39ページ

PCカードスロット

PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。

お願い

USB機器には、スタンバイや休止状態機能に対応していないものがあります。対応していない機器をご使用の場合は、スタンバイや休止状態機能を使用する前に、その機器を取り外してください。
また、設定、接続のしかたについては、USB機器に付属の説明書をご覧ください。

各部の名称と働き

左側面

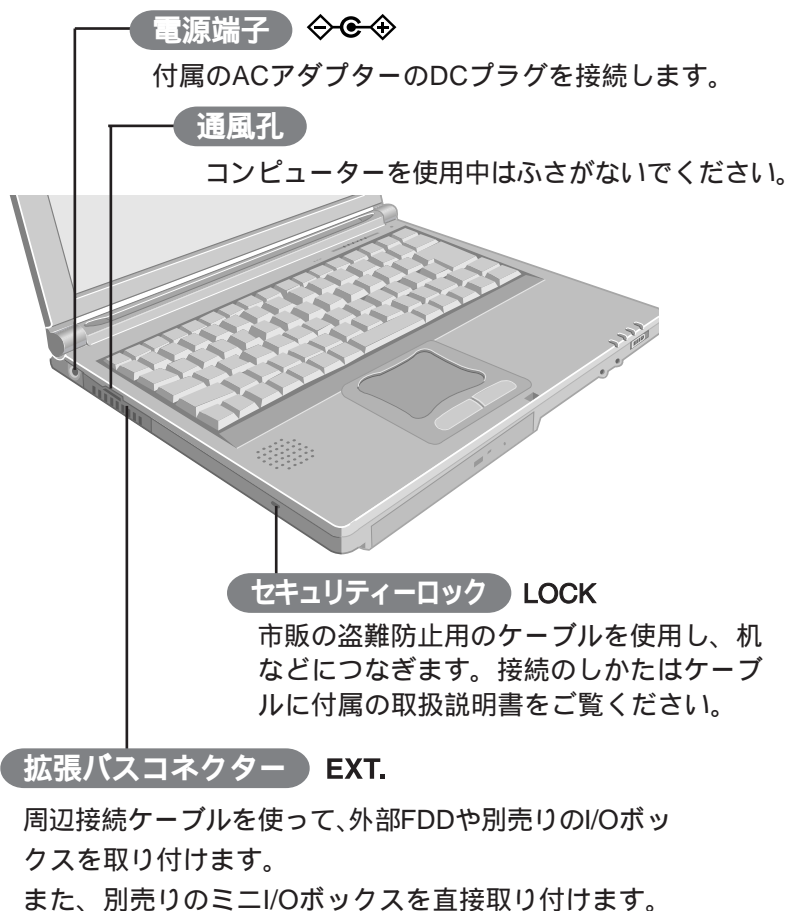
電源端子

付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

通風孔

コンピューターを使用中はふさがないでください。

セキュリティーロック LOCK

市販の盗難防止用のケーブルを使用し、机などにつなぎます。接続のしかたはケーブルに付属の取扱説明書をご覧ください。

◀ 拡張バッテリーパック装着時、セキュリティーロックは使用できません。

拡張バスコネクター EXT.

周辺接続ケーブルを使って､外部FDDや別売りのI/Oボックスを取り付けます。
また、別売りのミニI/Oボックスを直接取り付けます。

底面

バッテリーパック挿入口

バッテリーパックを挿入します。（→91ページ）

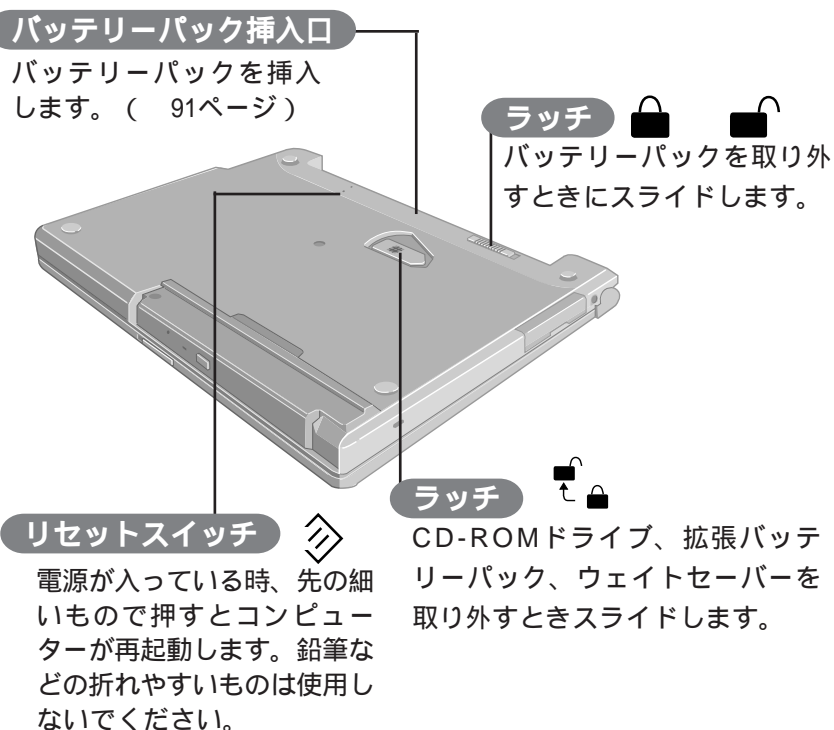
ラッチ

バッテリーパックを取り外すときにスライドします。

リセットスイッチ

電源が入っている時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

ラッチ

CD-ROMドライブ、拡張バッテリーパック、ウェイトセーバーを取り外すときスライドします。

お願い

リセットスイッチは、何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

使いかた

スマートポインターのクイックラウンチャー機能やスタンバイ・休止状態機能など、本機を操作するうえで便利な機能について説明しています。また、通信のしかた、省電力機能やバッテリーパックの使いかた、周辺機器の拡張のしかたなどについて説明しています。

もくじ

便利

コミュニケーション

コミュニケーション（つづき）

モバイル

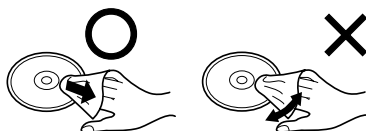
拡張

CD-ROMドライブについて

ディスク取り扱い上のお願い

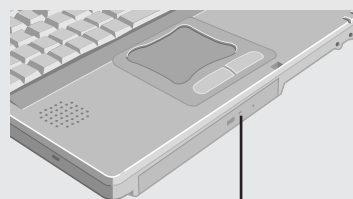
- 汚したり、傷つけたりしないでください。
- ゴミやほこりの多い場所、温度、湿度の高い場所、直射日光の当たる場所に置かないでください。
- 表面に字を書いたり、紙を貼ったりしないでください。
- 落としたり、曲げたり、重い物をのせないでください。
- 変形したディスク（曲がったり、円形でないもの）は使用しないでください。
- 温度差の激しい場所に置かないでください。（結露が生じます。）
- 急に暖かい室内に持ち込んだときなどに露がついたら、乾いた柔らかい布でふいてください。
- ディスクの汚れや損傷の原因になりますので、再生面（タイトルのない面）に触れないでください。
- 2〜3か月に1回程度、ディスクのクリーニングをしてください。クリーニングには、CDディスククリーナー*を使用してください。

＜汚れをとるには＞

柔らかい乾いた布で、中心から外の方向へ軽くふきます。

＜持ち方＞

* 品番：　LF-K200DCJ
お問い合わせ先
P³カスタマーサポートセンター
電話：03-5821-3180
ファクス：03-5821-3140
受付日および時間：
10:00〜12:00、12:45〜17:00
土日・祝日は除く

CD-ROMドライブ取り扱い上のお願い

- トレイにディスク以外のものを載せないでください。
- トレイを開けたままで放置したり、レンズ部分に手を触れたりしないでください。
- トレイが開いているときに、トレイに無理な力をかけないでください。
- トレイを閉じた後、CDアクセスランプが消えるまで、CD-ROMドライブにアクセスしないでください。
- CDアクセスランプ点灯中は、次のことに注意してください。
  - ・トレイを引き出さない。（→次ページ）
  - ・コンピューターを動かさない。
  - ・電源を切ったり、スタンバイや休止状態にしない。
  - ・ディスク取り出しボタン（→次ページ）に触れない。
- 油煙やたばこの煙の多いところでは使用しないでください。
- CD-ROMドライブのすき間部分にゼムクリップなどの異物が入らないようにしてください。
- CD-ROMドライブのクリーニングにはCDレンズクリーナー(クリーニング液を使用するものを除く)を使用してください。

自動実行のディスクの場合

・スタンバイや休止状態からのリジューム後、自動実行のディスクを挿入しても実行されない場合は、15秒以上時間をあけてディスクを入れ直してください。正しく実行されます。
・ディスクの状態によっては、ファイルへのアクセス中に自動実行が開始されることがあります。

動画を再生するようなディスク（ビデオCDやMPEGデータを再生するCDなど）

なめらかに再生できないことがあります。あらかじめご了承ください。

使いかた

便利

CD-ROMドライブを使う

1 本体の電源が入っていることを確認し、ディスク取り出しボタンを軽く押す。

2 手でゆっくり引き出す。

3 ディスクをセットする/取り出す。

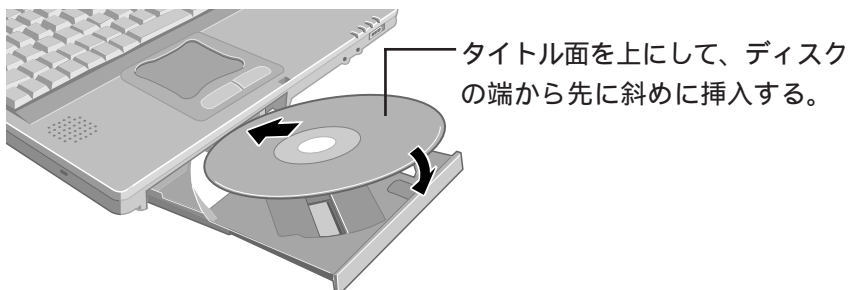
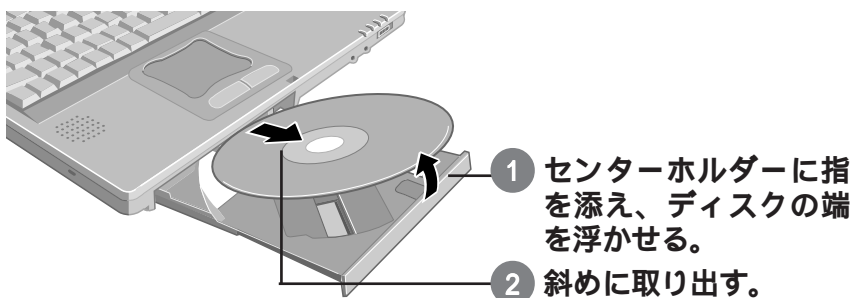
<セットする場合>

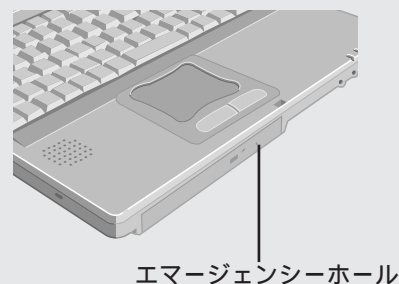
<取り出す場合>

4 手でトレイを閉じる。

お願い

CDアクセスランプ点灯中は、トレイを開けないでください。
アプリケーションが入ったディスクの場合は、アプリケーションを起動した後、そのアプリケーションを終了するまでトレイを開けないでください。

◀CD-ROMドライブが取り外されている場合は、取り付けてください。（→99ページ）

トレイが引き出せないときは

トレイが引き出せないときや、電源を入れないでディスクを取り出したいときは、ゼムクリップを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。

CD-ROMドライブ速度（→121ページ）を「中速」に設定していると

アプリケーションによっては正しく動作しないことがあります。この場合、「高速」に設定してから実行してください。それでも正しく動作しない場合は、他のアプリケーションを終了してください。

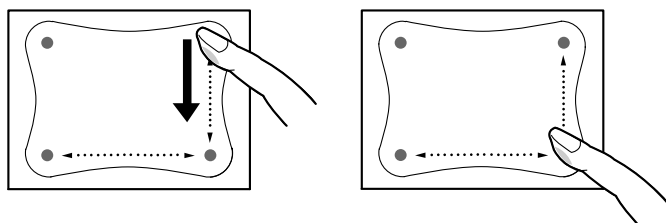
スマートポインターの操作

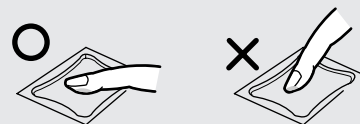
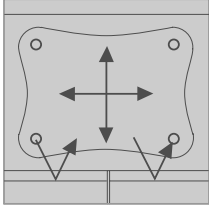
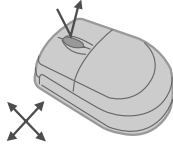
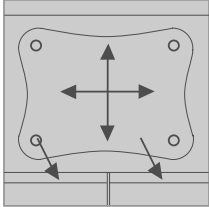
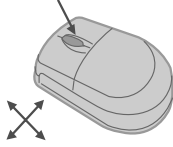
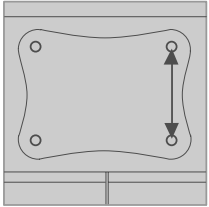
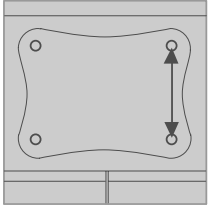
ここでは、スマートポインターのキープスクロール機能やインテリマウスと比較した操作の違いについて説明します。
タップやダブルタップなどスマートポインターの基本的な操作については、取扱説明書『セットアップ編』をご覧ください。

スマートポインターのキープスクロール機能

キープスクロール機能とは、スマートポインターのコーナーの●を押し続けることで、画面をスクロールさせる機能です。
・スマートポインター右側の縦矢印を、上（下）方向にこすった後、そのまま右上（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。
・スマートポインター下側の横矢印を、左（右）方向にこすった後、そのまま左下（右下）コーナーを押し続けると、画面がスクロールし続けます。

キープスクロール機能使用時のコツ

指の腹を使って、ゆっくりと矢印部をこすり、コーナーの●で指を止める。

（下方向へのキープスクロール例）

◀指を立てた状態で操作すると、うまくスクロールすることができません。（ペンやつめなどでは反応しません。）

◀コーナーの●以外の部分で指を止めると、スクロールが止まってしまいます。
◀早くこすりすぎると、コーナーの●で指を止めてもスクロールが止まってしまいます。

スマートポインターとインテリマウス™

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。各機能の動作はアプリケーションによって異なることがあります。

◀文中の「原点」とは、ボタンやホイールを押した位置のことを言います。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		ホイールを動かす

使いかた

便利

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す ①２つのボタンを同時にクリックした後	①ホイールをクリックした後 ②マウスを動かす
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。	②操作面をなぞる ①２つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl +	Ctrl +
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラーの操作を実行します。	Shift +	Shift +

◀オートスクロール機能
- 長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。
- スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。
- オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。

◀パン機能
スクロールの速度は、カーソルを原点から遠くへ移動させるほど速くなります。

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターを使って、より簡単にコンピューターの操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の3つがあります。

<スマートポインター連携1>

スマートポインターのコーナーの●をダブルタップするだけで、以下のことを行うことができます。

- ラウンチャーの起動
- ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作
- Enter 、Tab 、Esc キーの押下操作
- 登録しておいたアプリケーションの起動

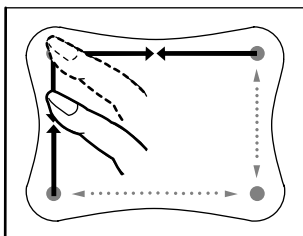
◀アクションポイント機能
詳しくは→次ページ

<スマートポインター連携2>

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

コーナーの●に指の腹を置き、ゆっくりと中央部まで水平または垂直にこすってください。

◀アクションライン機能
詳しくは→22ページ

◀力を入れすぎたり、早くこすりすぎたりすると、正しく動作しない場合があります。

<ラウンチャー>

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter 、Tab 、Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

◀詳しくは→29ページ
アプリケーションによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

クイックラウンチャー機能が動作しない場合

タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていない場合は上記の3つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。

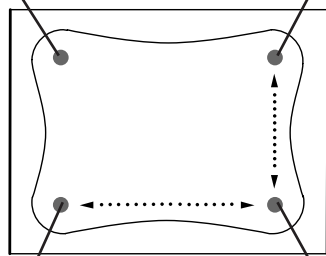
スマートポインター連携

スマートポインター連携1 （アクションポイント機能）

スマートポインターのコーナーにある4つの●をダブルタップするだけで、登録されているアプリケーションを起動したり、ウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。

（例）工場出荷時

ここをダブルタップすると、ラウンチャーが起動します。
（→29ページ）

ここをダブルタップすると、エクスプローラーが起動します。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが最大化されます。または元の大きさに戻ります。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが閉じられます。どのウィンドウもアクティブでない場合は、「Windowsの終了」画面が開きます。

スマートポインター連携1、2を使用するには
- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。→前ページ
- ラウンチャーを起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。→31ページ

◀スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。→23ページ

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない	：４コーナーの動作を中止します。
左上を使わない	：左上コーナーの●の動作を中止します。
右上を使わない	：右上コーナーの●の動作を中止します。
左下を使わない	：左下コーナーの●の動作を中止します。
右下を使わない	：右下コーナーの●の動作を中止します。

スマートポインター連携1と2を中止したコーナーは、通常の基本操作領域（クリックやスクロールなどを行う領域）として機能します。（→18ページ）

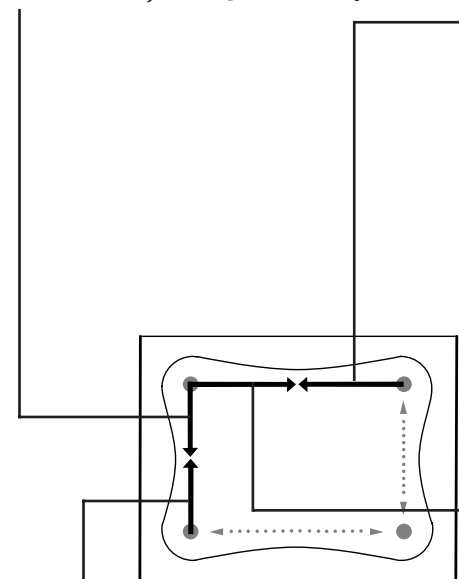
クイックラウンチャー機能

スマートポインター連携2 （アクションライン機能）

スマートポインターの左上コーナーの●から右にこする、下にこする、また、左下コーナーの●から上にこする、右上コーナーの●から左にこするなどといった動作で、スマートポインター連携１と同様にウィンドウ操作を行ったり、登録しておいたアプリケーションを起動したりすることができます。

（例）工場出荷時

左上コーナーから下方向に中央部までこすると、カーソル位置のショートカットメニュー（右ボタンをクリックしたときに表示されるメニュー）が表示されます。*1

右上コーナーから左方向に中央部までこすると、開かれているすべてのウィンドウが最小化されます。（全最小化操作）
開かれているウィンドウがない場合は、上記の全最小化操作で最小化されたウィンドウを元の大きさに戻します。*2

左上コーナーから右方向に中央部までこすると、アクティブウィンドウのメニューが表示されます。
どのウィンドウもアクティブでない状態では、Windowsのスタートメニューが表示されます。*3

左下コーナーから上方向に中央部までこすると、Windowsのスタートメニューが表示されます。

スマートポインター連携1、2を使用するには→前ページ

◀3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。→次ページ

*1 指の腹で押さえながらゆっくりとこすってください。軽く早くこすると、カーソル位置がずれて、希望するショートカットメニューが表示されないことがあります。

*2 他の方法（タイトルバー上の▭をクリックするなど）で最小化されたウィンドウは、この操作では元に戻すことはできません。また、全最小化操作を続けて行った場合は、最後の操作で最小化されたウィンドウのみを元に戻します。

*3 アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウでは、動作しないことがあります。

各コーナーごとにスマートポインター連携1、2の機能を一時的に中止したい場合
→前ページ

環境設定（スマートポインター連携1、2）

スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携1」で変更することができます。また、3コーナーの●をこすったときの動作は、環境設定の「スマートポインター連携2」で変更することができます。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコン をダブルクリックする。

◀クイックラウンチャーアイコン をクリックし、［環境設定］をクリックしても起動できます。

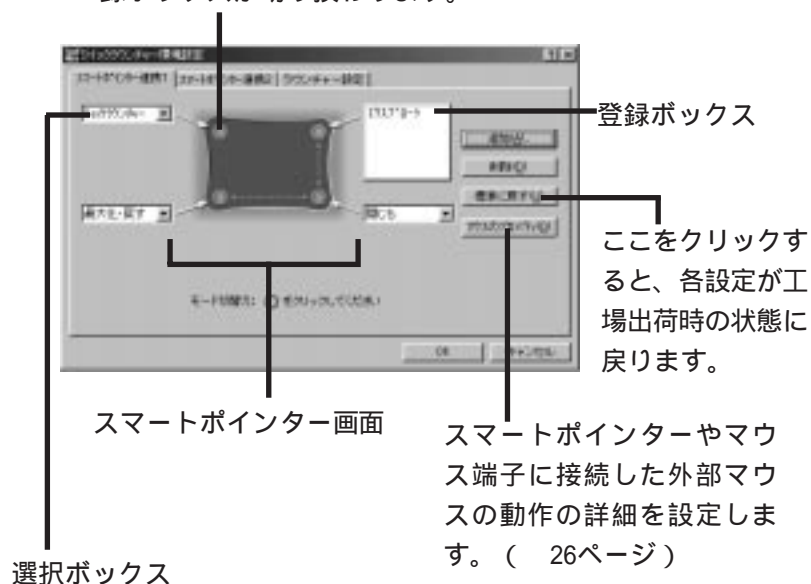
2 「スマートポインター連携1」タブまたは「スマートポインター連携2」タブをクリックする。

画面上の各◎または⇨をクリックすると、選択ボックスと登録ボックスが切り換わります。

登録ボックス

ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

スマートポインター画面

スマートポインターやマウス端子に接続した外部マウスの動作の詳細を設定します。（→26ページ）

選択ボックス

◀登録ボックス
画面上の◎または⇨が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、ひとつの◎または⇨に対して複数のアプリケーションを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションをまとめて登録しておくと便利です。

◀選択ボックス
画面上の◎または⇨が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ランチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

3 登録ボックスにアプリケーションを登録・削除する。
または、選択ボックスからひとつの操作を選んで設定・解除する。

<登録ボックスにアプリケーションを登録する場合>

❶ スマートポインター画面上の◎または⇨をクリック（◎または⇨を黄色にする）

❷ 登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

◀以降の画面は、左上コーナーの●を例にしています。

◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と［追加］ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル
ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

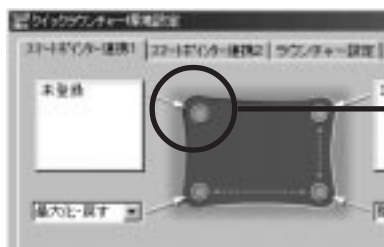
［追加］ボタンで登録する方法

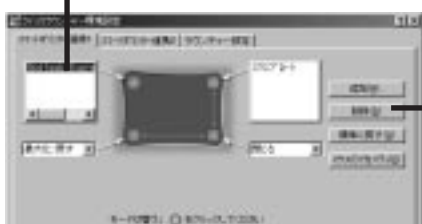
登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

［追加］をクリックし、

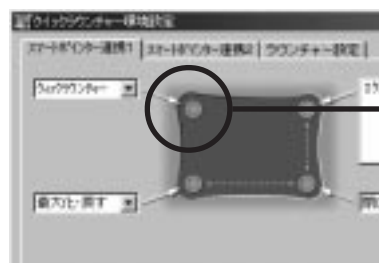
登録したいアプリケーションを選び、

［開く］をクリックする。

<登録ボックスからアプリケーションを削除する場合>

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を黄色にする）

2 登録ボックスの削除したい項目を クリック

3 クリック

◀選んだ項目が、反転表示されます。

<選択ボックスから操作を選択する場合>

1 スマートポインター画面上の◎または⇨を クリック （◎または⇨を緑色にする）

2 選択ボックスの右端の▼を クリック

3 項目の中から設定したい操作を選ぶ。

選んだ操作の動作について

・どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
・アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
・どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
・「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

◀「なし」を選択すると、そのコーナー部は指で触れても反応しなくなります。キー入力時に右上や左上コーナーを「なし」に設定しておくと便利です。ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→21ページ）

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

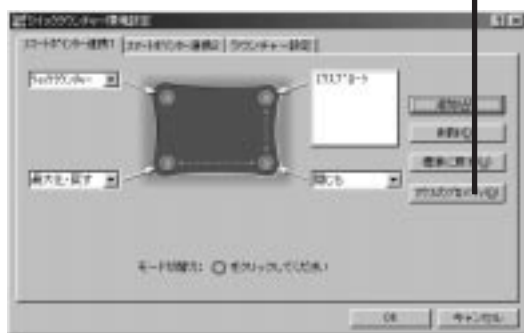
◀設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

マウスのプロパティ

マウスのプロパティでは、スマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定できます。
ここでは、マウスのプロパティの主な設定について説明します。

1 「マウスのプロパティ」画面を開く。

「環境設定」プログラムの「スマートポインター連携1」または「スマートポインター連携2」の[マウスのプロパティ]をクリックします。

「マウスのプロパティ」の開きかた
下記の方法でも「マウスのプロパティ」画面を開くことができます。
- タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックする。
- 「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 各設定を行う。

＜ボタン設定画面＞

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンもしくは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）

右ボタンを押したときの機能を設定します。

（→次ページ）

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

◀スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションによって動作しない場合があります。
また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。

各設定画面の「デフォルト」ボタン
各画面ごとに、設定を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

<ボタンのオプション設定画面>

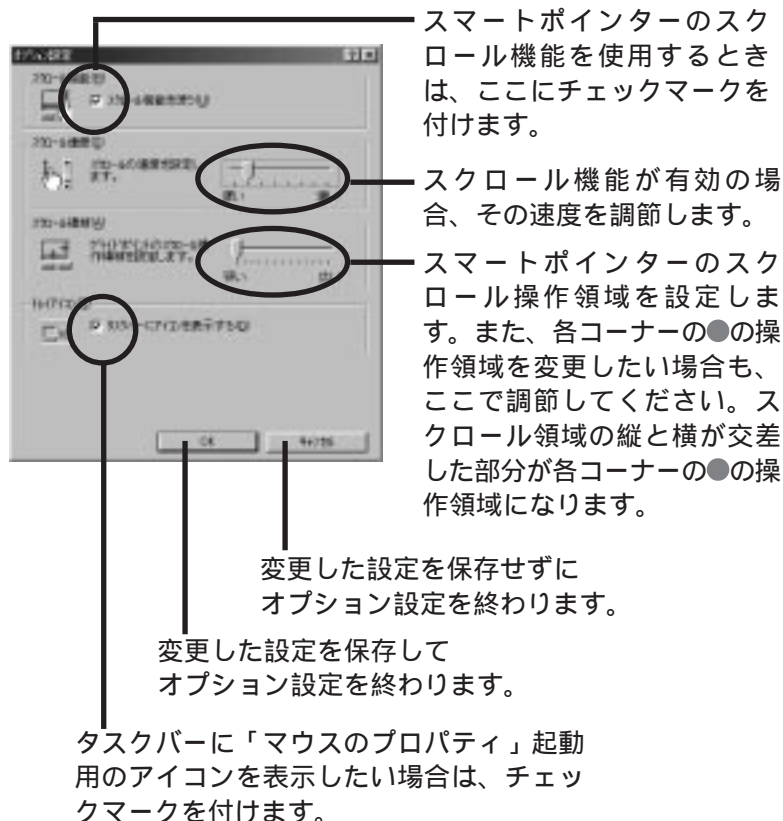
スマートポインターのスクロール機能を使用するときは、ここにチェックマークを付けます。

スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。

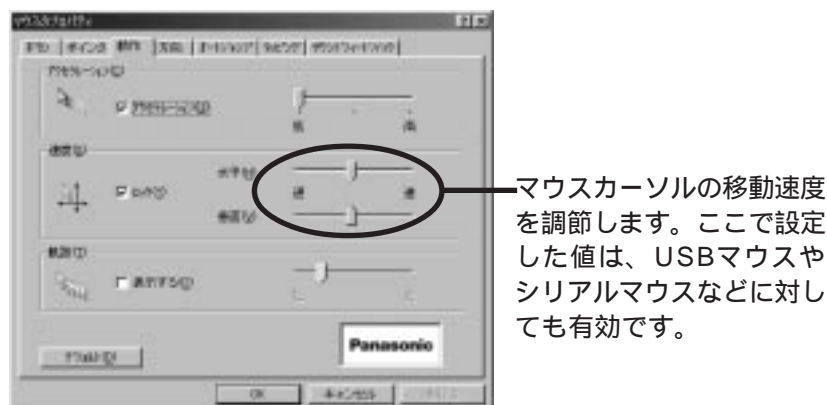
スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。また、各コーナーの●の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの●の操作領域になります。

変更した設定を保存せずにオプション設定を終わります。

変更した設定を保存してオプション設定を終わります。

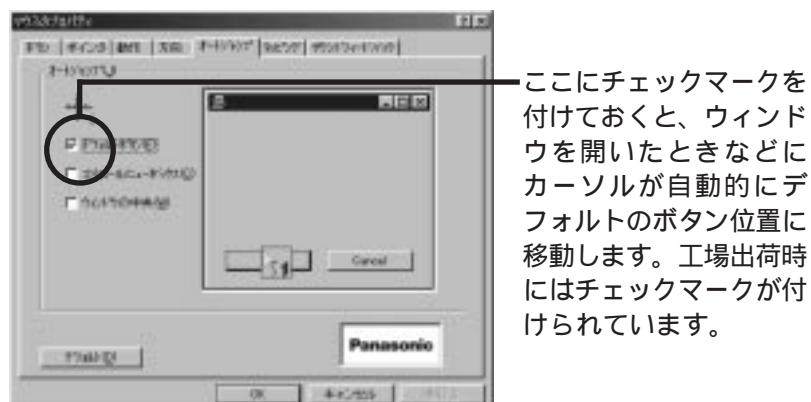
タスクバーに「マウスのプロパティ」起動用のアイコンを表示したい場合は、チェックマークを付けます。

◀「マウスのプロパティ」の「ボタン」設定画面で、[オプション]ボタンをクリックすると、左記の画面が表示されます。

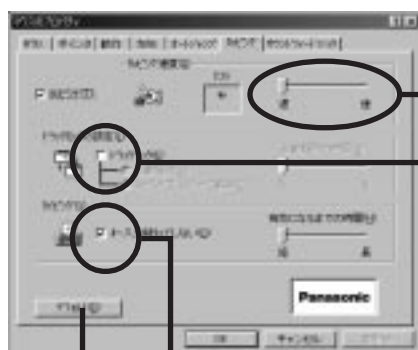
<動作設定画面>

マウスカーソルの移動速度を調節します。ここで設定した値は、USBマウスやシリアルマウスなどに対しても有効です。

◀「マウスのプロパティ」の[動作]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

◀マウスによっては、移動速度を調節しても、有効にならない場合があります。

<オートジャンプ設定画面>

ここにチェックマークを付けておくと、ウィンドウを開いたときなどにカーソルが自動的にデフォルトのボタン位置に移動します。工場出荷時にはチェックマークが付けられています。

◀「マウスのプロパティ」の[オートジャンプ]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

<タッピング設定画面>

操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、タップ操作でドラッグした後、手を離してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

ここにチェックマークを付けると、キー入力時はスマートポインターをタップしても反応しません。「有効になるまでの時間」で、キー入力後、タップ機能を有効な状態に戻すまでの時間を「短←→長」の間で設定します。工場出荷時には「短」に設定されています。必要に応じて調節し直してください。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

◀「マウスのプロパティ」の[タッピング]タブをクリックすると、左記の画面が表示されます。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、スタンバイや休止状態に入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

3 設定を終了する。

[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。

◀終了操作は、「ボタン」「タッピング」などの各設定画面から行うことができます。
（左記画面は一例です。）

ラウンチャー

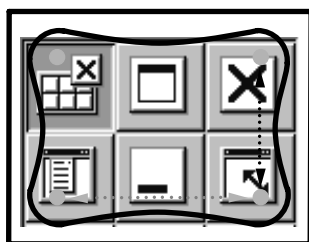
ラウンチャー画面（下記）から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Esc、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。
ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。

◀各操作モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

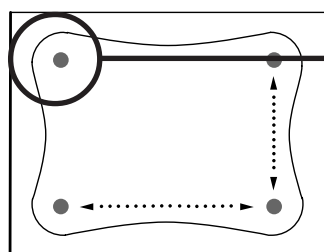
＜パッド操作モード＞

パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画または9区画に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。

◀何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→32ページ）で切り換えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）

＜マウス操作モード＞

マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

1 ラウンチャーを起動する。

スマートポインターの左上コーナーの●をダブルタップする。

ラウンチャーを起動するときは
- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→20ページ）
- スマートポインター上のコーナーの●をダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように、「環境設定（スマートポインター連携1）」（→23ページ）で設定しておいてください。工場出荷時には、左上コーナーの●をダブルタップすると起動するように設定されています。

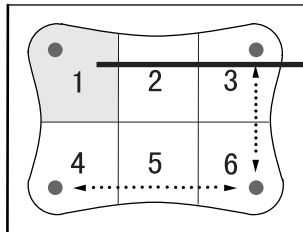
ラウンチャー起動時は

スマートポインター連携1や2の機能は働きません。（→21ページ）

使いかた 便利

クイックラウンチャー機能

2 登録されている操作を実行する。
＜パッド操作モード時＞

スマートポインター

スマートポインターの区画１をダブルタップする。

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

ラウンチャー画面

◀パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。

ダブルタップ時のお願い
・２回目のタップ時にも、すばやく手を離してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。
・スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

ラウンチャー画面のスクロール
スマートポインター上の縦矢印をこすると、ラウンチャー画面をスクロールさせることができます。また、カーソルキーを使ってスクロールすることもできます。

＜マウス操作モード時＞

ラウンチャー画面

ここを選んで（紫色表示させて）ダブルクリック

選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

◀選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

ラウンチャー画面のサイズ
必要に応じて変更できます。
画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

3 ラウンチャーを終了する。

<パッド操作モード時>

ラウンチャー画面に を表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルタップする。

<マウス操作モード時>

ラウンチャー画面の を選んで（紫色表示させて）、ダブルクリックする。

◀パッド操作モード時は、右ボタンをクリックしてラウンチャーを終了することもできます。

◀マウス操作モード時は、通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上の をクリックするなど）でラウンチャーを終了することもできます。

各アイコンの機能一覧

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

- ラウンチャーを閉じる
- ウィンドウを最大化する/戻す
- ウィンドウを閉じる
- ウィンドウのメニューに移動する
- ウィンドウを最小化する
- ウィンドウのサイズを変更する
- Esc キー
- Tab キー
- Enter キー
- スタートメニューを開く
- Windowsの終了メニューを開く
- メール自動送受信機能を起動する
- Outlook™ Express 5を起動する
- ワードパッドを起動する
- ダイヤルアップネットワーク画面を開く
- アクセスポイント設定画面を開く
- クイックラウンチャー環境設定画面を開く

・どのウィンドウもアクティブでない状態で を実行した場合、「スタート」メニューが開きます。

・どのウィンドウもアクティブでない状態で を実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。

・メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して を実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。

・ 実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

・アプリケーションによっては、メニューを表示中に、 や などサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。
また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

クイックラウンチャー機能

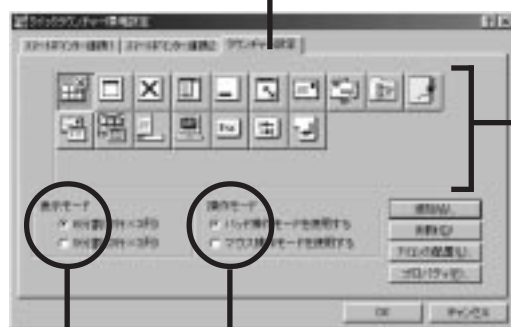
環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

クイックラウンチャーアイコンを ダブルクリック

◀クイックラウンチャーアイコンをクリックし、[環境設定] をクリックしても起動できます。

2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。

登録されている操作に対応したアイコンが表示されています。

操作モードを切り換えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。

パッド操作モード時に、スマートポインターを６分割して管理するか、９分割して管理するかを切り換えます。

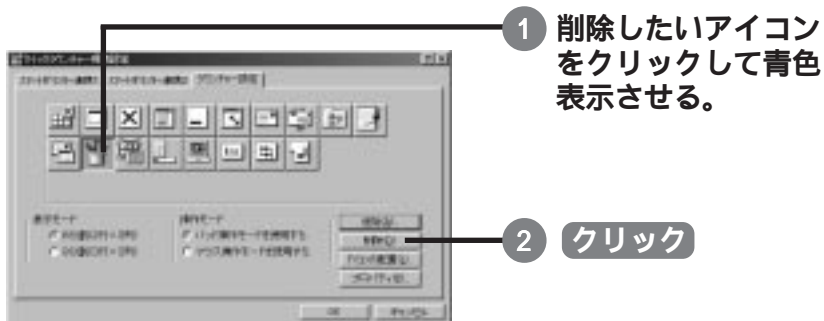
各操作モードについて
詳しくは→29、30ページ

◀工場出荷時には６分割に設定されています。

使いかた

便利

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。
<アプリケーションを登録する場合>

登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

◀ドラッグ＆ドロップで登録する方法と[追加]ボタンで登録する方法の2とおりがあります。（→下記）

登録できるファイル

・ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

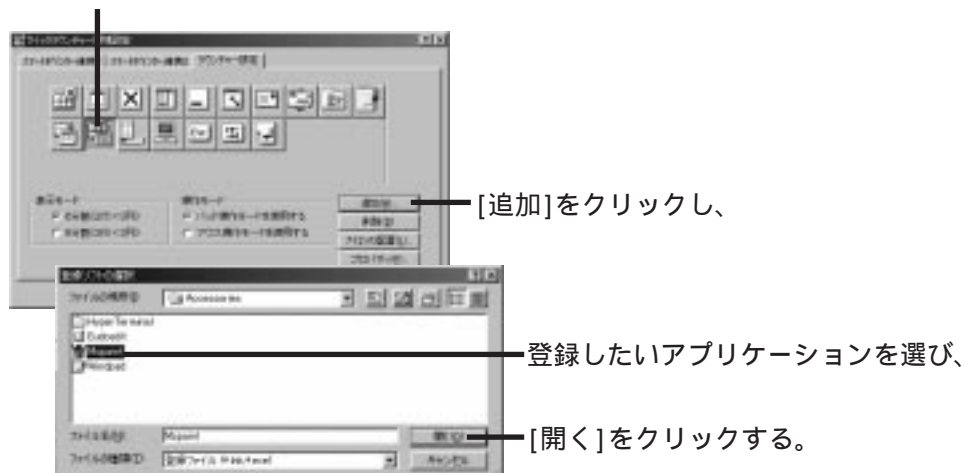
・最大24個まで登録できます。

<アプリケーションを削除する場合>

削除できないアイコン

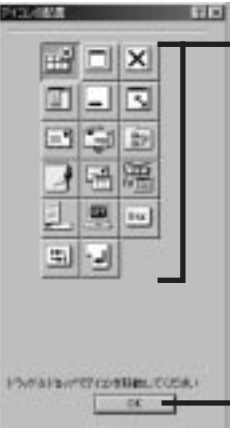
使いかた

便利

[追加]ボタンで登録する方法

クイックラウンチャー機能

<ラウンチャー画面のアイコンの順番を並べ替える>

使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。

1 [アイコンの配置]を クリック

2 アイコンをドラッグ＆ドロップして、位置を変更する。

3 並べ替えが終了したら、[OK]を クリック

使いかた

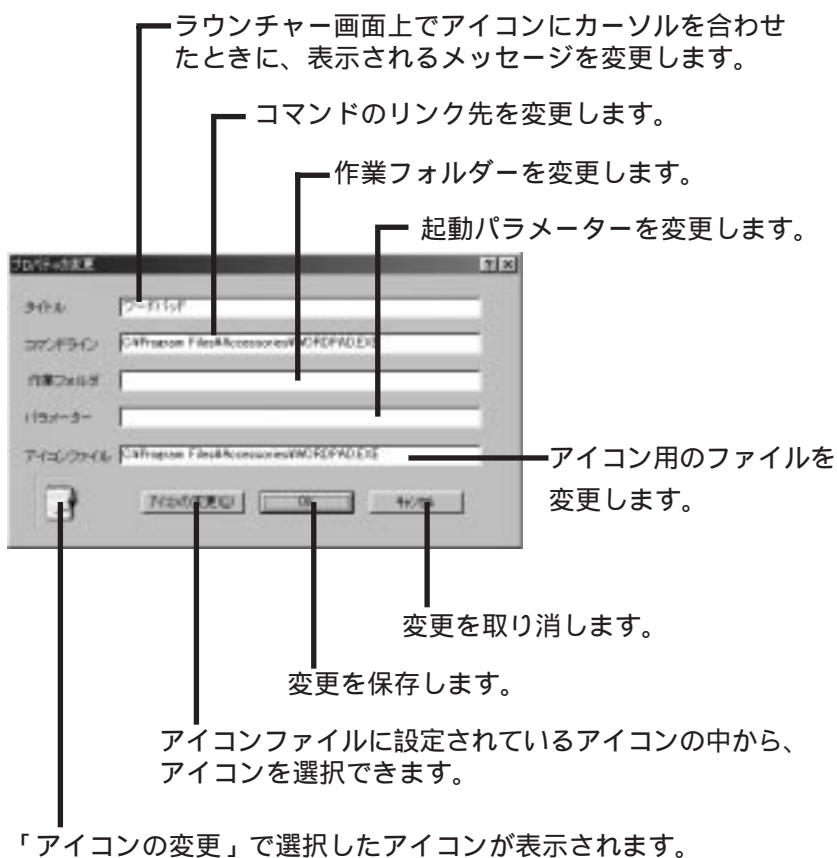
便利

アイコンの移動順序

アイコンは右記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へと
いうように、順に
空いた個所を埋めるように移動します。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

<プロパティを変更する>

下記の「プロパティの変更」画面が表示されます。

4 設定内容を確認して、[OK]をクリックする。

◀[OK]をクリックすると、設定内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了すると、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

＜スタンバイと休止状態の違い＞

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

お願い

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使う前に、必要なデータは保存してください。

◀休止状態に入るには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用として一定の領域が必要です。領域は、工場出荷時に確保してありますが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには、確保し直す必要があります。（→141ページ）

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

1. [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]を クリック
2. 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。
3. ← → を押して「省電力管理」メニューを表示する。

4. 「パワースイッチ」を「サスペンド」または「ハイバーネーション」に設定する。
5. ← → を押して「終了」メニューを表示する。
6. 「設定を保存して終了」を選んで Enter を押す。

◀設定はセットアップユーティリティーで行います。工場出荷時には、「スタンバイ（サスペンド）」に設定されています。

◀ F2 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。
その場合、Windowsを終了してやり直してください。

◀パワースイッチの行にカーソルをあわせて Enter を押し、「サスペンド」または「ハイバーネーション」を選びます。

◀セットアップユーティリティーでは「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼びます。

2 スタンバイまたは休止状態を使って終了する。
電源スイッチを右へスライドし、ピッという確認音が鳴ってから手を離す。

電源表示ランプ⏻
スタンバイ時：緑色点滅
休止状態時　：消灯

◀ Fn + F4 でスピーカーをオフにしたり、 Fn + F5 で音量をゼロに設定している場合、音は鳴りません。→124ページ

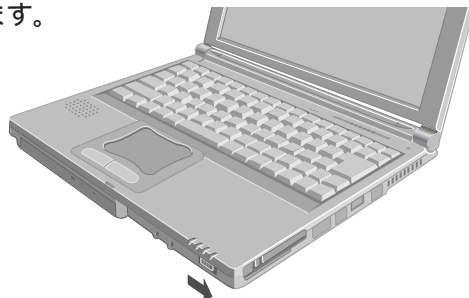
お願い

電源スイッチを４秒以上スライドしたままにしないでください。４秒以上スライドし続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。

使いかた　便利

操作を再開する

電源スイッチをスライドする。

電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されます。

◀バッテリー容量が少ない状態でスタンバイや休止状態に入るとリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターをつないでから電源を入れてください。

◀スタンバイ中、内蔵モデムの回線に電話がかかると、自動的にリジュームするように設定しておくこともできます。（→120ページ）

以下の場合は、スタンバイ（タイムアウト機能を含む）や休止状態に入らないでください

これらの機能や周辺機器が正常に動作しない場合があります。

- 通信ソフト動作中・ネットワーク使用中
- オーディオの録音・再生中
- PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置の使用中
- フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブ・CD-ROMドライブ・USB機器などの使用中

「スタンバイ」や「休止状態」の処理中およびリジューム時にしてはいけないこと

- 処理中はマウスなど、その他のシリアルデバイスを操作しないでください。
  操作を再開したときシステムに認識されないことがあります。そのようなときには、本体を再起動するか、デバイスを初期化し直してください。
- 処理中は、リセットスイッチを押さないでください。
  保存していないデータは失われます。
- リジューム時は、Windowsが完全に起動するまで、キーボード、スマートポインターなどを操作しないでください。

「スタンバイ」や「休止状態」に入れない

- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではディスプレイの電源が正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。
- 常駐ソフトウェアがある場合は、スタンバイや休止状態に入れないことがあります。

他の方法で「スタンバイ」や「休止状態」に入るには

＜スタンバイへの入りかた＞

- Fn + F10 を押す。
- [スタート]→[Windowsの終了]をクリックして「スタンバイ」を選ぶ。
- タスクバーのアイコンを右クリックして「スタンバイ」を選ぶ。

＜休止状態への入りかた＞

- Fn + F7 を押す。

用 語

リジューム　：スタンバイや休止状態から、次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを言います。

通信を行う前に

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、通信環境を整える必要があります。
以下に通信を行うための操作の流れについて説明します。

通信機器を準備する（接続・設置）　→次ページ

内蔵モデムと電話コンセントを接続する方法について説明します。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする　→42ページ

インターネットを行うためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使用すると、プロバイダーHi-HOにフリーダイヤルでダイヤルアップ接続し、オンライン上で加入手続きを行うことができます。また、手続き終了後、自動的にインターネットへの接続設定やメールアカウントの設定が行われます。
複雑な通信設定を自分で行う必要がないのでとても便利です。

◀Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合は、各プロバイダーにお問い合わせのうえ、加入手続きを行ってください。また、加入後の通信設定も各プロバイダーの指示に従って行ってください。

新しく接続先を設定する　→47ページ

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。

通信を行う

インターネットに接続したり、電子メールを送受信したり、また、専用のアプリケーションソフトを使用するとファクスの送受信を行ったりすることができます。

用 語

アクセスポイント　：プロバイダーへの接続ポイントです。あなたの使用場所に一番近いところを選びます。

通信機器を準備する

ここでは、内蔵されているモデムと電話コンセントを接続する方法について説明します。

電話回線に接続する

1 内蔵モデムと電話コンセントを接続する。

❶ モデムコネクターのカバーを開ける。

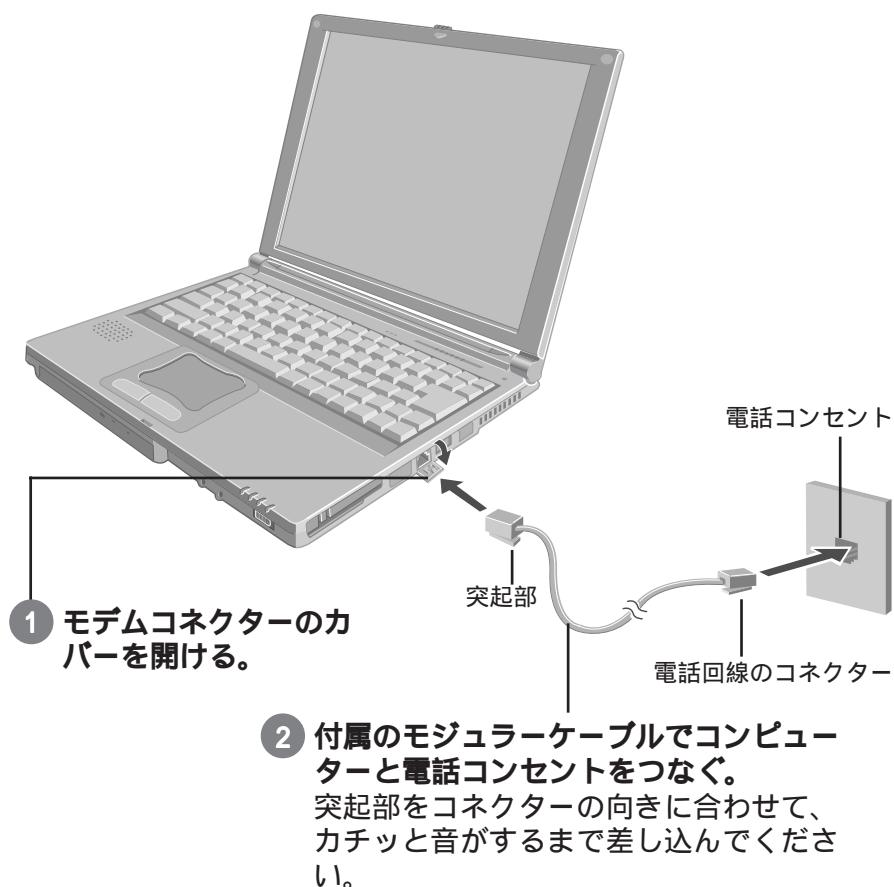
❷ 付属のモジュラーケーブルでコンピューターと電話コンセントをつなぐ。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

◀「インターネットスターター」を使って自動的に通信設定を行うためには、内蔵モデムをご使用ください。携帯電話やPHS電話からでは、「インターネットスターター」はご使用になれません。

お願い

右側のLANコネクターに接続しないでください。

◀取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。

◀日本国内の一般電話回線で使用してください。また、電話コンセントの形状によっては工事が必要な場合があります。
→41ページ

⚠注意

モデムは日本国内の一般電話回線で使用する

会社、事務所等の内線電話回線（構内交換機）やデジタル公衆電話のデジタル側コンセントに接続したり、海外で使用したりすると、火災・感電の原因になることがあります。

モデムのプロパティを設定する

「インターネットスターター」を使うと、自動的に通信設定を行いますので、下記の操作は必要ありません。42ページから始めてください。

1 [コントロールパネル]の[モデム]をダブルクリックする。

2 電話回線の種類を設定する。

「ダイヤルのプロパティ」を クリック

1 必要な項目を入力する

2 [OK]を クリック

[OK]を クリック

お願い

「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべてのモデムに共通です。「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。

◀「国名/地域」では「日本」を選んでください。

◀「市外局番」には使用場所の市外局番を入力してください。携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合は、「0」を入力してください。「市外局番」に何も入力しなければ、画面を閉じることができません。

◀「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
- トーン： ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線
- パルス： ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でFAX送信を行う場合などPTEサービスを利用するときは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。
- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合、お近くのNTTにお問い合わせください。

内蔵モデムの通信時の音量を調節するには

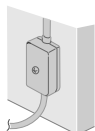
「ボリュームコントロール」画面（タスクバーの「音量」アイコンをダブルクリック）の「Phone」を使ってください。

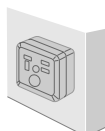
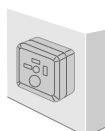
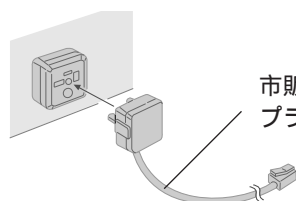
使用する電話回線について

モデムは、日本国内の一般電話回線で使用してください。
・会社、事務所等の内線電話回線等には、接続しないでください。
（→39ページの警告表示）
・以下の特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。
NTTのピンク電話の回線
ホームテレホン（接続ボックス）
玄関ドアホン等
日本国外の回線

電話コンセントの種類

電話コンセントの種類は、モジュラージャック、ローゼット、3端子（または4端子）ジャックなどがあります。電話回線とのつなぎかたは、端子の種類によって異なります。モジュラージャックの場合、付属のモジュラーケーブルをそのままつなぎます。

<ローゼットの場合>

最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。

<３端子（または４端子）ジャックの場合>

以下の2とおりの方法があります。
・最寄りのNTTに連絡して、モジュラージャックの取り付け工事を依頼してください。
資格のない方が工事をすることは認められていません。
・一方がモジュラープラグで、他方が3端子（または4端子）プラグのケーブル（市販品）を用意し、以下のようにつなぎます。

本機のご使用にあたって、NTTのレンタル電話機が不要となる場合は、NTTへご連絡ください。ご連絡いただいた日をもって、「機器使用料」は不要となります。詳しくは、局番なしの116番（無料）へお問い合わせください。

まいと〜く FAX V3 Liteについて

まいと〜く機能を使うと、コンピューター上でファクスの送受信を行うことができます。受信したファクスは印刷したり、そのまま他の人へ送信したりすることができます。詳しくは、付属の別紙『まいと〜く FAX V3 Liteのご案内』をご覧ください。

「インテル®WebOutfitter SMサービスのお申し込みへ！」について

画面上のをクリックすると、無料でインテル® WebOutfitter SMサービスに申し込むことができます。インテル® WebOutfitter SMサービスは、Pentium® IIIプロセッサーのオーナー様のみのサービスで、Webサイトへのリンクや Pentium® IIIプロセッサーをさらに活用するための特典などがたくさん用意されています。
お申し込みには、サービスプロバイダーとの接続とサービスプロバイダー接続料金および電話料金が別途、必要になります。
詳しくは、http://www.intel.co.jpをご覧ください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする(初回のみ)

インターネットに接続するにはプロバイダー（接続サービス会社）に加入する必要があります。
「インターネットスターター」を使うと、プロバイダーHi-HO（以後、Hi-HO）への加入手続きが画面上で簡単にできます。また、手続き終了後、インターネット接続やメールの送受信のための複雑な設定が自動的に行われるので、すぐにインターネットが使えて便利です。
ここでは「インターネットスターター」を使ってHi-HOに加入する方法について説明します。

◀Hi-HOに加入される場合は必ず、「インターネットスターター」をご利用ください。Hi-HO以外のプロバイダーに加入する場合は、デスクトップの「インターネットへ接続」を使用してください。

準備するもの

Hi-HOに電話をかけるために電話回線と接続します。（→39ページ）
入会の前に、あらかじめ次の準備をしておきましょう。

＜申し込みコースを決める＞
「Hi-HOのご案内」のパンフレット（付属）を見て決めておきます。

＜ご本人名義のクレジットカードを準備する＞
カードの会員番号や有効期限を入力する必要があります。

Hi-HOで利用できるクレジットカード
JCB・VISA・MASTER・DC・UC・ミリオン・NICOS・AMEX・ダイナース・Panaカード・松下カード（1999年11月現在）

＜希望するメールアカウントを決める＞
電子メールをやり取りするときに必要な「メールアカウント」（利用者を示す名称）の希望を決めておきます。
（「松下太郎」さんのメールアカウントの例）

Matsushita_Taro
Matsushita
M-Taro
Taro_chan

◀希望のメールアカウントが、すでに誰かに割り当てられている場合、そのメールアカウントは登録できません。

メールアカウントとして使用可能な文字
英数字とハイフン（-）、アンダーバー（_）を使い、4文字以上、16文字以下で決めます。

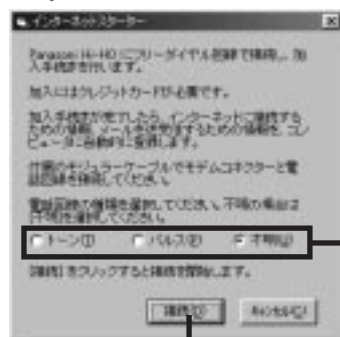
◀メールアカウントは、メールアドレスの一部として使用されます。
（例）
Matsushita_taro@dab.hi-ho.ne.jp

「インターネットスターター」による加入、設定について

- Hi-HOにフリーダイヤルで接続するため、加入手続き中の電話料金はかかりません。
- 加入・設定時は、内蔵モデムから通常のアナログ電話回線を使って操作してください。携帯電話やPHS電話は使用できません。また、ISDN回線は使用できません。
- ホームページ閲覧ソフトとして「Internet Explorer 5.0」、メールソフトとして「Outlook Express 5」を使用することを前提として、自動的に通信設定を行います。その他のソフトウェアをご使用になる場合は、別途、通信設定を行ってください。
- [コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

Hi-HOに加入し、通信の設定をする

設定が終わるまでに、約15〜20分かかります。
下記手順に従って、続けて操作してください。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

Hi-HOへ自動ダイヤルし、回線に接続します。

▼をクリックし、お申し込み手順などを、よく読む。

（次ページへ続く）

お願い

[コントロールパネル]→[パスワード]でWindows起動時のパスワードを設定している場合は、必ずWindows起動時にパスワードを入力しておいてください。

◀電話回線の種類について
- トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線。
- パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線。
- 不明　：トーンかパルスかが不明な場合に選んでください。まず、トーンで接続を開始し、つながらなければ、パルスで接続し直すかどうかの確認メッセージが表示されます。

◀このとき、[終了]をクリックすると、接続を切断し、「インターネットスターター」が終了します。

回線がつながらないときは
- 話し中の場合（回線が混雑しているとき）は、モジュラーケーブルの接続などを確認し、少し待ってから「インターネットスターター」の操作をし直してください。
- 電話回線の種類の設定が正しいか確認してください。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

1 ▼をクリックし、会員規約を、よく読む。

2 クリック

2 「加入申込書」に必要事項を入力する。

各欄の入力例や説明をよく読んで入力してください。

1 ▼を クリック

2 使用場所に一番近いアクセスポイントを クリック

1 Tab を押すとカーソルが表示されるので、入力する。

2 ▼をクリックし、最後まで入力する。

入力内容をよく確認し、クリック

お願い

加入申込書には「ご自宅ファックス」、「お勤め先・学校名」、「お勤め先電話番号」以外は必ずご記入ください。「ご自宅住所」には、ビル名や部屋番号などまできちんと入力してください。きちんと入力していないと、Hi-HOから資料などを郵送できない場合があります。

全角と半角（ローマ字・数字）

各項目とも、指定の通りに入力してください。Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに全角入力モードと半角入力モードが切り 換わります。

項目間のカーソル（Ｉ）移動

Tab を押す： 次の項目へ

Shift ＋ Tab を押す：一つ前の項目へ

「性別」

該当する方の○をクリックし、◉にします。

数字を入力する項目

「生年月日」やクレジットカードの「有効期限」など、１桁の数字を入力する場合、「03」のように数字の前に0を付けてください。

入力を間違えたら

間違えた文字の右側をクリックすると、カーソルが表示されます。Back space を押すと、カーソルの左となりの文字を消すことができます。

お願い

［登録］ボタンは、ダブルクリックしないでください。2重に登録される場合があります。

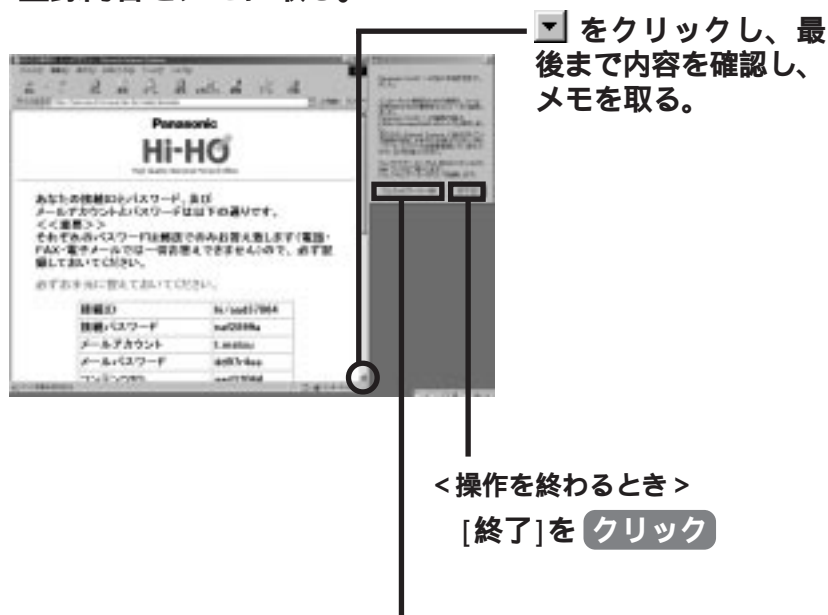
使いかた

コミュニケーション

加入手続きが終わると、Hi-HOに登録された情報が表示され、その情報がコンピューターに自動で設定されます。

3 登録内容をメモに取る。

▼ をクリックし、最後まで内容を確認し、メモを取る。

<操作を終わるとき>
[終了]を クリック

<ウェブナビゲーターを操作するとき>
[ウェブナビゲーター]を クリック
55ページへ進んでください。
（フリーダイヤルによる接続は、上記の画面までです。ウェブナビゲーターでインターネットに接続する場合は、料金が発生します。）

◀「ウェブナビゲーター」では、どのようなホームページがあるのか、幅広いジャンルのホームページを一覧表示してご紹介します。

必ずメモしておいてください

接続ID	
接続パスワード	
メールアカウント*1	
メールパスワード*2	
メールサーバー	
電子メールアドレス	

＊この情報は、「My Documents」フォルダーに「hi-ho.txt」というファイル名で保存されています。このファイルを開いて、参照することができます。（→『セットアップ編』「文書の呼出（ファイルを開く）」）

*1 メールアカウントが使えるようになるまで約3時間かかります。
*2 メールパスワードは、電子メール操作時に入力する必要があります（→62ページ）ので特に気をつけてメモしてください。
その他の情報は、インターネットスターターが自動で設定してくれます。

用 語

接続ID　　　　　：プロバイダーへの接続時に会員を識別するためのものです。
接続パスワード　：他人が自分の接続IDを使ってプロバイダーに接続するのを防ぐためのパスワードです。
メールアカウント：電子メールをやり取りするときに、利用者を示します。（→62ページ）
メールパスワード：メールサーバー上の電子メールを他人に無断で読み出されるのを防ぐためのパスワードです。
電子メールアドレス：電子メールの宛先（実際はプロバイダーが設置している「メールサーバー」というコンピューターの中の番地）です。

プロバイダーに加入し、通信の設定をする（初回のみ）

正式な会員証が届いたら

加入後、約10日後に、正式な会員証や説明書などの書類が郵送されます。
加入時にメモした登録情報と郵送された書類に違いがないか確認してください。
サーバー管理などのため、まれに「接続パスワード」などが、変更されていることがあります。そのような場合は、下記を参照して設定を変更してください。

お願い
郵送された書類は、大切に保管してください。

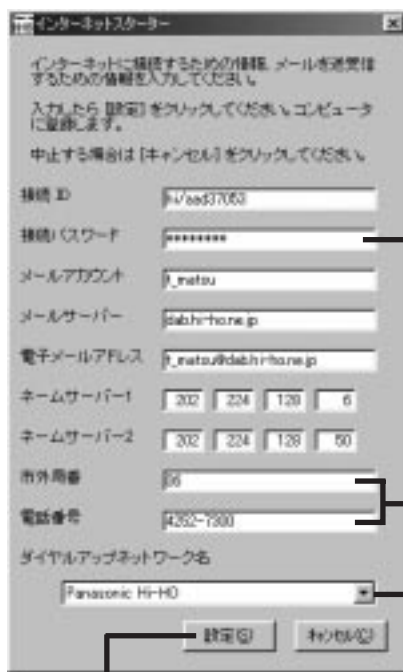
設定内容を変更するとき

接続パスワードが変更になったときやコンピューターの再インストール後、通信の設定を再度行いたいときには、「インターネットスターター」を使用して再設定することができます。

1 デスクトップの[インターネットスターター]アイコンをダブルクリックする。

◀再インストール後、再設定する場合は、まず「ダイアルアップネットワーク」で新しい接続を作成してから（→次ページ）、左記の操作を行ってください。

[再設定]を クリック

2 設定内容を変更する。

❶ 変更する項目を クリック し、入力し直す。

セキュリティ保護のため「*」で表示されます。

アクセスポイント電話番号

「インターネットスターター」によって、自動設定されたダイヤルアップネットワーク名

❷ 内容の変更が終わったら[設定]を クリック
その後、メッセージに従って操作してください。

ダイヤルアップネットワーク名
ダイアルアップネットワークとは、プロバイダーに接続する際のアクセスポイントとアクセスポイントへの接続方法（電話回線の種類、モデムなど）を設定したものです。
「インターネットスターター」では「Panasonic Hi-HO」という名前で自動設定されます。

◀再インストール後の再設定時には、▼をクリックして、新しく作成したダイヤルアップネットワーク名を選んでください。

新しく接続先を設定する

複数のアクセスポイントを使い分けたり、通信機器を使い分けたりする場合、「ダイヤルアップネットワーク」で「新しい接続」を作成します。ここでは、その方法について説明します。

通信機器の使い分けとは
携帯電話やPHS電話などを使って通信する場合など

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップネットワーク]をクリックする。

2 新しく接続を作成する。

◀初めて「新しい接続」を作成するときには、「ダイヤルアップへようこそ」画面が表示されるので、[次へ]をクリックしてください。

① 新しく作成する接続先に名称を付ける。

② 使用する機器にあったモデムを選択する。

◀Panasonic Internal Modem：
内蔵のモデムを使用する場合に選びます。

PHS電話を使ってデータ通信をする場合
PIAFS対応のアクセスポイントを選んでください。

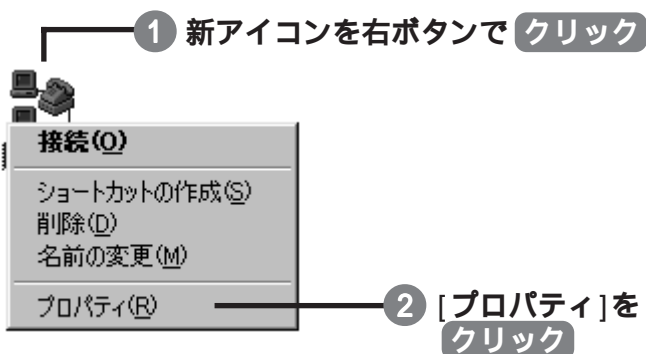
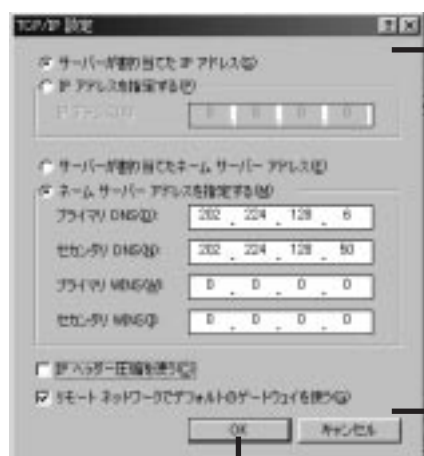
（次ページに続く）

使いかた

コミュニケーション

新しく接続先を設定する

設定した接続名を持つアイコンが追加されます。

3 サーバー情報を設定する。

(次ページに続く)

回線の種類の設定

使用する通信機器によって、電話回線の種類を設定し直す必要があります。

＜設定のしかた＞

①「コントロールパネル」の[モデム]をダブルクリックする。

②[ダイヤルのプロパティ]をクリックする。

③「ダイヤル方法」で回線の種類を選ぶ。

トーン：ダイヤル時にピッポッパッと音がする回線

パルス：ダイヤル時にピッポッパッと音がしない回線

- ご使用中の電話回線の種類がわからない場合は、お近くのNTTにお問い合わせください。
- 携帯電話をご使用時は、どちらに設定しても通信できます。
- PHS電話でファクス送信を行う場合などPTEサービスを利用するときは「パルス」を、それ以外は「トーン」を選んでください。

＜留意点＞

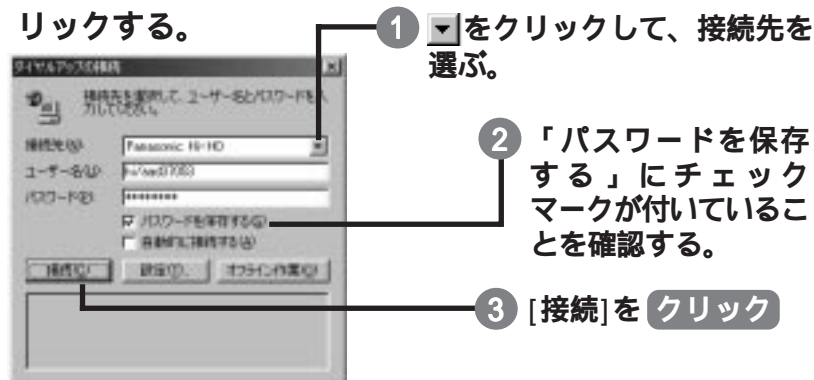
- 「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべての接続先（モデム）に対して共通です。「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。
- 携帯電話やPHS電話をお使いになる場合は、「ダイヤルのプロパティ」の設定で「市外局番」には「0」を入力してください。

インターネットに接続する

通信機器を接続し、プロバイダーへの加入と通信の設定（→39〜46ページ）が終わったら、「Internet Explorer（インターネットエクスプローラー）」を使ってインターネットに接続してみましょう。

◀「Internet Explorer」は、ホームページを見るためのソフトウェア（ブラウザー）の一つです。

「Internet Explorer」を起動する

1 デスクトップの[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。

プロバイダーへの接続が始まります。接続が終わると、Internet Explorerで、最初に表示するページとして設定されているホームページが表示されます。

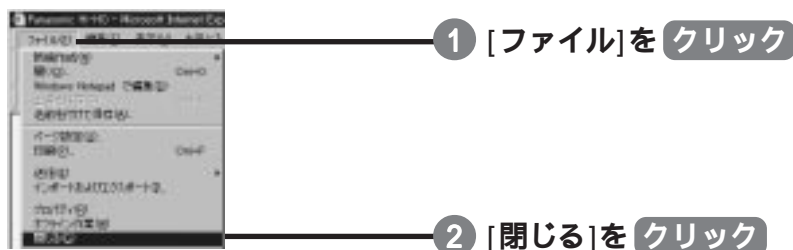
◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティー保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→47ページ）

◀左記は、「インターネットスターター」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

メールの自動送受信機能を使用してメールを送受信したい場合
必ず「パスワードを保存する」にチェックマークを付けておいてください。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

「Internet Explorer」を終了する

次のようにして、確実に接続を切断します。

◀接続終了の確認
接続を終了すると、画面右下のタスクトレイにある次のアイコンの表示が消えます。（接続時）

◀ウィンドウ右上の☒をクリックしても、「Internet Explorer」を終了することができます。

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

雑誌で見つけたホームページを見る

雑誌やカタログ、あちこちで目にする「http://」というURL（ホームページの番地）を入力すると、見たいページをすぐに表示することができます。ここでは、Hi-HOのホームページを表示します。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→前ページ）

2 URLを入力する。

しばらくすると、指定したホームページが表示されます。

◀Hi-HOのURLは、「http://home.hi-ho.ne.jp」です。（1999年11月現在）

◀必ず半角の英数字で入力します。半角の英数字にならないときは Alt ＋ 半角/全角 を押して、英数字入力モードに切り換えます。

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀Internet Explorerを終了するには→前ページ

表示が極度に遅いときには

画像の多いホームページを表示している、メモリーが不足している、または接続しようとした時間帯にホームページが非常に混雑しているなどが考えられます。

URL によく使われている記号の入力方法

- チルダ（~）は Shift ＋ ^
- スラッシュ（/）は /、ピリオド（.）は .、コロン（:）は :
- アンダーバー（_）は Shift ＋ \

用語

URL　：インターネット上でホームページなどのデータの場所を示す番地のようなものです。

インターネットに接続する

ホームページの見かた

現在開いているホームページの番地（URL）が表示されています。

スクロールバー

ポインターが矢印から手の形になる所を クリック
その先のホームページ(リンク先)を表示できます。

[戻る]を クリック
一つ前のホームページに戻ることができます。

◀画面を最大にする

□をクリックすると、ホームページのウィンドウを最大にすることができます。（→取扱説明書『セットアップ編』）

◀スクロールバーをドラッグ、または▼▲をクリックすると、下または上に続いているホームページを見ることができます。

◀戻る と 進む

いくつかのホームページを開いたときに、簡単に前に戻ったり、次に進んだりすることができます。いろいろなページを開いてみましょう。

◀Internet Explorer を終了するには
→50ページ

オフライン(回線断)の状態でホームページの内容を読む

ホームページをじっくり見るときは、[ファイル]→[オフライン作業]をクリックする（ウィンドウ上部に「オフライン作業」と表示される）と、回線を切断した状態で[Internet Explorer]を表示することができます。（料金を節約することができます。）別のホームページに進もうとすると、下記のメッセージが表示されますので、[接続]をクリックします。

そのほかの便利な機能

ホーム：インターネット接続時に最初に表示されたホームページに戻ります。

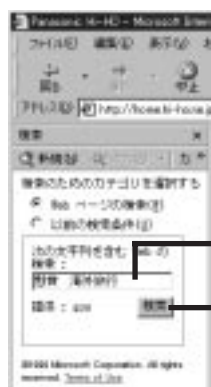
検索：キーワード（言葉）をもとに、見たいホームページを表示します。（→次ページ）

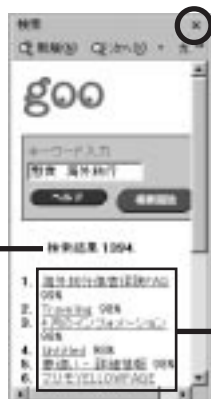
お気に入り：よく見るホームページを登録し、すぐに表示することができます。（→54ページ）

履歴：表示したホームページのURLの履歴を見ることができます。

見たいページを探す

「こんなホームページが見たいな」という場合、キーワードを入力して、ホームページを探すことができます。
たとえば、「海外旅行の懸賞に応募したい」ときは「懸賞」「海外旅行」などをキーワードとして見たいページを探せます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→50ページ）

[検索]を クリック

検索条件に合致したホームページの件数が表示されます。

[×]をクリックすると、検索を終了することができます。

検索結果が表示されるので、いずれかのホームページタイトルを クリック

2 インターネットへの接続を終わる。（→50ページ）

◀「どんなホームページがあるのかな」という場合には、「ウェブナビゲーター」が便利です。（→55ページ）

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押すごとに日本語入力モードを英数字入力モードに切り換えられます。

キーワード入力のコツ
検索されたページが多すぎて探しにくい場合は、複数のキーワードを入力してください。その際、スペースや｜で区切るのが一般的です。

◀インターネットへ情報を送信する場合、いくつか、警告のメッセージが表示される場合があります。確認後、[はい]をクリックします。

◀[戻る]をクリックすると、検索を始める前の画面に戻ることができます。

インターネットに接続する

気に入ったページを登録する

よく利用するホームページは、「お気に入り」に登録しましょう。「お気に入り」に登録しておくと、「URL」を入力することなくメニューから選ぶだけで簡単に表示できます。

1 「Internet Explorer」を起動する。（→50ページ）

2 お気に入りに登録したいホームページを表示させる。

3 登録する。

① [お気に入り] を クリック

② [お気に入りに追加]を クリック

◀ をクリックして登録することもできます。

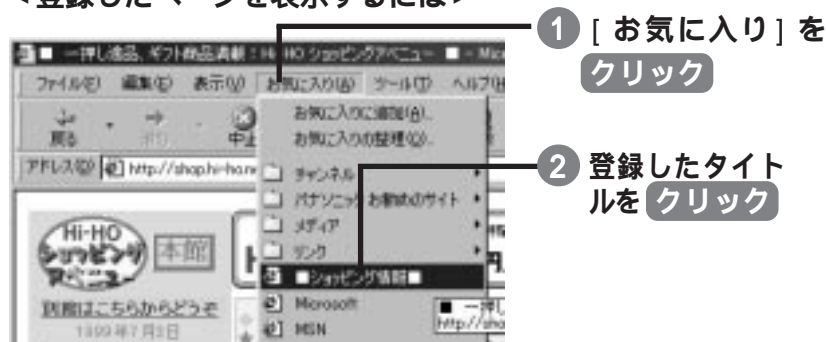
① タイトルを入力、確定する。

② [OK]を クリック

◀名前の欄をクリックすると、文字を入力できるようになります。

<登録したページを表示するには>

① [お気に入り] を クリック

② 登録したタイトルを クリック

◀「お気に入り」のメニューから削除したいときは
[お気に入りの整理]をクリックし、削除したいタイトル名をクリックして、[削除]→[はい]→[閉じる]をクリックします。

◀「お気に入り」にあらかじめ登録されているホームページは削除することができません。

4 インターネットへの接続を終わる。（→50ページ）

最初に表示するページを設定するには

①最初に表示したいホームページを表示する。
②[ツール]→[インターネットオプション]をクリックする。
③[全般]→[現在のページを使用]をクリックし、[OK]をクリックする。

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

ウェブナビゲーターを使用する前に

ウェブナビゲーターを使用するには、以下の準備が必要です。

・電話回線に接続してプロバイダーに加入し、通信の設定をしてください。（→39〜46ページ）。
・画面のプロパティで、画面の領域を1024×768ピクセル、色をHigh Color (16ビット)以上、詳細設定を「小さいフォント」に設定してください。

◀工場出荷時は、1024×768ピクセル、High Color （16ビット）、「小さいフォント」に設定されています。

ウェブナビゲーターの楽しみかた

<まずは、ネットサーフィン>

どんなホームページがあるの、
どうしたらもっとホームページを楽しめるの？というときに。

ウェブナビゲーターを起動してホームページ情報を取得します。取得後は、オフラインになるので料金がかかりません*。いろいろなホームページを見てみましょう。

ジャンル別に６分割画面で表示されるので、いろいろなページが一目でわかります。

画面は一例です。

ホームページ取得とは
・本機にはあらかじめたくさんの厳選されたホームページリスト（URL集）が登録されています。（ホームページリストは更新できます。→下記）
・ホームページリストをもとにインターネットに接続し、最大24個（工場出荷時は18個）のホームページ情報を自動で取得します。

◀登録されているURLが提供者側で休止、終了された場合、そのホームページの内容を取得・表示できなくなることがあります。

<さらに使い込む>

好みや趣味に合ったホームページをどうやって探そう？というときや気に入ったホームページを集めたいというときに。

・６つの画面の中には、「おまかせ」の画面があります。「おまかせ」の画面では、年齢、性別やどのようなホームページをよく見ているかの記録から、コンピューターがあなたに合ったホームページを抽出して紹介します。
・「Internet Explorer」（→50ページ）の「アドレス」や「お気に入り」、また「スタート」メニューの「お気に入り」から上記の画面にドラッグ＆ドロップするだけで、お気に入りのホームページをウェブナビゲーターに集めることができます。（→59ページ）

<ホームページの更新>

必要に応じて簡単にホームページの情報を更新できます（→60ページ）。また、ホームページリスト（URL集）も更新できますので、最新の情報を入手することができます（→61ページ）。

*リンク先のホームページを表示する場合、インターネットに接続するため、料金がかかります。また、オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

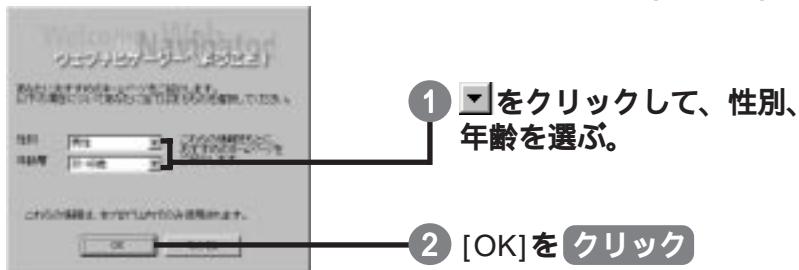
ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

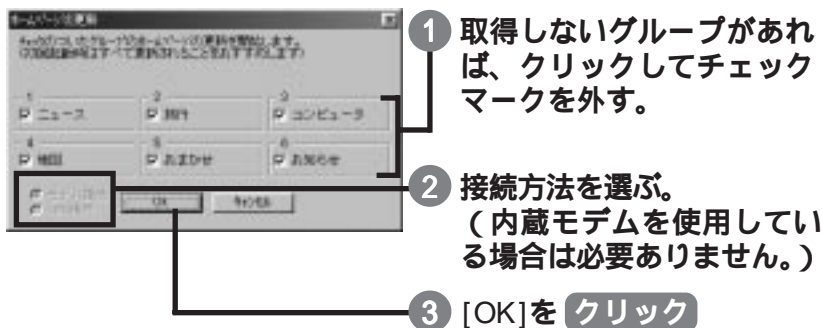
ウェブナビゲーターを起動する

インターネットスターター（45ページの画面）に続けて操作する場合は手順2から、デスクトップから操作する場合は手順*1* から操作してください。

1 [ウェブナビゲーター]アイコンをダブルクリックする。

<インターネットスターターを使って通信設定を行った場合（初回のみ）>
「ウェブナビゲーターへようこそ」画面で[OK]をクリックする。

<インターネットスターターを使わずに通信設定を行った場合（初回のみ）>

この後、画面の指示に従って[OK]をクリックする。

2 ホームページの情報を取得する（初回のみ）。

「ダイヤル中」の画面が表示された後、画面右側の「ホームページの更新」画面に取得中のホームページが表示されます。１つ取得するごとに、６分割された画面にはめ込まれていきます。

2回目以降は、前回に取得した情報をもとにして、すぐにウェブナビゲーターの画面が表示されます。

3 更新終了のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックする。

<ウェブナビゲーターを終了する場合>
ホームページの更新中は、終了できません。

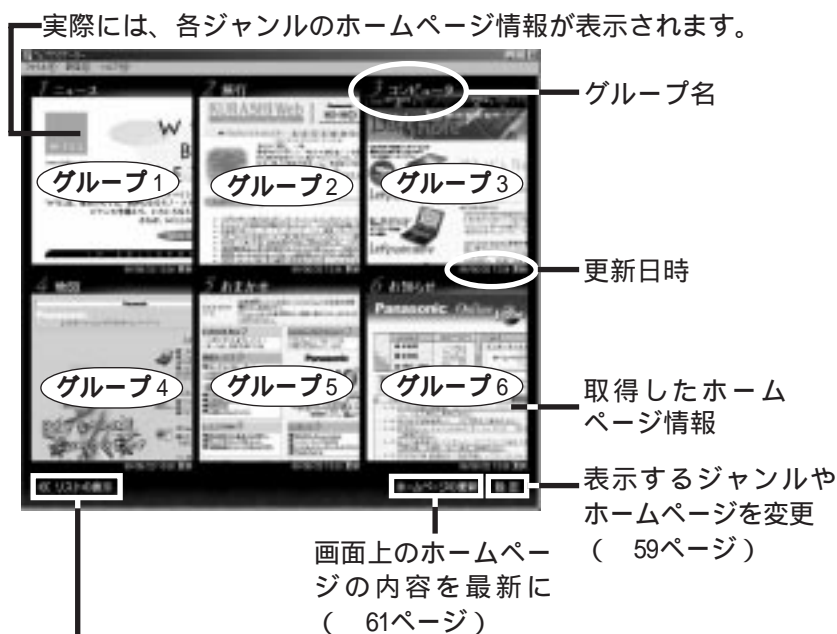
・ウィンドウ右上の☒をクリックしても、終了することができます。

手順 *2* の接続方法の選択について
接続は、Internet Explorerの[ツール]→[インターネットオプション]→[接続]で設定されている接続方法によって異なります。
・「ダイヤルしない」または「通常の接続でダイヤルする」に設定している場合は、手順2で接続方法を選択できません。
・「ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする」に設定している場合は、手順2で「モデム接続」か「LAN接続」かを選んでください。

◀表示されているグループ名は、登録されている年齢、性別などにより異なります。

◀ホームページの取得にはインターネットへ接続するため、接続料金、電話料金がかかります。（オンライン）
接続時間は自分で設定することができます。（工場出荷時は最長約14分間接続します。→61ページ）

お願い
・ホームページ取得中、「ホームページの更新」画面に対して操作をしないでください（スクロールバーを動かす、画像の上に別ウィンドウを表示させる、マウスでクリックするなど）。取得後、ホームページを正しく表示できなかったり、正しく動作しなくなることがあります。
・回線の状況などにより、１つのホームページを１分以内に取得できない場合、そのホームページは表示されません。
・認証、Javaアプレットのロードなどにより、取得できないホームページや、Javaアプレットやスクリプトなどによって表示内容が自動的に変化するようなホームページは表示されません。

ウェブナビゲーターの画面を見る

クリック

画面上のホームページのリスト（タイトルのみ）を表示します。

リスト

リストの表示をやめるには：[リストを隠す]を クリック

◀ここからは、インターネットに接続していませんので、電話料金、接続料金はかかりません。（オフライン）

お願い

オンライン状態からホームページの更新を行った場合などは、取得後もオンライン状態が続きます。その場合は接続を切断し、オフライン状態にしてから閲覧するようにしてください。

◀１つのグループに、ホームページが３種類ずつ、一定間隔で順番に表示されます。（工場出荷時は約1秒間隔に設定されています。→61ページ）

◀ホームページの内容は随時、変更されています。左記の画面は一例で、実際の内容と異なる場合があります。

◀画面に表示されるのは、全ホームページリスト（URL集）のうち、ホームページ情報を取得したもののみです。

◀リスト上のタイトルをクリックまたはダブルクリックすると、「Internet Explorer」が起動し、そのホームページを表示します。

６つのグループについて

<おまかせ>

登録した性別、年齢やどのようなホームページをよく見ているかの記録などをもとに、コンピューターがあなたにあったホームページを提案します。「おまかせモード」ともいいます。

<お知らせ>

当社の製品情報などをお知らせするホームページを表示します。「お知らせモード」ともいいます。

<その他>

グループ名が「おまかせ」「お知らせ」以外のグループでは、グループ名や表示するホームページを変更できます。「設定モード」ともいいます。

- グループ１〜３は「設定モード」以外のモードに変更できません。
- グループ４〜６は「おまかせモード」、「お知らせモード」、「設定モード」のいずれかに変更することができます。

幅広くホームページを閲覧する（ウェブナビゲーター）

「Internet Explorer」で詳しく見る

お好みのホームページが表示されたら：
そのホームページ上を ダブルクリック

☒ をクリックすると、「Internet Explorer」を終了します。

矢印が ☝ の形に変わった所をクリックすると、その項目に関連する（リンク先の）ページが表示されます。

・画面取得後に、実際のホームページが変更になり、指定したリンク先がない場合があります。その場合は、メッセージが表示されます。必要に応じて、ホームページの更新を行ってください。（→60ページ）
・「データ更新中」と表示されることがあります。これは、どのようなホームページをよく見ているかの情報を集め、次回の「おまかせ」に生かすためです。

◀「Internet Explorer」が起動し、その内容が開きます（通常、オフライン）。ホームページによってはインターネットへの接続が必要な場合があります。その場合、接続するかどうかを確認するメッセージが表示されます。また、Internet Explorerなどがすでに起動されていてオンライン状態の場合は、オンライン状態で開きます。

◀リンク先のページを表示する場合、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。（オンライン）
インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。（→39ページ）

◀Internet Explorerの使いかたについて詳しくは→50ページ

「おまかせ」「お知らせ」のホームページを残しておく

「おまかせ」「お知らせ」では、更新のたびに違ったホームページを取得し、表示します（ほかのグループでは同一のホームページを更新するのみ）。「おまかせ」「お知らせ」のホームページが気に入った場合、そのホームページをドラッグ＆ドロップするだけで、ほかのグループに移動し、残しておくことができます。

1 移動したいページが表示されたときに矢印をあわせ、左ボタンを押す。

2 左ボタンを押したまま、移動先のグループ上へドラッグし、左ボタンを離す。
（ドラッグ＆ドロップ）

◀「おまかせ」または「お知らせ」へ登録することはできません。（「おまかせ」、「お知らせ」からほかのグループへの移動はできます。）

◀一つのグループに登録できるホームページは４つまでです。必要に応じて、ホームページを削除してから登録してください。（→下記）

登録されているホームページを削除する

目的のホームページが表示されたときに右ボタンをクリックし、[削除] を選択します。削除すると、次回の更新時から表示されなくなります。

お気に入りのホームページを集める

「Internet Explorer」のアドレス欄やお気に入りに登録したホームページから、また「スタート」メニューの「お気に入り」からドラッグ＆ドロップするだけで、お気に入りのホームページをウェブナビゲーターに集めることができます。

❶ 登録したいURLを、目的のグループにドラッグ＆ドロップする。

＜Internet Explorerのアドレス欄からの場合＞

❷ メッセージを確認して、[OK]を クリック

❸ ホームページ情報の更新をする（→60ページ）。

◀「おまかせ」または「お知らせ」へ登録することはできません。

◀一つのグループに登録できるホームページは４つまでです。必要に応じて、ホームページを削除してから登録してください。（→前ページ）

登録されているホームページを削除する
目的のホームページが表示されたときに右ボタンをクリックし、[削除]を選択します。削除すると、次回の更新時から表示されなくなります。

表示するジャンルやホームページを変更する（設定）

画面に表示するジャンルやホームページを、約50ジャンル、約160種類のホームページから選んで、変更することができます。

1 クリック

❶ 変更するグループの○を クリック

❷ 必要に応じて、変更する。
（→次ページ）

変更した設定を元に戻すことができます。

❸ クリック

◀ウィンドウ左上の[設定]→[ホームページの設定]でも、左記の設定画面を表示することができます。

グループ名
「モード選択」でおまかせモードやお知らせモードから設定モードに変更した場合は、「新しいグループ」と表示されます。好きな名称に変更してください。（空白にすると、設定を保存できません）。

モード選択
「グループ」で1～3を選んだ場合、設定モードしか選択できません。また、お知らせモードに設定できるのは、4～6の1つのグループのみです。

ホームページを幅広く閲覧する（ウェブナビゲーター）

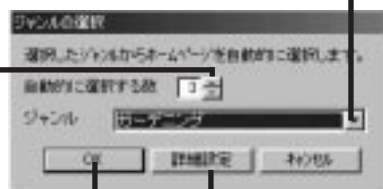
ジャンルの選択について

●「モード選択」が「設定モード」の場合

<自動設定>

①前ページの手順1の画面で、[ジャンル選択]をクリックする。

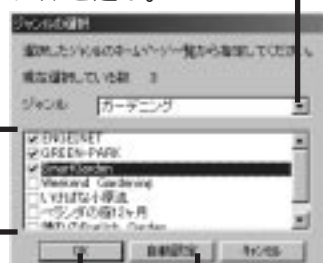
②ここをクリックして、ジャンルを選ぶ。

③ここをクリックして、自動で選択するホームページの数を選ぶ。

④クリックする。

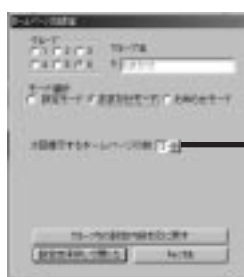
<詳細設定>

①上記画面で、[詳細設定]をクリックする。

②ここをクリックして、ジャンルを選ぶ。

③目的のホームページにチェックマークを付ける。

④クリックする。

自動設定画面（→上記）に戻ります。

●「モード選択」が「おまかせモード」または「お知らせモード」の場合

表示するホームページの数を選びます。

2 ジャンルなどを変更したグループのホームページ情報を更新する（→下記）。

◀選択中のグループのジャンルを変えることができます。

自動設定

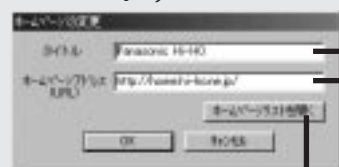
選んだジャンルのホームページをコンピューターに自動的に選択させる場合に、その数を設定します。

詳細設定

自分でホームページを選択したい場合は、「詳細設定」を選択します。１～４個までお好みのホームページを選択できます。

ホームページの変更と追加

前ページ手順1の画面で[変更]または[追加]をクリックすると次の画面が表示されます。

タイトルやURLを変更できます。（空白のままでは設定を終了できません。）

ここをクリックすると、あらかじめ登録されているホームページリストの中から選ぶことができます。

ホームページの更新

インターネットに接続し、画面上のホームページ情報を更新することができます。本ソフトの２回目以降の起動時に、必要に応じて更新してください。（URLがホームページの提供者側で休止、終了された場合、そのホームページを取得できなくなる場合があります。）

以下のような場合には、エラーメッセージが表示されます。必要に応じてホームページの更新を行ってください。

- ホームページが変更になり、リンク先に接続できない場合
- 「Internet Explorer」の[ツール]→[インターネットオプション]で「ファイルの削除」を実行した場合※

◀ホームページの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。
インターネットへ接続する際には、電話回線の接続を確認してください。（→39ページ）

※取得したホームページは特別なフォルダーにファイルとして一時的に蓄えられます。これらのファイルを消すとウェブナビゲーターでホームページ情報を見られなくなります。

使いかた　コミュニケーション

❶ 更新しないグループがあれば、クリックしてチェックマークを外す。

❷ [OK]を クリック

２回目以降の更新時、[確認]ボタンが表示されます。クリックすると、コンピューターが「おまかせ」「お知らせ」で新たに取得するホームページを確認できます。

<[確認]をクリックしたときの画面例>

取得するホームページを変更することができます。

❸ 更新完了のメッセージが表示されたら[OK]を クリック

更新について

制限時間内（工場出荷時最長約14分*、１つのホームページあたり最長約１分以内）にすべて更新できなかった場合でも、途中までのデータは蓄えられます。そのため、２回目以降は同じページを速く更新できます。

＊下記の詳細設定で接続時間の制限（時間制限）を変更できます。

◀更新中、スクリーンセーバーは起動しません。

◀更新すると、「おまかせ」「お知らせ」のホームページは変更され、以前の内容は失われます。現状のホームページを残しておきたい場合、そのホームページをほかのグループに移しておいてください。（→58ページ）

表示スピードや更新時の条件を変更する（詳細設定）

画面上でホームページが切り換わる速さを変えたり、ホームページ更新時のさまざまな条件を変更できます。また、最新のホームページリスト（URL集）に更新できます。

❶ 「設定」を クリック

❷ 「詳細設定」を クリック

設定されている「ダイヤルアップの設定」を選んだり、「新しい接続」を設定したりすることができます。

◀▶をクリックするか、□をドラッグして設定します。

時間制限：3分〜30分

切り換えの速さ：0.5秒〜5.0秒

画面切り換えの表示方法を選びます。お好みに応じて変更してください。

インターネットに接続して、Hi-HOのホームページから最新のホームページリスト（URL集）を取得します。画面の指示に従って操作してください。

クリック

お願い

省電力機能「PowerPanel」の「ビデオオフ」は、「オフ」または接続時間よりも長い時間に設定しておいてください。更新中にディスプレイの電源が切れた場合、６分割画面でのホームページの表示が正しく行われません。

◀接続設定が正しくないと、ホームページを更新できません。「Internet Explorer」などを使って、この設定でインターネットに接続できること確認した後、ウェブナビゲーターを起動してください。

◀ホームページのデータ量や更新時の回線の状態によっては、すべてのホームページを更新するために、インターネットへ接続する時間を延長する必要がある場合があります。

◀ホームページリストの更新は、インターネットに接続しますので、電話料金、接続料金がかかります。

URL集は、データ料金なしで取得できます。

電子メールを送受信する

通信機器を接続し、プロバイダーに加入し、通信の設定が終わったら（→39～46ページ）、メールソフトの「Outlook™ Express 5（アウトルックエクスプレス）」を使って、メールを送受信してみましょう。

◀以降Outlook Expressと記載します。

電子メールを送信する

1 デスクトップの「Outlook Express」アイコンをダブルクリックする。

❶ 変更する場合は、▼をクリックし、接続先を選ぶ。

（→右記）

❷「接続」を クリック

◀自分で新しく設定したダイヤルアップ接続を選ぶこともできます。その接続を初めて使用する場合には、ユーザー名とパスワードに何も表示されませんので、自分で入力してください。パスワードはセキュリティー保護のため「*」で表示されます。
（ダイヤルアップ接続の作成方法→47ページ）

❶ 登録したメールアカウントになっていることを確認する。

❷ メールパスワードを入力する。（→45ページ）

（→右記）　❸「OK」を クリック

◀左記は、「インターネットスタータ－」により自動作成された「Panasonic Hi-HO」を使用する場合を例にしています。

パスワードを保存する
この項目をクリックして、チェックマークを付けておくと、次回からパスワードの入力が不要です。

2 メッセージを作成する画面を表示する。

<初期画面>

「メッセージの作成」を クリック

3「宛先」を入力する。

❶「宛先」にポインターをあわせて クリック

<メッセージの作成画面>

❷ メールアドレスを半角の英数字で入力する。

◀最初は試しに自分宛にメールを送ってみましょう。

◀ Alt ＋ 半角/全角 を押して英数入力モードに切り換えると、英数字を入力できるようになります。

メールアドレスに使われる記号の入力方法

・アットマーク（@）は ＠ 、ピリオド（．）は ＞．る 、ハイフン（-）は ＝ - ほ

・アンダーバー（＿）やチルダ（～）については→51ページ

使いかた　コミュニケーション

4 「件名」を入力する。

❶ ポインターをあわせて クリック

❷ 件名（タイトル）を入力する。

◀電子メールには、半角のカタカナと丸付き数字（①②）などの特殊文字は使わないでください。相手先で読めなくなる場合があります。

5 「本文」を入力する。

❶ ポインターをあわせて クリック

❷ 本文を入力する。

6 送信する。

[送信]を クリック

メールが送信されます。

◀送信と同時にメッセージの作成画面を終了し、「Outlook Express」の初期画面に戻ります。

送信トレイにメールを入れるには

[送信]ボタンをクリックするかわりに、[ファイル]→[後で送信する]をクリックしてください。

[送信トレイ]の中のメールの送信

[送受信]ボタンをクリックすると送信されます。

また、Outlook Express終了時に[送信トレイ]にメールが残っている場合は、送信するかどうかの確認メッセージが表示されます。

＜「Outlook Express」を終わるには＞

☒を クリック

「今すぐ切断する」を クリック

◀この画面は、他の画面の後ろに隠れてしまうことがあります。その場合、タスクバーの「自動切断」をクリックしてください。

アドレス帳を利用する

よくメールを送る相手のメールアドレスは、アドレス帳に登録しておくと便利です。

アドレス帳に登録する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
(→62ページ)

[アドレス]を クリック

2 アドレス帳に新規登録する。

1. [新規作成]を クリック
2. [新規の連絡先]を クリック

1. 「姓」「名」を入力する。
2. メールアドレスを入力する。
3. [追加]を クリック
4. [OK]を クリック

3 アドレス帳を終わる。

×を クリック

登録したアドレス

◀メッセージの作成画面(→62ページ)からアドレス帳に登録する場合は、「ツール」→「アドレス帳」を順にクリックしてください。

◀受信メール一覧画面(→67ページ)でも[アドレス]をクリックしてアドレス帳に登録することができます。

◀Alt + 半角/全角 を押すごとに、日本語入力モードと英数字入力モードが切り換わります。

◀表示名
姓名の欄に入力した内容がそのまま「表示名」に表示されます。必要に応じて変更してください。「表示名」は、アドレス帳からメールアドレスを入力したときに、「宛先」として表示されます(→次ページ)。

使いかた

コミュニケーション

登録したメールアドレスを入力するには

1 「Outlook Express」のメッセージの作成画面を表示する。
（→62ページ）

2 アドレス帳のメールアドレスを宛先に入力する。

アドレス帳からメールアドレスを削除するには

1 アドレス帳の画面を表示する。（→前ページ、手順*1*）

1 削除するアドレスを クリック

2 [削除]を クリック

3 確認メッセージが表示されたら[はい]を クリック

2 アドレス帳を終わる。

使いかた

コミュニケーション

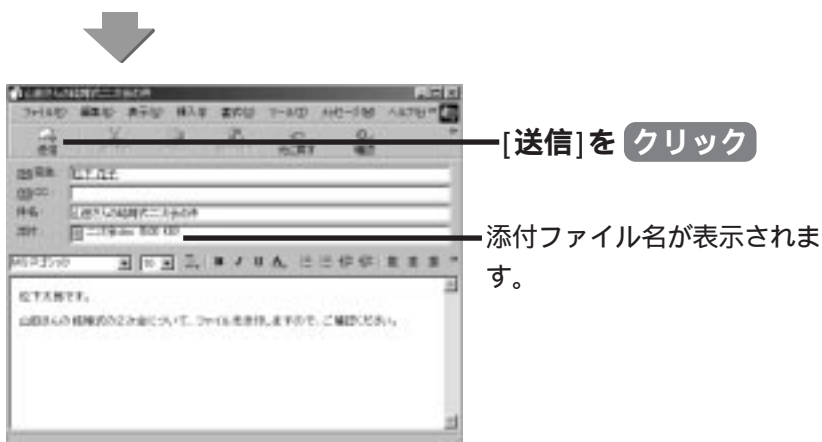
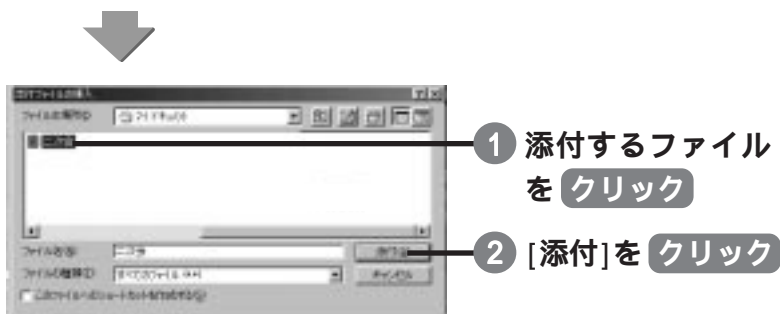
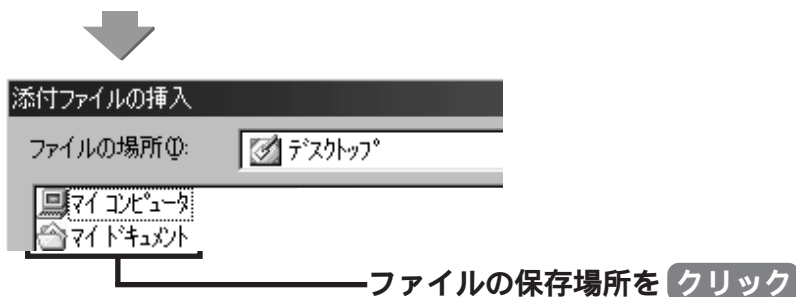
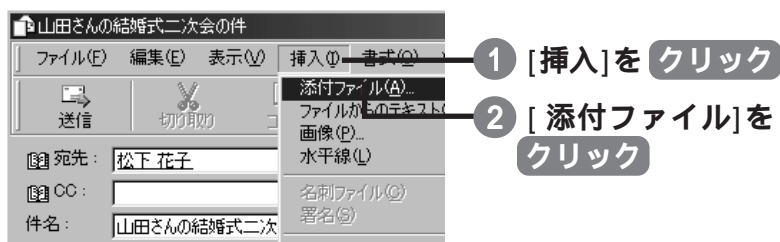
電子メールを送受信する

メールにファイルを添付して送る

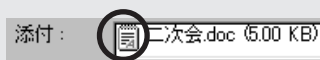
まとまった量の文書や画像の入った文書をメールに添付して送ることができます。

1 メッセージの作成画面を表示し、宛先、件名、メッセージを入れる。（→62、63ページ）

2 ファイルを添付する。

ファイルの保存場所を クリック

◀「My Documents」フォルダーに保存したファイルを添付する例で説明します。

◀フォルダーを開く方法について詳しくは→取扱説明書『セットアップ編』

添付ファイルを受け取ったら

添付ファイルのアイコンをダブルクリックし、画面の指示に従って添付ファイルを開くか、保存するかしてください。

◀「Outlook Express」を終わるには→63ページ

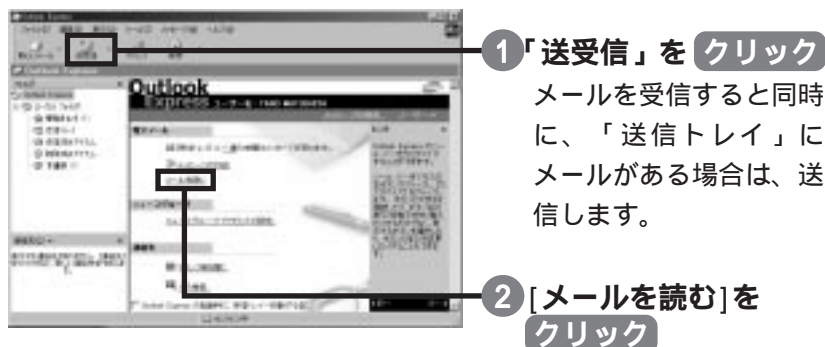
使いかた

コミュニケーション

電子メールを受信する

1 「Outlook Express」の初期画面を表示する。
（→62ページ）

1「送受信」を クリック
メールを受信すると同時に、「送信トレイ」にメールがある場合は、送信します。

2 [メールを読む]を クリック

2 受け取ったメールを読む。

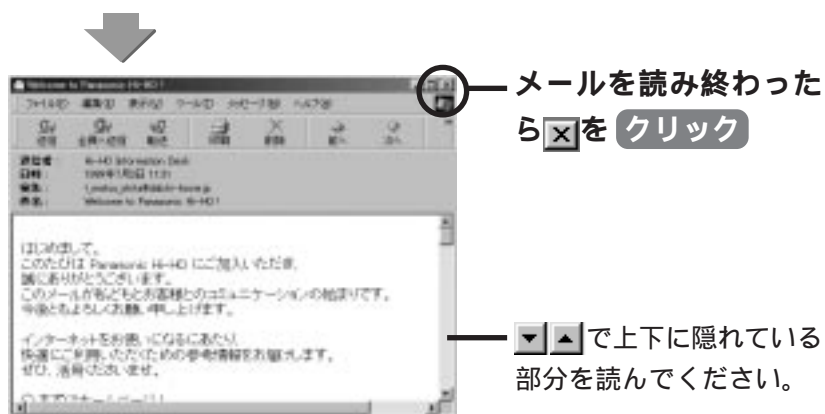
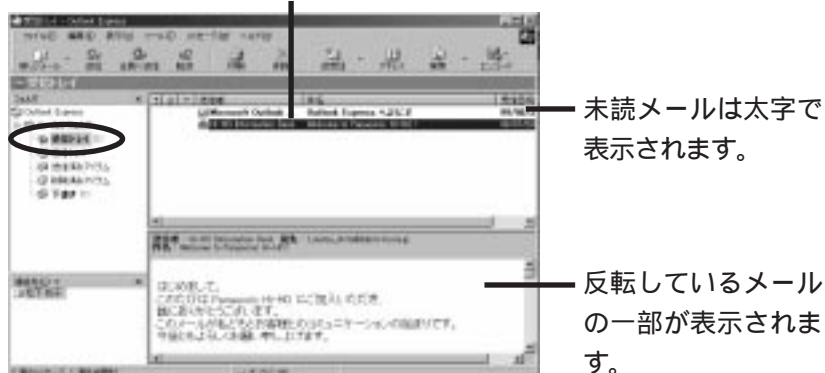
<受信メール一覧画面>

目的のメールの件名を ダブルクリック

未読メールは太字で表示されます。

反転しているメールの一部が表示されます。

メールを読み終わったら ☒ を クリック

▼▲で上下に隠れている部分を読んでください。

◀表示するトレイ（→下記）を変更する場合、目的のトレイをクリックしてください。

トレイの種類

- 受信トレイ
  受信したメールが保管されます。（左記画面）
- 送信トレイ
  作成したメールを一時的に保管する場所です。複数個のメールが送信トレイにたまったら[送受信]をクリックして、まとめてメールを送信できます。
  （送信トレイにメールを入れるには→63ページ）
- 送信済みアイテム
  送信したメールが保管されます。
- 削除済みアイテム
  削除したメールはここに一時保管されます。（→下記）

受け取ったメールを削除するには

受信メール一覧画面で削除したいメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックします。その時点で、削除済みアイテムに一時保管されます。
削除済みアイテムからも削除するにはそのメールに矢印をあわせて、 Del を押すか[削除]ボタンをクリックしてください。また、「Outlook Express」終了時にまとめて削除するよう設定することもできます。

受け取ったメールに返事を出すには

受信メール一覧で[返信]ボタンをクリックします。

電子メールを送受信する

メールの自動送受信機能を使う

「メールの自動送受信」機能を使うと、自動でメールの送受信を行うことができます。この機能を使用するには、「アクセスポイントの設定」を行った後、「スタート」メニューから「メールの自動送受信」を選んでください。

お願い

Outlook Express以外のメールソフトについては動作を保証しません。

アクセスポイントの設定

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[アクセスポイント設定]をクリックする。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。

2 「アクセスポイント一覧」から自動接続したいダイヤルアップ接続を選んで、[追加]をクリックする。

LANを使用する場合は、「ダイヤルしない」の左側の□にチェックマークを付けてください。

追加ボタンで選んだダイヤルアップ接続の名称は、「自動接続する優先順位」に移動します。「自動接続する優先順位」の上位に表示されているものから、優先的に接続されます。

「アクセスポイント一覧」には、登録済みのダイヤルアップ接続の名称が表示されています。

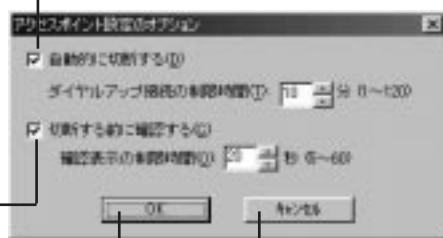
3 「自動接続する優先順位」に表示されているダイヤルアップ接続を選んで、[オプション]をクリックする。

お願い

Outlook Expressの[ツール]→[アカウント]→[メール]→[プロパティ]→[接続]で「このアカウントには次の接続を使用する」のチェックマークを外しておいてください。「インターネットスターター」で自動設定した場合、このチェックマークは外されています。

4 オプション設定をする。

メールの送受信後に回線を切断したい場合は、チェックマークを付けてください。また「...接続の制限時間」で設定した時間が経過すると、メールの送受信中であっても強制的に回線が切断されます。（工場出荷時は10分に設定されています。）

回線を自動的に切断する際に、確認メッセージを表示したい場合は、チェックマークを付けて時間を設定してください。（工場出荷時は20秒に設定されています。）

変更を保存します。

変更を取り消します。

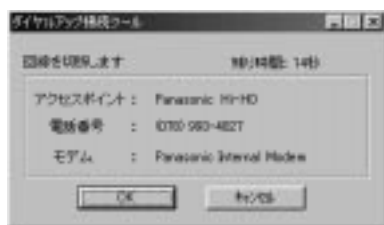
5 アクセスポイント設定画面で[OK]をクリックする。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに終了します。

メールを自動送受信する

1 **[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[メール自動送受信]をクリックする。**

自動的にOutlook Expressが起動し、メールを受信します。
また、送信トレイに送信用メールがある場合は、そのメールを送信します。

メールの送受信が終了したら、回線の切断を確認する画面が表示されます。

◀ラウンチャーを起動し（→29ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップしても同様の操作をすることができます。
◀相手が話し中の場合は、1分間隔で3回まで接続を試みます。3回とも話し中の場合やその他のエラーが発生した場合は次のアクセスポイントへの接続を開始します。
◀すでに、他の接続が行われている場合は、確認画面で[継続]をクリックしてください。
◀その接続へはじめてつなぐ場合、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されますので、それぞれを入力して「パスワード保存」にチェックを付け、[接続]をクリックしてください。

お願い

- メールの送受信が完了するまで、キーやスマートポインターは操作しないでください。
- メールの送受信中にエラーメッセージ画面が表示された場合は、「非表示」ボタンをクリックしてください。回線の切断を確認する画面が表示されます。

◀アクセスポイントのオプション設定で設定している場合のみ
→前ページ

送信トレイにメールを入れるには
Outlook Expressの[ツール]→[オプション]→[送信]設定で、「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておき、メール作成後、[送信]をクリックしてください。

イラストメールを送信する

イラストメール機能を使って、文字で形作られたイラストサンプルの中から好きなイラストを選んで、電子メールで送ってみましょう。
たくさんのイラストサンプルの中から、用途やそのときの気分に合ったものを選ぶことができます。また、イラストの登録や削除を自由に行い、自分専用のイラスト集を作ることもできます。

◀選んだイラストは、いったんクリップボードにコピーして文書に貼り付けることもできます。

イラストメールを送信する

ここでは、選んだイラストを電子メールに挿入して送信するまでの手順について説明します。

1 使用するメールソフトの環境を設定する。

使用するメールソフトで、フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定し、送信の形式をテキスト形式に設定してください。
また、[E-メール]ボタンを使ってメールソフトを起動するには（→75ページの手順7）、メールソフトをMAPI対応に設定しておく必要があります。

◀字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。また、HTML形式に設定していると、一部の文字が別の制御コードに変換され、イラストが正しく表示されないことがあります。

MAPI対応の設定
メールソフトによっては、はじめからMAPI対応になっているものもあります。また、MAPI対応にはできないものもあります。
Outlook Express 5は、はじめからMAPI対応になっています。

◀その他の主なメールソフトについては、イラストメール画面で[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]をクリックして、「表示フォントの設定方法」と「MAPIの設定方法」をご覧ください。

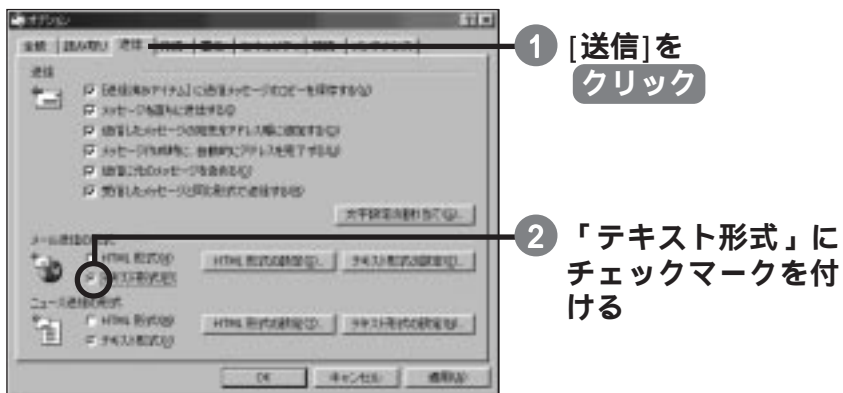
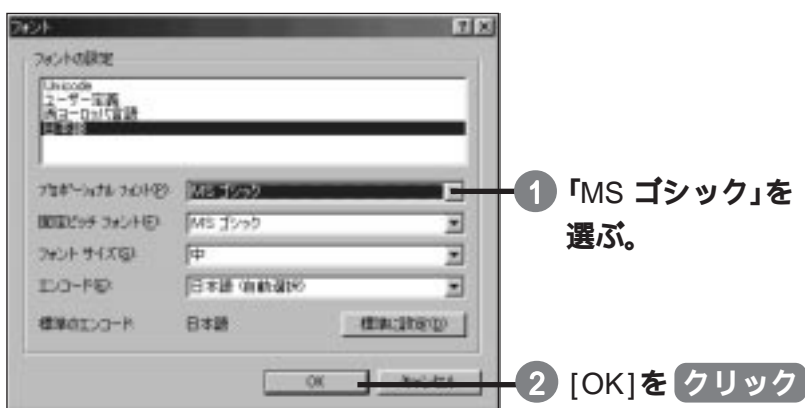
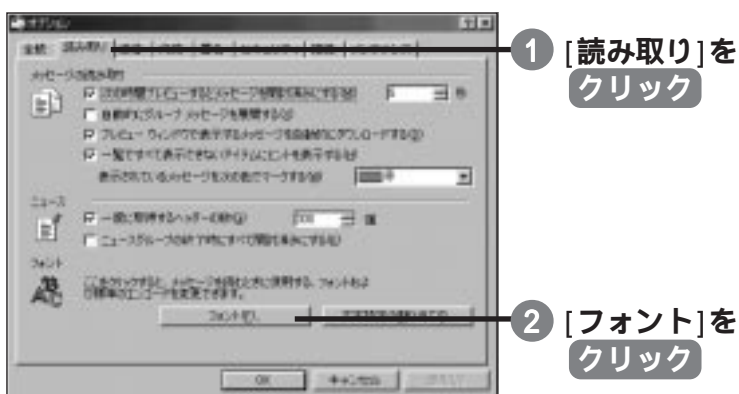
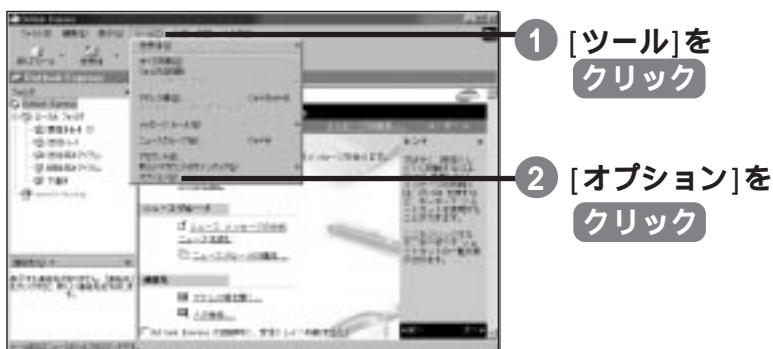
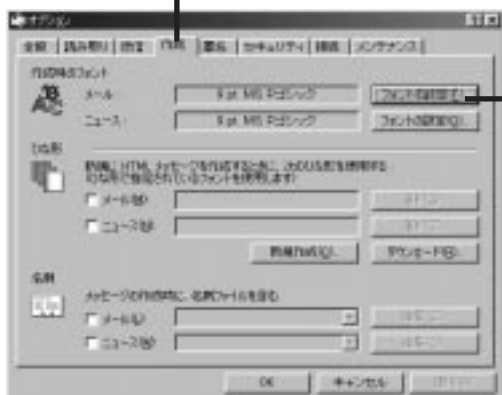
<Outlook Express 5を使用する場合の設定方法>

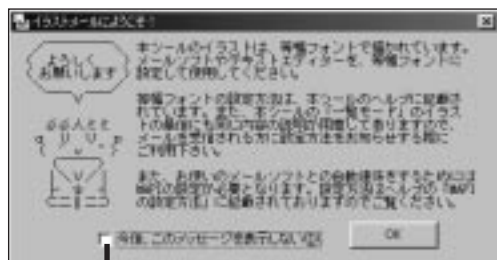
2 エラーメッセージが表示されたら、[表示しない]を クリック

（次ページへ続く）

用語
MAPI (Messaging API)：電子メッセージングアプリケーションのための標準システムインターフェースのことで、アプリケーションが個別に持っている情報を一元的に管理します。

1 [ツール]を クリック
2 [オプション]を クリック
1 [読み取り]を クリック
2 [フォント]を クリック
1 「MS ゴシック」を選ぶ。
2 [OK]を クリック
1 [送信]を クリック
2 「テキスト形式」にチェックマークを付ける

（次ページへ続く）

1 [作成]を クリック
2 [フォントの設定]を クリック
1 「MSゴシック」を選ぶ。
2 [OK]を クリック
[OK]を クリック

2 デスクトップの[イラストメール]アイコンをダブルクリックする。

次回起動時からこの画面を表示したくなければ、ここにチェックマーク✓を付ける。

◀[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[イラストメール]をクリックしても、起動することができます。

3 画面の説明を読んで、[OK]をクリックする。

イラストのジャンルを示す「フィーリングマップ」を切り換えます。

表示中のイラストをクリップボードにコピーします。

電子メールのメッセージ作成画面を起動します。

イラストの候補を表示します。

自分でテキストイラストを作り、登録します。

◀ここでコピーしたイラストは、メールソフトのメッセージ作成画面やワードパッドの文書などに「貼り付け」や「ペースト」機能を使って挿入することができます。

4 [フィーリングマップ]をクリックして、マップの種類を選ぶ。

マップには、下記の3種類があります。

春夏秋冬：季節にあったイラストを選ぶことができる。
喜怒哀楽：感情や感性にあったイラストを選ぶことができる。
用途別　：「祝福」や「案内」など様々な用途にあったイラストを選ぶことができる。

◀[フィーリングマップ]をクリックするごとに、3種類のマップが順に切り換わります。

5 フィーリングマップ上をクリックしてイラストを選ぶ。

例えば「春」と表示された周辺をクリックすると、春らしいイラストを選ぶことができ、「夏」と表示された周辺をクリックすると、夏らしいイラストを選ぶことができます。

◀クリックした位置にポインター（、、）が移動します。

イラストメールを送信する

フィーリングマップの区分について

各区分に対して、複数個のイラストが登録されています。
[次候補]をクリックすると、選んだ区分に登録された次の候補が表示されます。[前候補]をクリックすると一つ前の候補が表示されます。

「春夏秋冬」の場合

９分割

１区分

９分割

「喜怒哀楽」の場合

９分割

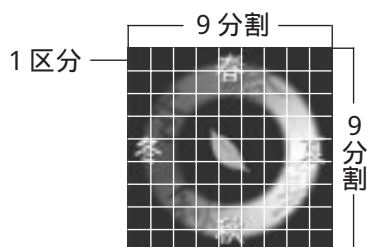
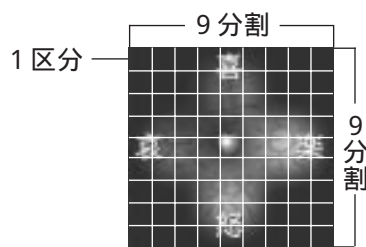
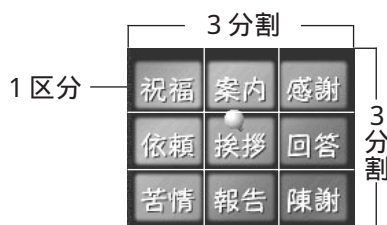
１区分

９分割

「祝福」「案内」など用途別の場合

３分割

１区分

３分割

◀ ポインター（、、）は、←、→、↑、↓で各区分ごとに移動させることもできます。

学習機能について

学習機能とは、使用頻度の高いイラストが優先的に表示されるように、フィーリングモードでの表示順序を入れ替える機能です。一覧モード（→下記）の順番は入れ替えません。学習機能を使用する場合は、イラストメール画面で[設定]→[学習ON]をクリックしてチェックマークを付けてください。工場出荷時には学習ONに設定されています。

＜表示順序を工場出荷時の状態に戻すには＞
イラストメール画面で[設定]→[学習内容のリセット]をクリックしてください。ただし「学習ON」にチェックマークが付いていない状態では、「学習内容のリセット」を選ぶことができません。

一覧モードでイラストを選ぶ方法

表示モードを切り換えてイラストを一覧から選ぶこともできます。

①[表示]→[一覧モード]をクリックする。
　イラストが一覧で表示されます。[次ページ][前ページ]をクリックすると、ページ単位で画面表示が切り変わります。

②好きなイラストをクリックする。または、←、→、↑、↓を使って選ぶ。
　選択されたイラストは青色の枠で囲まれます。
　フィーリングモードに戻したい場合は、[表示]→[フィーリングモード]をクリックしてください。

6 ［設定］をクリックし、「E-メール連携ON」にチェックマーク✓が付いていることを確認する。

工場出荷時には、すでにチェックマークが付けられています。

◀ チェックマークが付いていない場合は、「E-メール連携ON」を選んでチェックマーク✓を付け、確認のメッセージが表示されたら［ON］をクリックしてください。

お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動したい場合は、必ず「E-メール連携ON」にチェックマークを付けてください。

7 ［E-メール］をクリックする。

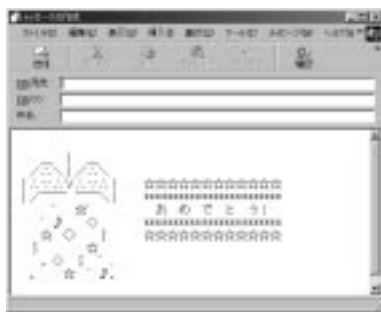
確認のメッセージが表示された場合は、内容を確認のうえ、［はい］をクリックしてください。
選んだイラストが挿入された状態で、メールメッセージ作成用の画面が起動します。

（例）「Outlook Express」を使用する場合

お願い

［E-メール］ボタンを使ってメールメッセージ作成用画面を起動するには、メールソフトをMAPI対応に設定しておいてください。（→70ページ手順*1*）

◀ ［E-メール］ボタンを使用時には、メールメッセージ作成用画面に署名を自動で追加することはできません。

◀ ［コピー］をクリックすると、選んだイラストがクリップボードにコピーされます。2つ以上のイラストをメッセージに挿入する場合や、イラストを文書に貼り付ける場合などにご利用ください。

8 宛先、メッセージ等を書き加えて、メールを送信する。

◀ 送信のしかたなどについて詳しくは62ページをご覧ください。

テキストイラストを挿入した文書を読む

・フォントを「MSゴシック」などの等幅フォントに設定しておく必要があります。字詰めを行う「MS Pゴシック」などを使用すると、イラストがくずれる場合があります。
イラストサンプルの中に、主なメールソフトの等幅フォントの設定についての説明文を用意しています。（一覧表示モードの最後のほうにあります。）テキストイラストをはじめて読むかたには、メッセージにその説明文を挿入して送ると便利です。内容は[ヘルプ]→[イラストメールのヘルプ]の「表示フォントの設定方法」と同じです。
・一部のメールソフトやワープロソフト、また携帯電話のメール機能では、連続するスペースを省略するなど自動的に文字列を変換するものがあります。その場合、等幅フォントに設定しても、イラストが正しく表示されないことがあります。

イラストメールを送信する

自分専用のテキストイラスト集を作る

自分で作成（変更）したイラストを登録する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから元となるイラストを選んで（70ページ手順1〜73ページ手順5）、[登録]をクリックする。

2 イラストを編集する。

他のテキストエディター（メモ帳など）で作成したテキストイラストを登録したい場合には、いったんそのイラストをクリップボードにコピーした後、[貼り付け]を クリック

表示されているイラストを削除して、新規にイラストを作成する場合は、[クリア]を クリック

◀桁数：全角24文字、行数：10行の範囲内で編集してください。
また、半角カタカナ、ローマ数字、丸数字や一部の記号など、通常、電子メールソフトで正しく表示されない文字は使用しないでください。
送信したイラストが正しく表示されない場合があります。

3 イラストが完成したら、[次へ]をクリックする。

◀一つ前の画面に戻るには、[戻る]をクリックしてください。
◀登録操作を途中で中断して終了するには、[キャンセル]をクリックしてください。

4 「春夏秋冬」のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

5 「喜怒哀楽」のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

6 用途別のマップ上に登録する。

❶ フィーリングマップ上の登録したい位置を クリック

❷ クリック

◀ 表示されているマップに登録しない場合は、[指定しないで次へ]をクリックしてください。

7 イラストにタイトルなどを付ける。

❶ 「タイトル」と「製作者」を入力する。

❷ クリック

◀ 「タイトル」は全角16文字以内、「製作者」は全角8文字以内で入力してください。

◀ 最初、「製作者」にはWindowsのログイン名が表示されています。

フィーリングマップ上の指定した位置に、イラストが登録されます。
一覧モードでは、一番最後の位置に登録されます。

イラストメールを送信する

登録されているイラストを削除する

1 フィーリングモードまたは一覧モードから、削除したいイラストを選んだ状態で、[編集]→[イラスト削除]をクリックする。

2 確認メッセージが表示されるので、よければ[はい]をクリックする。

お願い

一度削除したイラストは、元に戻すことはできません。よく確認してから削除してください。

LANに接続する

LAN(Local Area Network)とは、会社や学校など小規模な範囲で運用されるネットワーク環境をいいます。
本機はLAN機能を内蔵しているため、LANカードなどを使用することなく、ネットワークコンピューターとして使うことができます。

LANへの接続・設定を行う

工場出荷時の設定では、LAN機能は使用できない設定になっています。
以下の手順に従い、LANを使用可能に設定してください。

1 ケーブルを接続する。

❶ LANのコネクター部のカバーを開ける。

❷ LANケーブルで本機とネットワークシステム（サーバー、HUBなど）を接続する。
突起部をコネクターの向きに合わせて、カチッと音がするまで差し込んでください。

お願い

コネクター部分にカバーが付いているLANケーブルは、接続できない場合があります。事前にご確認ください。

◀ネットワークを正常に動作させるために100 m未満のカテゴリー5のツイストペアケーブルを使用してください。

2 電源を入れてセットアップユーティリティーを起動し、「内蔵LAN」を「有効」に設定する。（→116ページ）

◀工場出荷時は、セットアップユーティリティーの「内蔵LAN」は「有効」に設定されています。

3 内蔵LANドライバを使用可能に設定する。

お願い

[コントロールパネル]→[システム]→[デバイスマネージャ]を使って、内蔵LANの使用可能・使用不可の設定を変更しないでください。設定が正しく完了しない場合があります。

❶ 起動しているアプリケーションを終了する。

❷ [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[内蔵LANドライバ使用設定]を選ぶ。

❸ [使用可能にする]を クリック

◀「現在、内蔵LANは使用可能です。」と表示されたときは、[キャンセル]をクリックしてください。

❹ 再起動の確認メッセージが表示されたら、[OK]を クリック

◀設定は、再起動後に有効になります。
画面が消えた後、しばらくしても電源が切れない場合は、Enter を押してください。再起動します。

4 接続するLAN環境に合わせて、プロトコルなどの各種設定を行う。

◀ 詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

◀ Wake Up機能（→120ページ）

お願い

・ネットワーク機能を使用する場合、スタンバイや休止状態機能は使用しないでください。正常に通信できないことがあります。
・データの転送中などにタイムアウト機能が働いてスタンバイ状態になることを避けるために、省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」の「パワーマネージメントオフ」を選んでください。（→87ページ）

プロトコルの設定を行う前に

LAN接続が使用できない設定のままプロトコルの設定を行うと、プロトコルの種類によってはWindowsの起動ができなくなる場合があります。
プロトコルの設定を行う前に必ずLAN機能を使用可能に設定してください。

LANを使用可能に設定した後、LANケーブルに接続しない場合

Windowsの起動およびリジュームに要する時間が長くなることがあります。LANを使用しないときは、セットアップユーティリティーで「内蔵LAN」を「無効」に設定しておくことをおすすめします。

ネットワークコンピューターとして使う場合

用途に応じてその他いくつかの設定が必要となります。詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

HUBユニットのリンクランプが点灯せず、ネットワーク機能が使えない場合

1. [スタート]-[設定]-[コントロールパネル]-[ネットワーク]を選ぶ。
2. [Intel 8255x-based PCI Ethernet Adapter (10/100)]をダブルクリックする。
3. [詳細設定]を選ぶ。
4. 「プロパティ」から「Speed」を選び、「値」をお使いのHUBユニットにあった通信速度(10 Mb/secまたは100 Mb/sec)に設定する。
5. [OK]で終了する。

インターネットの接続設定を切り換える

インターネット接続切り換えソフトウェア「クイックコネクションセレクター」を使うと、インターネットエクスプローラーの接続設定を簡単に切り換えることができます。
会社ではLANに接続し、自宅ではモデムを使ってインターネット接続を行う場合など、いろいろな環境でネットワーク接続を行う場合に便利です。

◀ Internet Explorer 5.0以外のブラウザーでは動作しません。

LANまたはモデムの接続設定を登録する

1 登録したい接続設定にする。

「Internet Explorer」を起動する。（→50ページ）

「ツール」メニューから「インターネットオプション」を選ぶ。

① [接続]を クリック

② 登録したい接続設定になっていることを確認する。

◀ 接続設定は、最大8つまで登録することができます。
手順*1*、*2*を繰り返してください。

お願い

「ネットワーク接続が存在しないときには、ダイヤルする」にチェックを付けないでください。クイックコネクションセレクターに登録できません。

2 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]を クリック

[使用中の接続設定を登録]を クリック

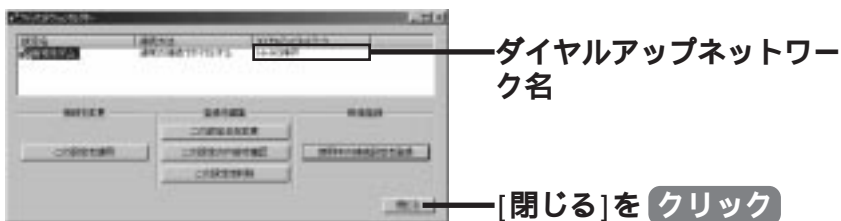
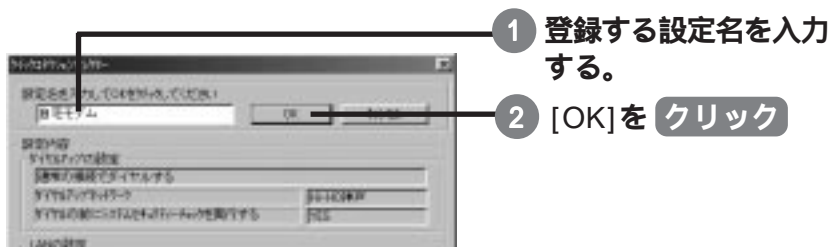
次回から、素早く起動するために
[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]を右ボタンでクリックし、[送る]→[デスクトップ（ショートカットを作成）]をクリックします。デスクトップ上にアイコンが作成されますので、次回からは、このアイコンをクリックして素早く起動できます。

インターネットの接続設定を切り換える

❶ 登録する設定名を入力する。

❷ [OK]を クリック

ダイヤルアップネットワーク名

[閉じる]を クリック

◀ 登録完了後、表示されているダイヤルアップネットワーク名を変更すると接続ができなくなります。

接続設定を切り換える

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックコネクションセレクター]をクリックする。

❶ 切り換える接続先を選ぶ。

❷ [この設定を適用]を クリック

確認メッセージが表示されますので、[はい]を クリック

[閉じる]を クリック

赤外線通信をする

本機の赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持ったほかのコンピューターとケーブルを接続することなく通信することができます。

◀ここでは、「Intellisync® for Notebooks」（以降、Intellisyncと表記します）を使って、赤外線通信を行う場合を例にして説明します。

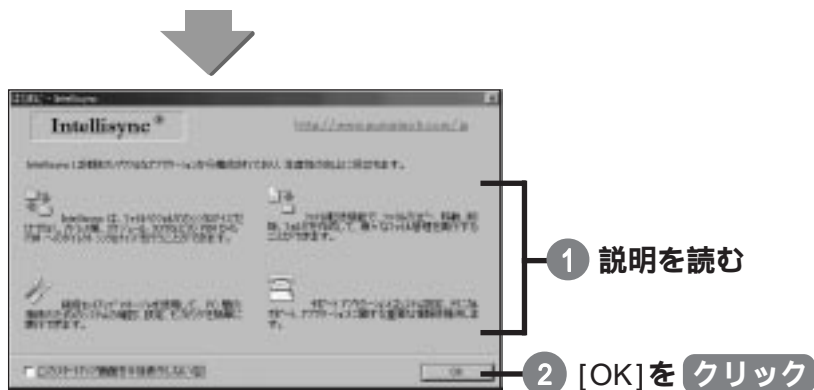
1 互いのコンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

・セットアップユーティリティーの「詳細」メニューの「赤外線通信ポート」を「338/IRQ5」に設定する。（→116ページ）

・「コントロールパネル」の「赤外線モニタ」の「オプション」で「赤外線通信を使用可能にする」のチェックマークを外す。

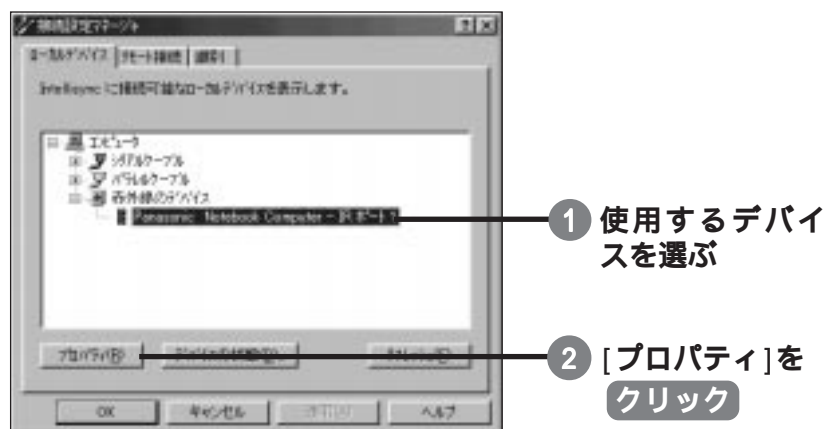
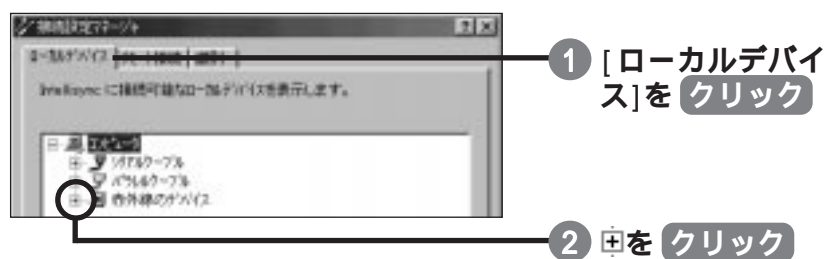
◀工場出荷時にはどちらも、左記の設定になっています。

2 必要に応じて互いのコンピューターのボーレートを設定する。

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[Intellisync エージェント]を クリック

「使用許諾同意書」画面が表示されたら、内容を確認し「承諾する」を クリック

◀はじめて起動したときのみ表示されます。

（次ページへ続く）

赤外線通信をする

◀ボーレートは、2つのコンピューターを比べて小さい方の値に合わせてください。その他の設定は工場出荷状態から変更する必要はありません。

（次ページへ続く）

[OK]を クリック

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

<設置時に気をつけること>
・お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
・ポート間の距離を20 cm～50 cmの範囲に設置する。
<以下のような場合、正常に通信できません>
・お互いのポート間に障害物があるとき
・近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
・直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき

◀ 省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」（→86ページ）による省電力機能を働かせているとき、正常に通信できない場合があります。

4 赤外線通信を行う。

◀ ファイル転送などの操作について詳しくは、ヘルプをご覧ください。

お願い
各機能の画面を開いている状態では、スタンバイおよび休止状態に入らないでください。リジューム後、各機能が正常に動作しなくなります。

5 赤外線通信を終了する。

「ファイル転送」や「シンク」の画面で、[ファイル]→[閉じる]を クリック

◀ Intellisyncエージェントも終了する場合は、メイン画面の右上の☒をクリックしてください。

Intellisyncのバックアップディスクを作成するには

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[メイクディスク]をクリックしてください。バックアップディスクを作成するには、2HDのフロッピーディスクが10枚必要です。

通信が途切れたり、送信側のコンピューターが正常に動かなくなる場合

1.「スタート」→[プログラム]→[Intellisync]→[接続設定マネージャ]を選び、「ローカルデバイス」の「赤外線デバイス」をダブルクリックする。（「はじめに-セットアップマネージャ」が表示された場合は、[閉じる]をクリックしてください。）
2.「Panasonic Notebook Computer - IRポート1」をダブルクリックし、「ターボモード」のチェックマークが付いている場合はそれを外して、[OK]をクリックする。
3.[OK]をクリックし、「接続設定マネージャ」を終了する。

省電力機能を使う

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力機能のコツ

●使わないときは電源を切る　→取扱説明書『セットアップ編』

● Fn + F2 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する
→124ページ

● Fn + F10 でスタンバイ状態にしてから席を外す
スタンバイ状態に入ると、操作を再開するまでメモリー以外の電源が切れ、電力の消費が抑えられます。操作を再開するときは、電源スイッチをスライドしてください。

●省電力機能を設定する　→下記
省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel™」を設定してください。

◀省電力ユーティリティープログラム「PowerPanel™」では、ディスプレイの明るさを調整することはできません。必要に応じて、Fn + F2 で設定してください。

お願い
通信ソフト動作中、ネットワーク使用中は、スタンバイ状態に入らないでください。

◀「電源設定」（[コントロールパネル]→[電源の管理]）で直接各種タイムアウト設定を使用しないでください。設定内容が正常に動作しない場合があります。

PowerPanel™で省電力設定をする

＜PowerPanelの主な省電力機能＞
・タイムアウト（タイマー）機能
しばらくの間コンピューターを放置したときに自動的にスタンバイ状態に入ったり、LCDやハードディスクドライブの電源を切ったりすることができます。
・CPUスピード変更
CPUスピードを遅くして、電力の消費を抑えることができます。
また、使用するアプリケーションソフトにあわせて、CPUスピードとタイムアウト機能を自動的に設定することもできます。

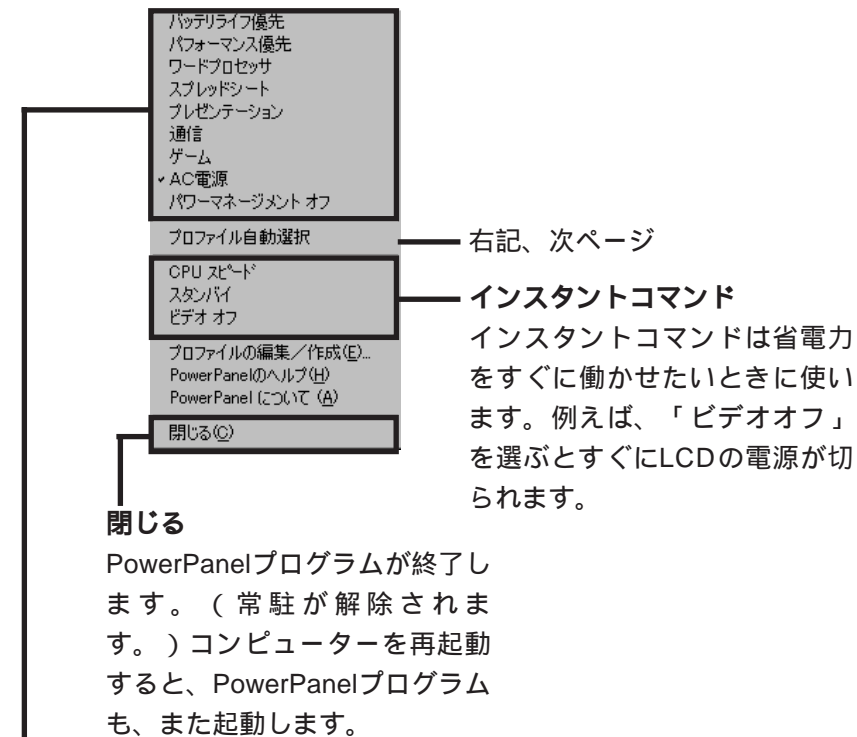
◀プロファイルの自動選択
→88ページ

PowerPanelメニューの表示

タスクバーの を右ボタンでクリックすると、次のようなポップアップメニューが表示されます。

右記、次ページ

インスタントコマンド
インスタントコマンドは省電力をすぐに働かせたいときに使います。例えば、「ビデオオフ」を選ぶとすぐにLCDの電源が切られます。

閉じる
PowerPanelプログラムが終了します。（常駐が解除されます。）コンピューターを再起動すると、PowerPanelプログラムも、また起動します。

プロファイル
PowerPanelは、さまざまな使用状況にあわせた省電力プロファイルを用意しています。各プロファイルごとに、CPUスピード、スタンバイ状態になるまでの時間、LCDやハードディスクの電源を切るまでの時間などが設定されています。バッテリー残量や用途にあわせてプロファイルを1つ選択してください。

バッテリライフ優先
バッテリーパックの長時間稼動を目的とした設定になっています。CPU速度は遅くなります。

パフォーマンス優先
処理速度など、パフォーマンスを優先した設定になっています。

ワードプロセッサ/スプレッドシート/プレゼンテーション/通信/ゲーム
それぞれワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、通信ソフト、ゲームソフトを使う場合に最適な設定になっています。

AC電源
ACアダプターを接続すると自動的にこの設定になります。

パワーマネージメントオフ
省電力機能を使用しない設定です。プロファイルの中で最も電力消費される設定です。

◀電源を入れたとき（再起動したとき）、ACアダプターが接続されている場合は「AC電源」、接続されていない場合は「バッテリライフ優先」になります。

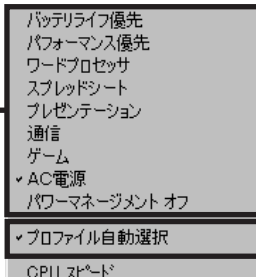
プロファイルの自動選択
ACアダプター使用時とバッテリーパック使用時で、設定を別々に保持することができます。

（例）
ACアダプターを取り外して、バッテリーパックのみで使用時に、「プロファイル自動選択」のチェックマークを付ける。
↓
ACアダプターで使用時に、「プロファイル自動選択」にチェックマークを外す。
↓
ACアダプターを外すと、「プロファイル自動選択」にチェックマークが付けられた状態に自動的に戻る。

省電力機能を使う

プロファイルの自動選択

起動したアプリケーションを自動判別し、最適なプロファイルに自動的に設定する機能です。例えば、Windows標準のゲームソフト「ソリティア」が起動すると、自動的に「ゲーム」のプロファイル設定で省電力機能が働きます。

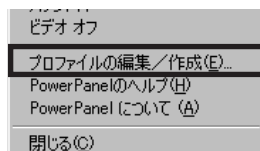
自動選択対象のプロファイル

◀複数起動している場合はアクティブなアプリケーションが優先されます。

お願い

ファイルのダウンロードやデータの送受信を行う場合、「プロファイル自動選択」を選ばないでください。

プロファイルの確認・編集

各プロファイルに登録されているCPUスピードやタイムアウト設定を変更したり、各プロファイルに市販のアプリケーションを追加したり削除したりすることができます。

＜プロファイルにアプリケーションを追加する場合＞

1 確認または編集するプロファイルを クリック

2 ダブルクリック

次ページに続く

◀「ファイル」メニューから「新規作成」を選び、新しいプロファイルを作成することができます。

◀それぞれのプロファイルのCPUスピードやタイムアウト機能の設定を変更することもできます。

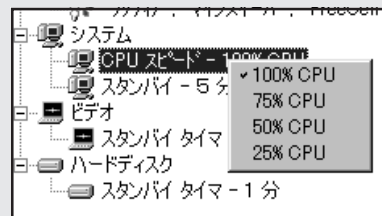
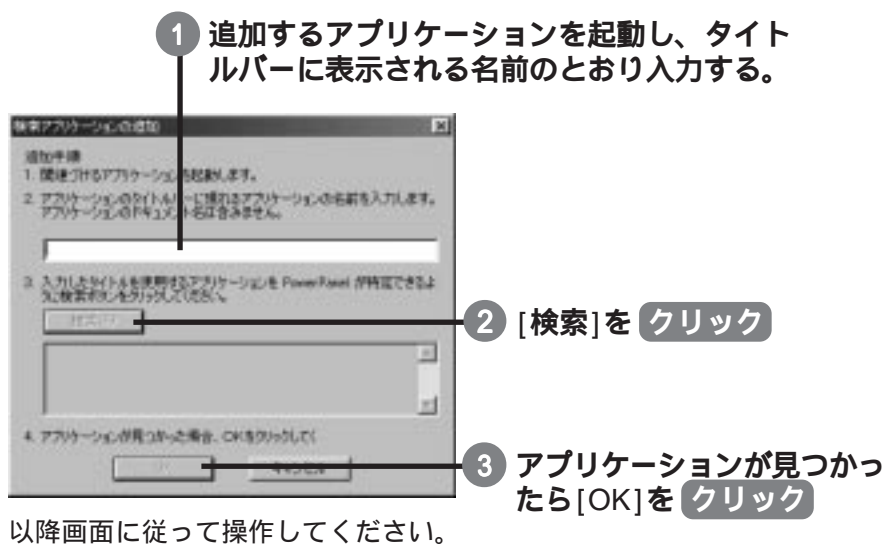
使いかた

モバイル

❶ 追加するアプリケーションを起動し、タイトルバーに表示される名前のとおり入力する。

◀半角、全角は区別されます。正確に入力してください。

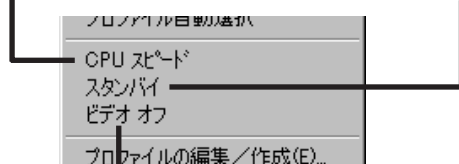
❷ [検索]を クリック

❸ アプリケーションが見つかったら[OK]を クリック

以降画面に従って操作してください。

◀設定したプロファイルは、いったん、他のプロファイルを選んだ後、「プロファイル自動選択」を選ぶと有効になります。

インスタントコマンドを使う

4段階の速度調節ができます。25 %が最も電力消費を抑えた設定です。

すぐにスタンバイ状態に入ります。スタンバイ状態に入る前に、念のため作業中のファイルを保存してください。

すぐにLCDおよび外部ディスプレイの電源を切ります。

◀インスタントコマンドで設定したCPUスピードは現在選択されているプロファイルに登録されます。

変更した状態を工場出荷状態に戻す場合

①PowerPanelのメニューから[閉じる]を選ぶ。
②[スタート]→[ファイル名を指定して実行]を選ぶ。
③「c\util\psuite\pcfsav\restore.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
④確認のメッセージが表示されるので[OK]をクリックし、もう一度[OK]をクリックする。
⑤[スタート]→[プログラム]→[Phoenix PowerSuite 98]→[PowerPanel]→[PowerPanel]を選んで、再度PowerPanelを起動する。

通信機能を使う場合

LAN、モデム、赤外線通信ポート、シリアルコネクターなどを使って通信を行う場合に省電力機能を使うと、データの転送中などにタイムアウト機能が働いてスタンバイ状態になったり、通信が正常に行われない場合があります。通信機能を使う場合、プロファイルはプロファイル自動選択を使わずに手動で「パワーマネージメントオフ」または「通信」を選んでください。

スクリーンセーバーを使う場合

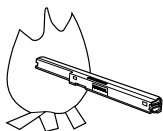
スクリーンセーバーを使用するときは、プロファイルは「パワーマネージメントオフ」を選んでください。LCDのタイムアウト機能が働いてディスプレイが正常に復帰しなかったり、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできない場合があります。

バッテリーパックを使う

ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。

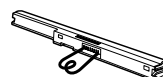
バッテリーパックに関する注意

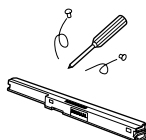
⚠危険

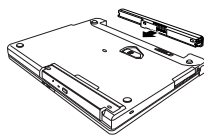
火中に投入したり加熱したりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

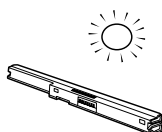
プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

発熱・発火・破裂の原因になります。

クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしたりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

CF-M1シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱・発火・破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置をしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

- バッテリーパックは一般のごみといっしょに廃棄しないでください。
  端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い、廃棄してください。（本機のバッテリーパックは、リチウムイオン蓄電池を使用しています。）
- 交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。
- 水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。
- 端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。
- 万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

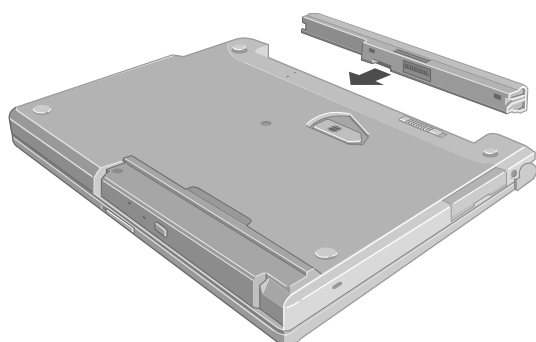
- 使用環境温度5 ℃～35 ℃の範囲で操作してください。
  使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。
- 通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

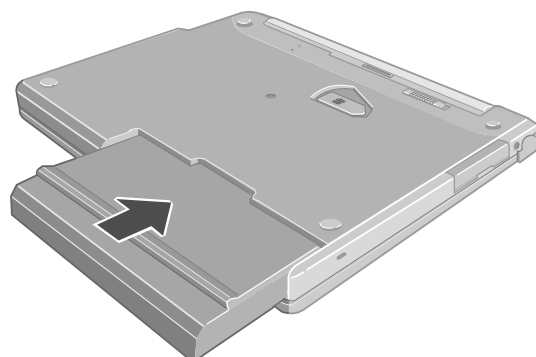
取り付けかた/取り外しかた

本機で使用できるバッテリーパックは、付属のバッテリーパックと以下の別売りのバッテリーパックです。
別売りバッテリーパック
・標準バッテリーパック　：品番　CF-VZSU10J（同等品が付属）
・拡張バッテリーパック　：品番　CF-VZSA44J
・大容量バッテリーパック：品番　CF-VZSU11J

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

2 本体を裏返す。

3 バッテリーパックを取り付ける／取り外す。
<取り付ける場合>
●標準バッテリーパックまたは大容量バッテリーパック（別売り）
バッテリーパックをカチッと音がするまでスライドし、差し込む。

イラストは標準バッテリーパックを例にしています。

●拡張バッテリーパック（別売り）
①CD-ROMドライブを取り外す。(→98ページ)
②拡張バッテリーパックを奥までしっかりと差し込む。

お願い

指定のバッテリーパック以外は使用しないでください。

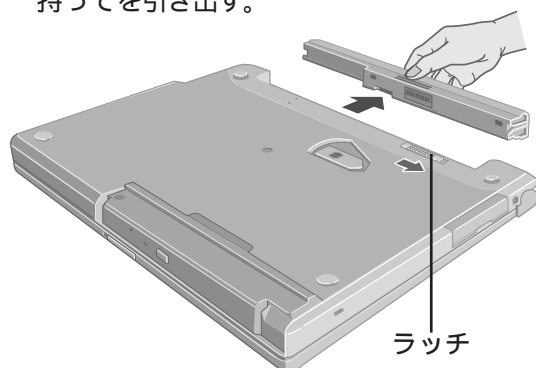
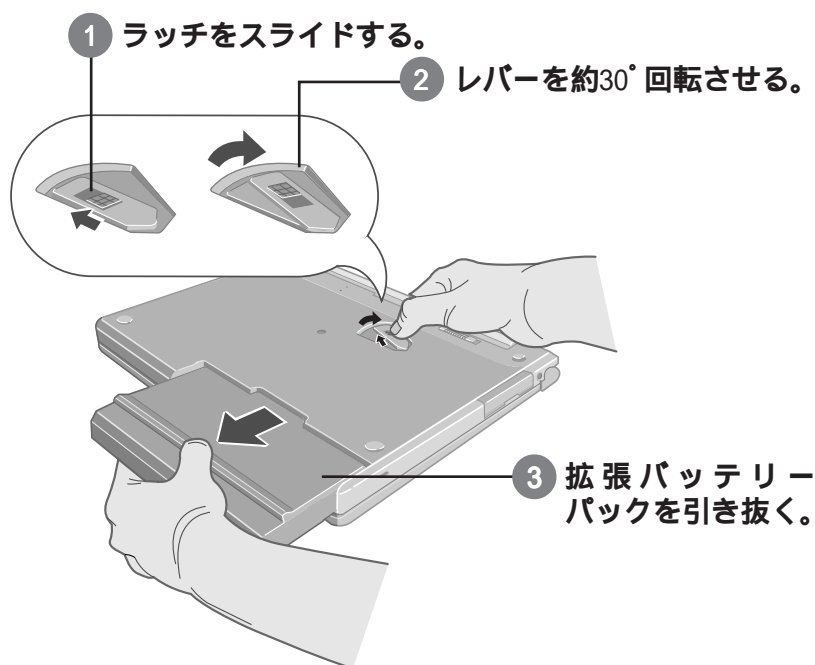
◀大容量バッテリーパックについて
・詳しくは、大容量バッテリーパックに付属の取扱説明書をご覧ください。また、本機では、大容量バッテリーパックに付属の「システムアップデートディスク」を使ってシステムのアップデートをする必要はありません。
・大容量バッテリーパック装着時は、CD-ROMドライブを使用しないでください。大容量バッテリーパックを本体に取り付けると、本体後部が持ち上がり、CD-ROMドライブを引き出す際、トレイが机に当たります。その状態でトレイを最後まで引き出すと、トレイが壊れることがあります。

お願い

・BaySwap機能(→98ページ)を使用しない場合やMS-DOS上でCD-ROMドライブを取り外す場合は、必ず電源を切ってから行ってください。
・スタンバイや休止状態でのCD-ROMドライブを取り外すことはできません。

バッテリーパックを使う

＜取り外す場合＞

●標準バッテリーパックまたは大容量バッテリーパック（別売り）
ラッチを矢印の方向にスライドした状態でバッテリーパックの中央部持ってを引き出す。

イラストは標準バッテリーパックを例にしています。

●拡張バッテリーパック（別売り）

お願い

標準（または大容量）バッテリーパックを外すとき

一方の端だけを持って引き出すと、本体側のツメなどが変形する場合があります。

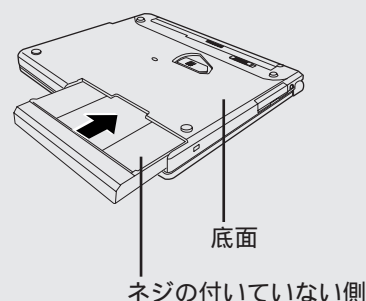
お願い

拡張バッテリーパックを取り外した後はCD-ROMドライブまたはウェイトセーバーを取り付けておいてください。

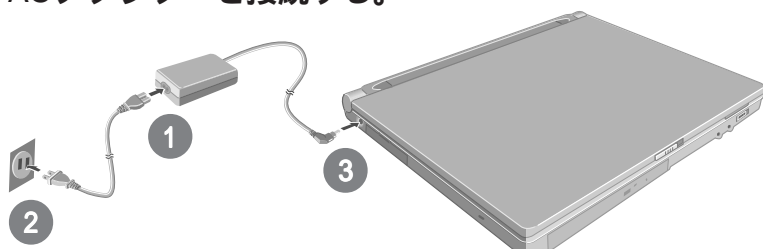
取り付け／取り外しの方法は拡張バッテリーパックと同じです。

何も取り付けられていないときに上から強い力をかけないでください。

＜ウェイトセーバーを取り付けるとき＞

ウェイトセーバーのネジの付いていない側を本体の底面側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると取り出せなくなります。

充電のしかた

付属の標準バッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。

1 ACアダプターを接続する。

◀標準（または大容量）バッテリーパックと拡張バッテリーパックの両方を取り付けている場合は、標準（または大容量）バッテリーパックから先に充電されます。

使いかた

モバイル

2 充電状態を確認する。

バッテリー状態表示ランプ A-▯-B

＜充電時間＞

		標準	標準＋拡張*1	大容量
電源	入	約5.5 時間	約18.5時間	約15時間
	切	約2.5 時間	約7時間	約5時間

＜稼働時間＞

標準	標準＋拡張*1	大容量
約1.5 時間	約6.6時間	約5.1時間

◀充電を完了するとバッテリー状態表示ランプが緑色に点灯します。
標準（または大容量）バッテリーパック　：A側
拡張バッテリーパック：B側

充電時間
使用条件により長くかかることがあります。（低温の場合など）
*1 標準バッテリーパックが満充電状態になったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。放電は拡張バッテリーパック→標準バッテリーパックの順に行われます。

稼働時間
左記はCPUスピード25％でLCDバックライト輝度最低時の稼動時間です。
稼動時間はその他使用条件によって異なります。

充電について

- バッテリーパックを２つ取り付けているとき、「電源メーター」が表示するバッテリー残量は、全容量に対しての値ではありません（→95ページ）。バッテリー残量は、Fn + F9 で確認することをおすすめします。
- 長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30％～40％程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
- バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
- 本機では過充電を防ぐため、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90％前後になるまで放電してから充電するようにしてください。
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。
- 使用環境温度（5 ℃～35 ℃）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できない場合があります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

次のような場合、バッテリーパックから微量の電流が放電されます。そのため、電池残量が多少減っていることがあります。

ACアダプターを接続してコンピューターを使用中
- バッテリーパック（標準、大容量、拡張）が満充電に近い状態のため、充電が行われていないとき
- 拡張バッテリーパックが充電待ち状態のとき
  拡張バッテリーパックでコンピューターを使用中のため、標準（または大容量）バッテリーパックから放電されていないとき

バッテリーパックを使う

バッテリー状態表示ランプについて

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯 （同時にアラーム音が鳴ります。）	・バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。 ・バッテリーの電圧低下（→右記）
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。 また、ランプBは拡張バッテリーパックの充電待ち状態（標準バッテリーパックの充電中）にも消灯します。

- 標準（または大容量）バッテリーパック　：A側
- 拡張バッテリーパック：B側
- 標準（または大容量）バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を取り付けている場合は、標準（または大容量）バッテリーパックから先に充電されます。標準（または大容量）バッテリーパックが満充電状態になったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。（ただし、放電は拡張バッテリーパック→標準（または大容量）バッテリーパックの順に行われます。）

お願い

電圧低下による赤色点灯について

ACアダプターを接続しない状態で、消費電力の大きい周辺機器（内蔵のCD-ROMドライブやコンピューター本体からPCカード経由で電源供給されるCD-ROMドライブなど）を使用した場合や、使用環境温度の範囲内であっても低温時には、バッテリー残量表示では十分ある*にもかかわらず、バッテリー状態表示ランプが赤色に点灯することがあります。これは、バッテリーの電圧が急激に下がり、バッテリーの保護機能が働いたために起こる現象で異常ではありません。このような場合には、必要なデータを保存し、すぐにACアダプターを接続してください。

*キー操作による残量表示やWindows上の電源メーターで確認する限り、残量は十分にある

使いかた　モバイル

バッテリー残量の確認

バッテリーのみで使用することが多い場合、こまめに残量確認するようにしてください。バッテリー残量が少なくなったら、ACアダプターを接続してください。
バッテリー残量を確認するには、以下の4つの方法があります。

- キー操作（Fn + F9）で確認する。
- 電源メーターで確認する。
- アラームで確認する。
- バッテリー状態表示ランプで確認する。

◀電源が切れている状態でも、約120 mWの電力を消費します。標準バッテリーパックの場合、満充電していても約1週間でバッテリー残量がなくなります。

キー操作(Fn＋F9)による残量確認

電源が入っている状態で Fn キーを押しながら F9 キーを押している間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

A 78% ← 標準（または大容量）バッテリーパックの残量
B --% ← 拡張バッテリーパックの残量

◀バッテリーパックが装着されていない場合は、「- -%」と表示されます。左記は、拡張バッテリーパックが装着されていない時の一例です。
◀数値と、実際の残量は多少異なる場合があります。

電源メーターによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「電源メーター」をクリックして確認することができます。

◀バッテリーパックを2つ取り付けている場合の総合残量は、全容量に対する残量ではなく、個々の電池の残量値の平均です。

アラームによる残量確認

[コントロールパネル]→[電源の管理]をダブルクリックし、「アラーム」をクリックし、アラーム機能により確認することもできます。

◀ Fn + F4 や Fn + F5 のキー操作で音量をミュートしている場合、アラームは鳴りません。

<バッテリ低下アラーム>

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「10 %」に設定されています。

アラームが鳴ったら
充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプ⏻が消えていることを確認してください。

<バッテリ切れアラーム>

バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリー切れをアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「0 %」に設定されています。

また、「アラーム動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。

通知方法　「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は「メッセージを表示する」に設定されています。

電源レベル　「アラーム後のコンピュータの動作」を設定する場合は左側の□にチェックマークを付けて「スタンバイ」を選択してください。「シャットダウン」を選択すると、アラームが鳴った後、コンピューターが強制終了され、ハードディスクのデータが消去されたり、起動できなくなったりすることがありますので、選択しないでください。
工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

◀「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は、「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。
この機能により、シャットダウンまたはスタンバイ状態になったときは、ACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、起動およびリジュームできません。

使いかた

モバイル

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順に従って、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。
この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

1 バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。
充電が始まります。

2 バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。

① [スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[MS-DOSモードで再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

② MS-DOSのプロンプト（C:\WINDOWS>）に続けて、以下のように入力して放電ツールを実行する。
battref2 /g Enter

③ 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
この後、以下のように自動的に処理が流れます。

バッテリー状態表示ランプが消灯する

バッテリー状態表示ランプが赤点灯する

自動的にコンピューターの電源が切れる

充電が始まる
バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯したらこの操作は完了です。コンピューターの電源を入れて使用してください。

◀標準（または大容量）バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を装着しておくことができます。その他の周辺機器はすべて取り外しておいてください。

お願い
下記手順2の操作が完了し、バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

◀バッテリーパックを2つ取り付けている場合バッテリー状態表示ランプA（標準または大容量）の後にB（拡張）が点灯します。両方のランプが点灯していることを確認してください。

お願い
- 放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。
  - 標準バッテリーパックのみ　約1.5時間
  - 拡張バッテリーパックのみ　約3時間
  - 大容量バッテリーパックのみ　約3.5時間
  - 標準＋拡張バッテリーパック　約4.5時間
  - 大容量＋拡張バッテリーパック　約6.5時間
- 充電開始時、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点滅した場合は、「充電について」（→93ページ）をご覧ください。

周辺機器を拡張する

ここでは、CD-ROMドライブ、フロッピーディスクドライブおよび別売りの周辺機器（I/Oボックス、外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

CD-ROMドライブの取り付け/取り外し

BaySwap機能を使うと、Windowsが起動している状態で電源を切らずにCD-ROMドライブの取り付け／取り外しを行うことができます。

1 タスクバーの を左ボタンでクリックし、[Swappable Bayのデバイス（IDE）の交換]を クリック

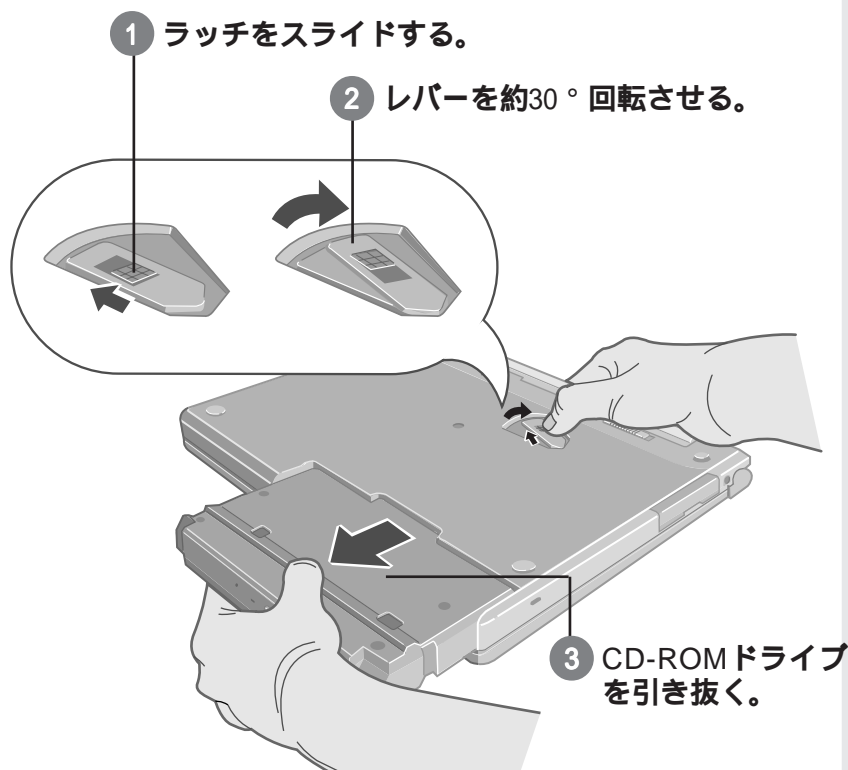
2 ディスプレイを閉じて、本体を裏返す。

3 CD-ROMドライブを取り外す／取り付ける

<取り外す場合>

① ラッチをスライドする。

② レバーを約30°回転させる。

③ CD-ROMドライブを引き抜く。

お願い

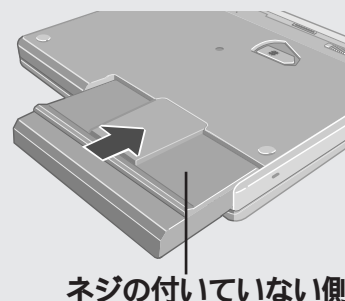
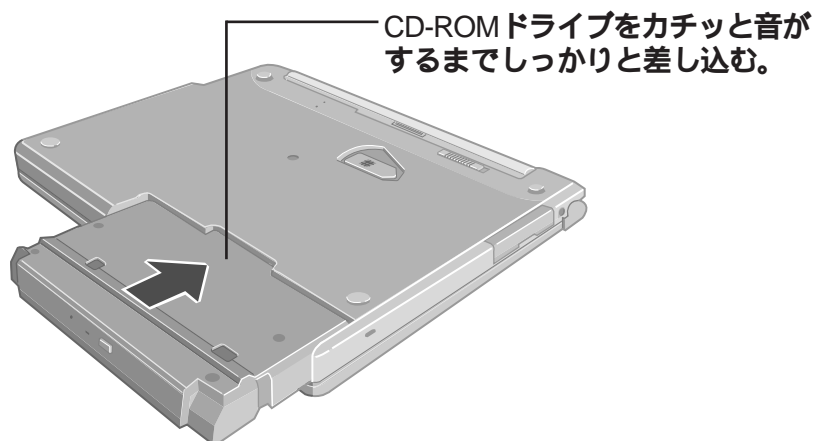
- BaySwap機能を使用しない場合やMS-DOS上でCD-ROMドライブの取り付け/取り外しを行う場合は、必ず電源を切ってから行ってください。
- スタンバイや休止状態でのCD-ROMドライブの取り付け/取り外しはできません。

◀ 左の画面が表示されているとき、スタンバイや休止状態に入ることはできません。

お願い

- CD-ROMドライブのコネクター部に手を触れないでください。
- 何も取り付けられていないときに上から強い力をかけないでください。
- CD-ROMドライブを取り外した後は拡張バッテリーパック（別売）またはウェイトセーバーを取り付けておいてください。取り付け/取り外しの方法はCD-ROMドライブと同じです。

<ウェイトセーバーを取り付ける>
ウェイトセーバーのネジの付いていない側を本体の底面側に向けて挿入してください。逆向きに挿入すると取り出せなくなります。

＜取り付ける場合＞

4 本体を表に返し、ディスプレイを開ける。

お願い

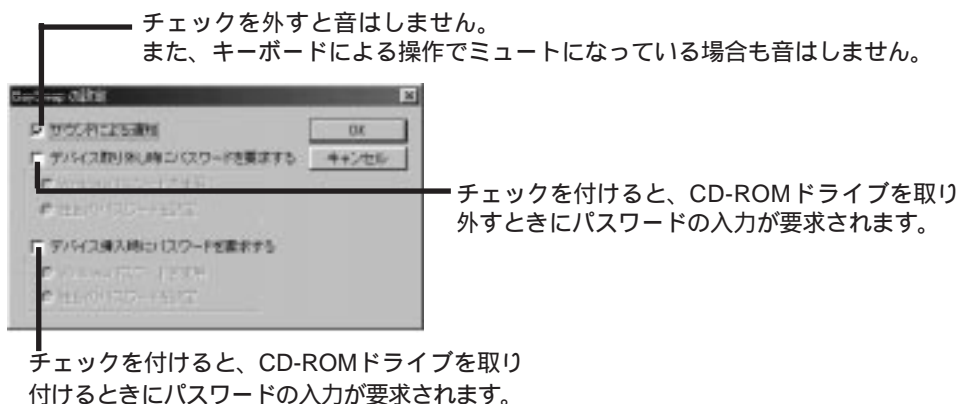
CD-ROMドライブ装着部には、付属のCD-ROMドライブ以外は絶対に装着しないでください。

◀ ピポという音（下記）がしたら、CD-ROMドライブが使用できます。

使いかた

拡張

「BaySwapの設定」を変更するには

タスクバーの を右ボタンでクリックし、［BaySwapの設定］をクリックすると以下の画面が表示され、パスワードの設定などを行うことができます。

フロッピーディスクドライブを使う

フロッピーディスクドライブ(外部FDD:CF-VFDU02)をご使用ください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 フロッピーディスクドライブを取り付ける/取り外す。

<取り付ける場合>

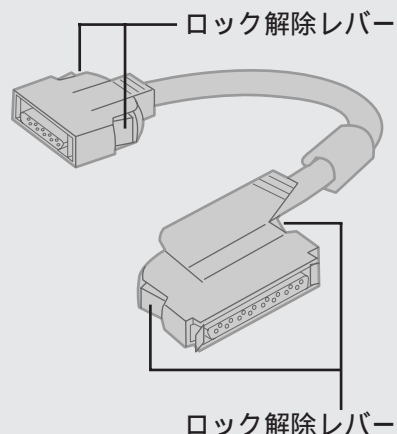
1 拡張バスコネクターのカバーを開ける。

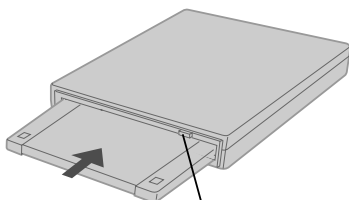
2 周辺接続ケーブルの各コネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

<取り外す場合>

ロック解除レバーを押しながらそれぞれのコネクターを引き抜く。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

周辺接続ケーブル
- I/O FDDと刻印されているコネクターを外部FDDへ
- EXT.と刻印されているコネクターを本体へ

フロッピーディスクのセット/取り出し

<セットする場合>

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

<取り出す場合>

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

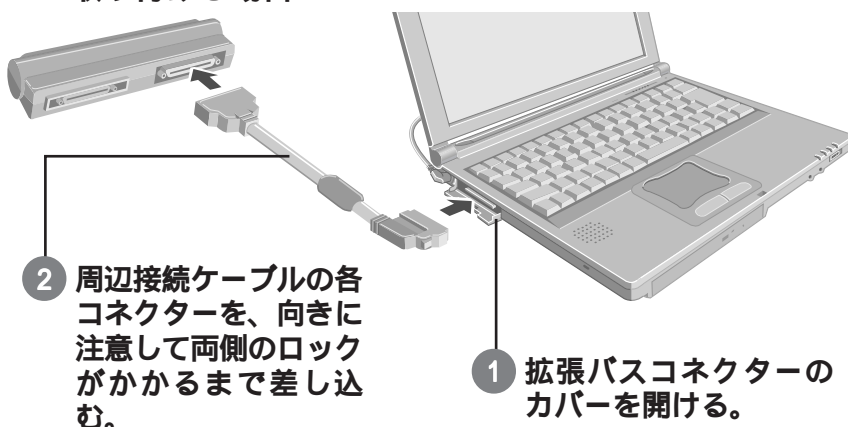
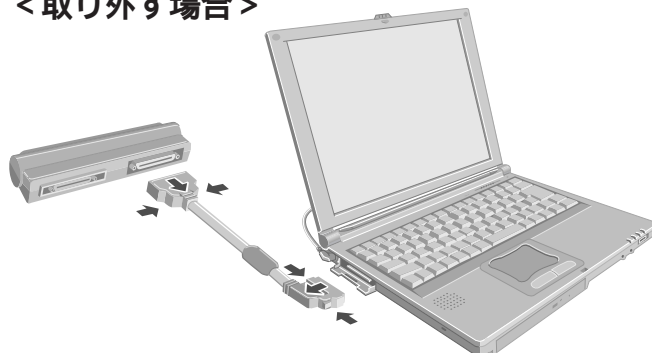
お願い
- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

I/Oボックスを使う

プリンターや外部ディスプレイなどを接続するときは、まず、本体に別売りのI/Oボックス（→146ページ）を取り付けてください。

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 I/Oボックスを取り付ける／取り外す。

＜取り付ける場合＞

❷ 周辺接続ケーブルの各コネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

❶ 拡張バスコネクターのカバーを開ける。

＜取り外す場合＞

ロック解除レバーを押しながらそれぞれのコネクターを引き抜く。

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』

周辺接続ケーブル
- I/O FDDと刻印されているコネクターをI/Oボックスへ
- EXT.と刻印されているコネクターを本体へ

使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量

フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。

2HD: 1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
2DD: 720 Kバイト

1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きするには、ドライバープログラムをインストールする必要があります。詳しくは、「1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き」（→125ページ）をご覧ください。

用 語

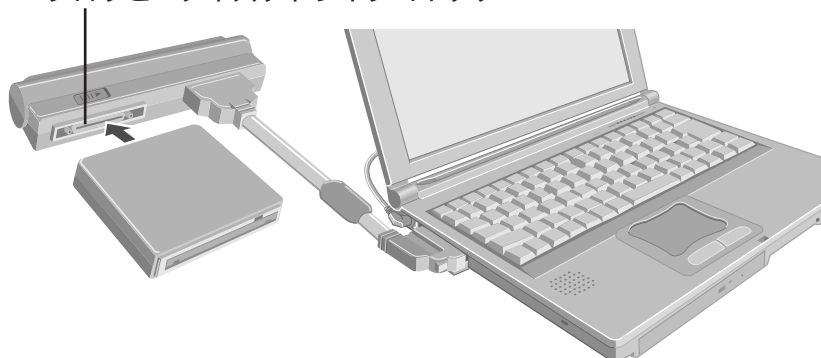
読み出し：フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」といいます。
書き込み：メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
フォーマット：新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」(初期化)といいます。

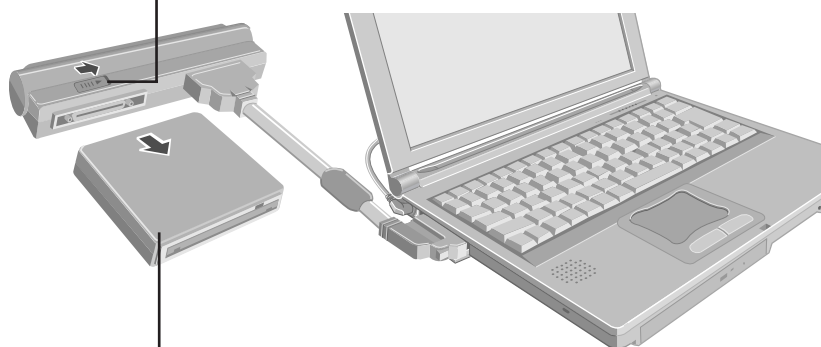
フロッピーディスクドライブとI/Oボックスの両方を使う

1 操作を終わり、電源が切れたことを確認する。

2 I/Oボックスを取り付ける。

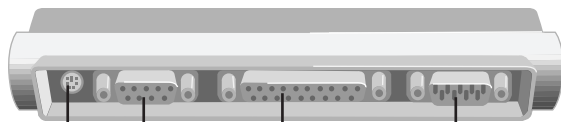
3 フロッピーディスクドライブを取り付ける／取り外す。

<取り付ける場合>

コネクターの向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

<取り外す場合>

◀詳しくは
→取扱説明書『セットアップ編』
I/Oボックスの取り付け／取り外し
→前ページ

I/Oボックスに周辺機器を接続する

1 I/Oボックスを取り付ける。

2 各周辺機器を接続する。

I/Oボックスの取り付け／取り外し
→101ページ

◀各周辺機器の設定・準備などについては、各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

◀マウスまたはキーボードのいずれかと、外部ディスプレイのみを接続したい場合はミニI/Oボックスが便利です。

マウスとスマートポインターを併用する場合

マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやスマートポインターが正しく動作しない場合があります。

インテリマウス™とスマートポインターを併用する場合

インテリマウスのホイールスクロール機能は使用できません。ホイールスクロール機能を使用する場合はセットアップユーティリティーの「メイン」メニューで「スマートポインター」を[無効]に設定してください。ただしスマートポインターは使用できなくなります。

デュアルディスプレイモードを使う

別売りの外部ディスプレイを接続している場合、デュアルディスプレイモードを使うと内部LCDと外部ディスプレイを連続した表示領域として使うことができます。

外部ディスプレイ

内部LCDから外部ディスプレイにウィンドウのドラッグ移動ができます。
（上記はサンプル画面です。実際の画面と異なる場合があります。）

◀アプリケーションソフトによっては、デュアルディスプレイモードを使用できない場合があります。

デュアルディスプレイモードを設定する

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[画面]をダブルクリックする。

2 ① [設定]→[詳細]→[NeoMagic]を クリック

② 「デュアルディスプレイ設定」にチェックマークを付ける

③ [OK]を クリック

3 コンピューターを再起動する。

「Windowsを再起動して変更が効果を表すようにします...」というメッセージが表示されます。[はい]をクリックしてください。

再起動後、デュアルディスプレモードにならない場合
[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で外部ディスプレイ[2]を右ボタンでクリックし、「使用可能」メニューにチェックマークを付けてください。

4 画像の領域・色数を設定する。

[コントロールパネル]→[画面]→[設定]で設定します。
内部LCDと外部ディスプレイにはそれぞれモニター番号が付けられています。内部LCD[1]と外部ディスプレイ[2]をクリックし、それぞれに対して画面領域・色数を指定してください。

画面領域・色数について
→106ページ

5 拡張表示位置を設定する。

モニター番号をドラッグ＆ドロップし、実際の外部ディスプレイの配置位置にあわせると、操作がしやすくなります。

外部ディスプレイの配置例：

右側に配置する場合

後側に配置する場合

左側に配置する場合

6 [OK]をクリックする。

モニター番号を確認するには

画面のプロパティのモニター番号をクリックしたままにしておくと、その番号に対応したモニター側に下のように番号が表示されます。

デュアルディスプレイモードを設定すると

- 最大化ボタンをクリックするとどちらか一方のディスプレイに最大表示されます。
- 最大化したウィンドウをもう一方のディスプレイに移動することはできません。
- デュアルディスプレイモードを設定しても、電源を切った状態で外部ディスプレイを取り外し、起動するとデュアルディスプレイモードは自動的に解除されます。
- デュアルディスプレイモードを使うと、各種アプリケーション（インターネットエクスプローラなど）のスクロール速度が少し遅くなります。

起動アプリケーションソフトが画面に表示されないとき

アプリケーションソフトが外部ディスプレイ（モニター２）にある状態、または外部ディスプレイでそのアプリケーションを終了したあとで、拡張表示位置を変更したりデュアルディスプレイモードを終了したりすると、次回、起動したアプリケーションソフトが画面に表示されない場合があります。

<拡張表示位置を変更したあと、表示されなくなった場合>

起動したアプリケーションソフトは変更前の拡張表示位置に表示されています。
いったん、拡張表示位置を変更前の状態に戻してから、アプリケーションソフトを内部LCD（モニター１）に移動したあと、拡張表示位置を変更してください。

<デュアルディスプレイモードを終了したら、表示されなくなった場合>

起動したアプリケーションソフトは外部ディスプレイ（モニター２）に表示されています。再度、デュアルディスプレイモードに設定し、アプリケーションソフトを外部ディスプレイ（モニター２）から内部LCD（モニター１）に移動した後、デュアルディスプレイモードを終了してください。

壁紙、アイコン位置がずれるとき

壁紙：　壁紙を設定しなおしてください。
アイコン：アイコンの自動整列を実行してください。

次ページ下部に続く

画面領域・色数について

デュアルディスプレイモードで設定できる画面領域・色数の組み合わせは以下のとおりです。

内蔵LCD	外部ディスプレイ 256色		
	640×480	800×600	1024×768
640×480 256色	○	○	○
640×480 High Color	○	○	○
640×480 True Color	○	○	○
800×600 256色	○	○	○
800×600 High Color	○	○	○
800×600 True Color	○	○	○
1024×768 256色	○	○	○
1024×768 High Color	○	○	-
1280×1024 256色	○	○	○

内蔵LCD	外部ディスプレイ 65,536色(High Color)		
	640×480	800×600	1024×768
640×480 256色*1	-	-	-
640×480 High Color	○	○	○
640×480 True Color	○	○	-
800×600 256色*1	-	-	-
800×600 High Color	○	○	-
800×600 True Color	○	-	-
1024×768 256色*1	-	-	-
1024×768 High Color	○	-	-

*1選択できますが外部ディスプレイの色数は256色になります。

色数について

High Color: 65,536色
True Color: 約1,600万色

省電力機能を使うとき

省電力ユーティリティーソフトウエア「PowerPanel」の機能により、ディスプレイの電源が切れないように設定してください。この設定をしない場合、正常に表示できない場合があります。

マウスポインターにアニメーションポインターを使うとき

「コントロールパネル」の「デスクトップテーマ」でテーマを変更したときなど、スタンバイや休止状態からリジュームしたときにエラーが発生することがあります。このような場合は、次の手順でマウスポインターを標準のポインターに変更してください。

①「コントロールパネル」の［マウス］をダブルクリックする。
②「ポインタ」タブをクリックする。
③「デザイン」の中から「Windowsスタンダード」を選択する。
④［OK］をクリックする。

RAMモジュールを使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティーの「メイン」メニュー（→114ページ）で確認することができます。
工場出荷時は、64 Mバイトです。さらに別売りのRAMモジュールを増設することによってメモリー容量を拡張することができます。RAMモジュールを増設または取り外す場合は、以下の手順に従って操作してください。

お願い

下記指定以外のRAMモジュールを使用すると、正常に動作しないだけでなく故障の原因になる場合があります。
64 M**バイト** RAM**モジュール**
品番：CF-BAF1064J
128 M**バイト** RAM**モジュール**
品番：CF-BAF0128J

◀**詳しくは**
→取扱説明書『セットアップ編』

お願い

- **スタンバイや休止状態のときは、機器の取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。**
- **拡張バッテリーパックを取り付けている場合は、取り外してください。**

1 **操作を終わり、電源が切れたことを確認する。**

2 AC**アダプターとバッテリーパックを取り外して本体を裏返す。**

3 **ネジを取り外す。**

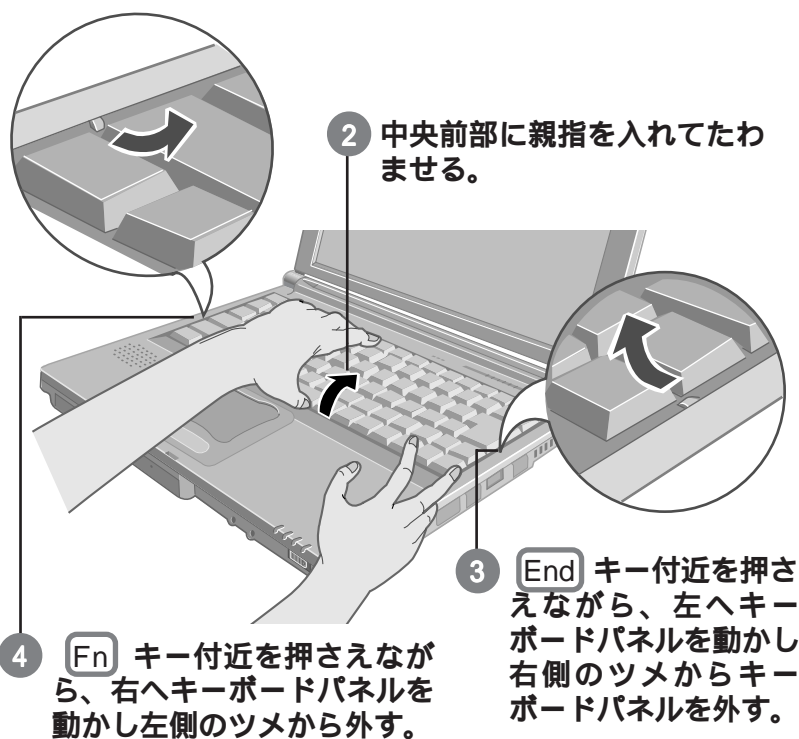
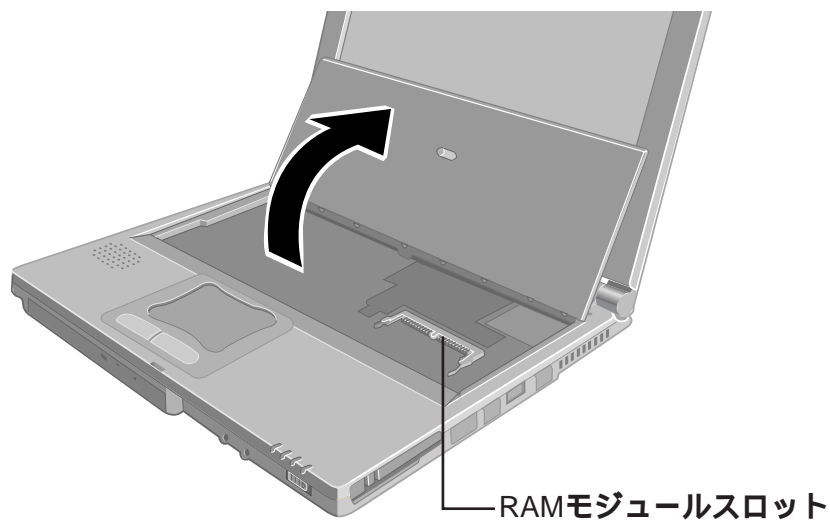
小型のプラスドライバーを使ってネジを取り外す。

4 **キーボードパネルを取り外す。**

❶ 薄い定規などを、キーボードパネルとスマートポインターとの間に差し込んで、キーボードパネルの中央部を上に少し浮かせる。

（次ページにつづく）

使いかた

拡張

5 キーボードパネルを開ける。

お願い

キーボードパネルをディスプレイ側に無理に押し倒さないでください。

6 RAMモジュールを取り付ける／取り外す。

<取り付ける場合>

<取り外す場合>

7 キーボードパネルを取り付ける。

1 キーボードパネルの中央前部に親指を入れて Fn キー付近を押さえながら、左へ動かして左ツメにひっかける。

2 End キー付近を押さえながら、右へ動かし、右ツメにひっかける。黒シートがツメの下にあることを確認してください。

8 キーボードパネルを閉じて本体を裏返し、ネジを締める。

9 ACアダプター、バッテリーパックを取り付ける。

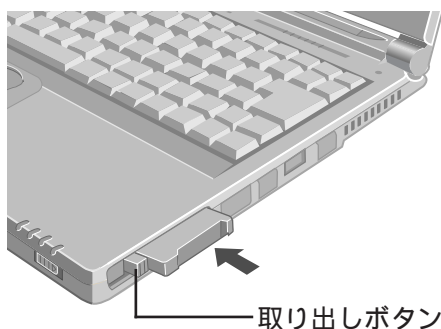
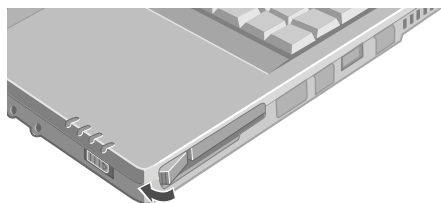
◀向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。

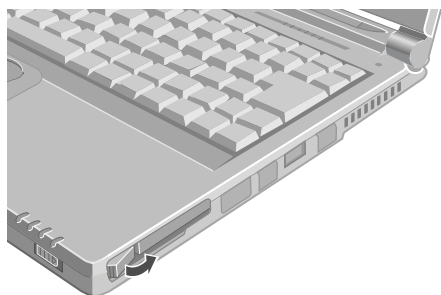
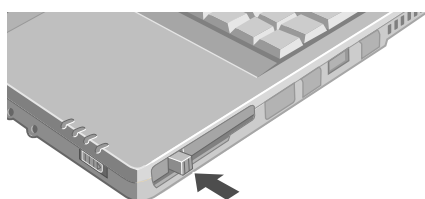
お願い

RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内にたまった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

PCカードを使う

本機にはPCカード用スロットが１つあります。
PCカードを使うことにより通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3mm）、タイプⅡ（5.0mm）、タイプⅢ（10.5mm）の３つの種類に分けられます。
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

＜取り付ける場合＞

1. カードをPCカードスロットにしっかりと差し込む。
取り出しボタンが飛び出ます。

2. 取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

＜取り外す場合＞

1. 取り出しボタンの折れ曲がり部分を起こす。

2. 取り出しボタンを押し、カードを取り出す。

ご使用の前に
- 必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（許容電流：3.3 Vで500 mA,5 Vで400 mA,12 Vで120 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
- PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。
- 本機はZVカードには対応していません。

お願い

PCカードを取り出す場合：
「コントロールパネル」の[PCカード（PCMCIA）]をダブルクリックし、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で取り出すPCカードを選んで、[停止]をクリックしてください。その後、「このデバイスは安全に取り外せます」というメッセージが表示されたら、[OK]をクリックしてください。
CardBusおよびネットワークカードを取り出す場合：
必ず電源を切ってから取り外してください。

必要なときに

セットアップユーティリティーの設定のしかたやオンラインマニュアルの見かたなど、必要に応じてご覧いただきたいことについて説明しています。

もくじ

セットアップユーティリティー

ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティー（セットアップユーティリティー）について説明します。

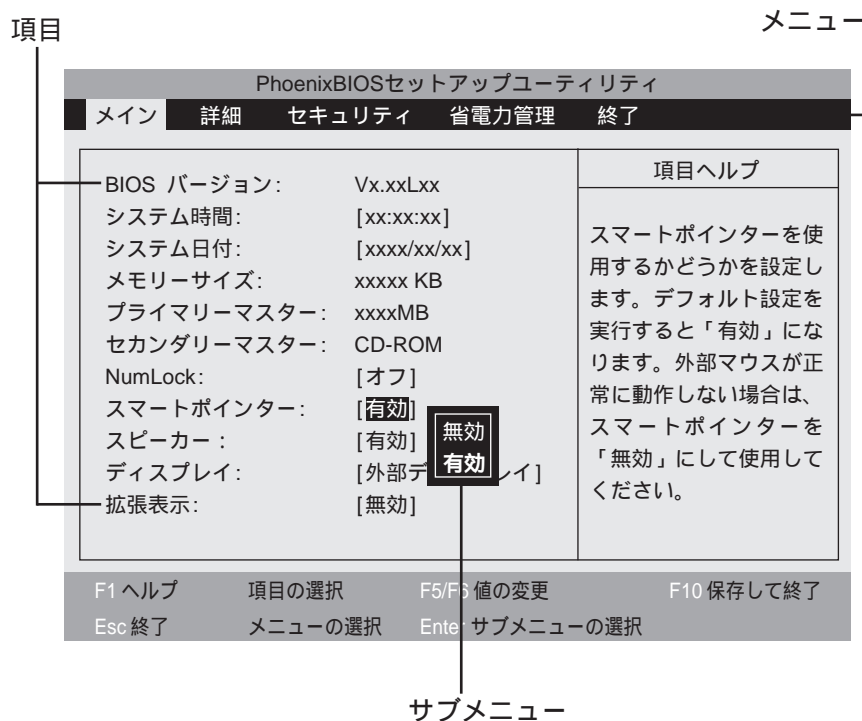
起動する

1 **Windowsを終了して再起動する。**

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 **「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに F2 を押す。**

◀ F2を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。その場合、Windowsを終了して再度やり直してください。

◀「パスワードを入力してください」と表示されたら、パスワードを入力してください。
ただし、ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合、ここでユーザーパスワードを入力すると表示されないメニューや項目があります。(→117ページ)

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

F1 :一般ヘルプが画面に表示されます

← → :「メイン」「詳細」「セキュリティ」「省電力管理」「終了」の各メニューを選ぶときに使用します。

↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。

F5 F6 :各項目の設定値を選ぶときに使用します。

Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

F10 :設定を保存して終了します。

Esc :「終了」メニューが表示されます。

Tab :日時設定のとき、カーソルの移動に使用します。

終了する

1 ← → で「終了」メニューを選ぶ。

設定を保存して終了
設定を保存しないで終了
デフォルト設定する
設定を戻す
設定を保存する

設定を戻す：セットアップユーティリティー起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

デフォルト設定する：標準設定にします。(工場出荷状態)

2 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。

コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

◀ 起動時、パスワードの入力を求められた際にユーザーパスワードを入力した場合、「デフォルト設定する」の項目は表示されません。

◀ パスワードが有効になっている場合は、Windowsが起動するまでにパスワードの入力が必要です。

メインメニュー

1 ← → で「メイン」メニューを選ぶ。

800×600サイズ以下の画面をLCDいっぱいに拡張して表示する拡張表示機能の[有効]または[無効]を設定します。

スピーカーの[有効]または[無効]を設定します。

スマートポインターの[有効]または[無効]を設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時にテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）による入力を[オン]にするか[オフ]にするかを設定します。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

ディスプレイ

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。

表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部ディスプレイ	内部LCD	同時表示
640×480　16色	○	○*1	○*1
640×480　256色	○	○*1	○*1
640×480　65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
640×480　約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
800×600　256色	○	○*1	○*1
800×600　65,536色（High Color）	○	○*1	○*1
800×600　約1,677万色（True Color）	○	○*1*2	○*1*2
1024×768　256色	○	○	○
1024×768　65,536色（High Color）	○	○	○
1024×768　約1,677万色（True Color）	○	○*2	○*2
1280×1024　256色	○	○*3	○*3

◀ [外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部ＬＣＤ表示となります。

*1 画面の中央に小さく表示されますが、セットアップユーティリティーで「拡張表示」を有効（→前ページ）に設定すると画面いっぱいに表示することができます。

*2 内部LCDには、ディザリング機能により約1,600万色までの表示が可能です。

*3 画面全体の一部（1024×768の範囲）が表示されます。
カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

キー操作による切り換え
Fn ＋ F3 で表示先を切り換えることもできます。
詳しくは→124ページ

詳細メニュー

1 ← → で「詳細」メニューを選ぶ。

それぞれのポートの設定を行います。

プラグ＆プレイ：	[使用する]
シリアルポート:	[3F8/IRQ4]
赤外線通信ポート:	[338/IRQ5]
パラレルポート:	[378]
モード:	[ECP]
内蔵モデム：	[有効]
内蔵 LAN：	[有効]
レガシー USB：	[使用しない]

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

レガシーUSB機器を[使用する]か[使用しない]かを設定します。

◀ レガシーUSB機器とは、電源を入れた後、Windowsが起動していない状態でも動作するUSB機器（マウス、キーボード）のことです。

内蔵LANを[有効]または[無効]に設定します。

内蔵モデムを[有効]または[無効]に設定します。

パラレルポートのデータ送信方向を[ECP]、[EPP]、[単方向]、[双方向]のいずれかに設定します。
[ECP]に対応していない機器を使用する場合は、[双方向]に設定してください。

パラレルポートのポート設定を[378]または[無効]に設定します。

◀ ポート設定では、割り込み要求（IRQ）とI/Oポートアドレスを設定します。

赤外線通信ポートのポート設定を[338/IRQ5]または[無効]に設定します。

シリアルポートのポート設定を[3F8/IRQ4]または[無効]に設定します。

[使用する]にすると、各項目の設定値をOS側がより最適と判断する値に自動的に変更することができます。
[使用しない]にすると、各項目の設定値をOS側は変更することができません。

◀ 通常は[使用する]に設定しておいてください。

セキュリティメニュー

1 ← → で「セキュリティ」メニューを選ぶ。

Wake Up機能の[有効]または[無効]を設定します。（→120ページ）
この機能を使用するにはLANによるWake Up機能が可能なネットワーク環境が必要です。

スタンバイ状態のとき、内蔵モデムに着信があった場合に電源が入るリングリジューム機能の[有効]または[無効]を設定します。（→120ページ）

システムを起動するドライブを[A:/C:]、[C:]、[CDD/A/C:]に設定します。

フロッピーディスクドライブの操作の[有効]または[無効]を設定します。

起動ドライブ:	[A:/C:]
フロッピー操作:	[有効]
内蔵モデムリングリジューム:	[有効]
内蔵 LAN Wake Up 機能:	[無効]
▶スーパーバイザーパスワード設定:	[Enter]
ユーザーパスワード保護:	[保護しない]
▶ユーザーパスワード設定:	[Enter]
プロセッサ・シリアル番号機能:	[使用しない]

Pentium®IIIのシリアル番号機能を使用するようにするかしないかを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

ユーザーパスワードの変更をできないようにする（保護する）かできるようにする（保護しない）かを設定します。

コンピューターの起動およびセットアップユーティリティーの起動をパスワードによって機密保護します。

◀ 詳細メニューで「内蔵LAN」を[無効]にした場合は設定できません。

◀ 詳細メニューで「内蔵モデム」を[無効]にした場合は設定できません。

◀「起動ドライブ」が[A:/C:]または[CDD/A:/C:]のときは、自動的に[有効]に設定されます。

◀ 左記は標準設定（工場出荷状態）の画面例です。

◀ スーパーバイザーパスワードが設定されているときのみ設定できます。

セットアップユーティリティーの起動時にユーザーパスワードを入力した場合

下記の設定を行うことができません。
- 詳細メニュー（→前ページ）
- セキュリティメニューの一部（起動ドライブ、フロッピー操作、内蔵モデムリングリジューム、スーパーバイザーパスワード設定、ユーザーパスワード保護、プロセッサ・シリアル番号機能）
- 終了メニューの一部（デフォルト設定）

セットアップユーティリティー

パスワード設定のしかた

1 セットアップユーティリティーの「セキュリティ」メニューを選び[スーパーバイザーパスワード設定]または[ユーザーパスワード設定]を選んで Enter を押す。

◀ 画面は、スーパーバイザーパスワードを設定する場合を例にしています。
◀ ユーザーパスワードはスーパーバイザーパスワードを設定している場合のみ設定できます。

2 パスワードを設定する。
<パスワードを新規に設定する場合>

▸スーパーバイザーパスワード設定	
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

❶ パスワードを入力して Enter を押す。
❷ 手順❶で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

<パスワードを変更する場合>

▸スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを入力してください	[ ]
新しいパスワードを確認してください	[ ]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。
❷ 新しいパスワードを入力して Enter を押す。
❸ 手順❷で入力したパスワードを入力して Enter を押す。

◀ 入力したパスワードは画面に表示されません。
◀ ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードを同じパスワードにした場合、そのパスワードはスーパーバイザーパスワードとして扱われ、ユーザーパスワードは設定されていないとみなされます。

お願い
パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
忘れた場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。（パスワードを解除する場合は、修理扱い（有償）となります。）

パスワード入力の制限
- 入力可能な文字は、半角の英数字で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl およびスペースキーなどの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。

無断でパスワードを変更されることを避けるために
- セットアップユーティリティーを起動したままコンピューターから離れないでください。
- 「ユーザーパスワード保護」を「保護する」に設定してください。（→前ページ）

＜設定済みのパスワードを無効にする場合＞

▶スーパーバイザーパスワード設定	
現在のパスワードを入力してください	[　　　　　]
新しいパスワードを入力してください	[　　　　　]
新しいパスワードを確認してください	[　　　　　]

❶ 設定済みのパスワードを入力して Enter を押す。

❷ 何も入力せずに Enter を押す。

❸ 何も入力せずに Enter を押す。

3 「変更が保存されました。」と表示されたら、任意のキーを押す。

パスワードを設定時の起動

以下のようにパスワードの入力を求められますので、設定したパスワードを入力してください。

セットアップ
ユーティリティー起動時：パスワードを入力してください。[　　　　　]
コンピューター起動時　：
コンピューター起動時のパスワード要求はユーザーパスワードを設定している場合に表示されます。上記アイコンが表示されたら、パスワードを入力してください。

パスワードの入力を3回間違えると

- 電源オン時には、電源が切れます。
- スタンバイ状態からのリジューム時には、スタンバイ状態に戻ります。
- 休止状態からのリジューム時には、休止状態に戻ります。

内蔵モデムリングリジューム機能

＜内蔵モデムリングリジューム機能とは＞
スタンバイ状態のときに電話がかかるとコンピューターの電源が自動的に入る機能のことです。
リングリジューム機能を使用する場合は、「まいと〜く FAX V3 Lite」など電話の待ち受け状態を保持できるソフトウェアを起動しておく必要があります。
不在時のFAX自動受信などを活用する際に便利です。

◀ 休止状態からはリジュームできません。

◀ シリアルモデムやPCMCIAカードモデムのリングリジュームは動作しません。

＜使用時のお願い＞
・内蔵モデムリングリジューム機能により、長期不在時にもかかわらず電源が入ったままになることを避けるために、省電力ユーティリティーソフトウェア「PowerPanel」を使って、受信完了後、再度スタンバイ状態になるようなプロファイルを新規に作成・設定することをお勧めします。その際「プロファイル自動選択」を選ばないようにしてください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用しない場合は、セットアップユーティリティーで「内蔵モデムリングリジューム」を「無効」に設定してください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用している場合、電話がつながるまで時間（リジュームで起動する時間相当）がかかります。リジュームを行うには通常の電話呼び出しよりも長く呼び出しを行ってください。
・内蔵モデムリングリジューム機能を使用する場合、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
・LCDパネルが閉じられている状態で、セットアップユーティリティーの「省電力管理」メニューの「パネルスイッチ」が「サスペンド」や「ハイバーネーション」に設定されていると内蔵モデムリングリジューム機能は働きません。

◀ 送信側の呼び出しを長く設定できない場合は、電話の待ち受け状態を保存できるソフトウェアで着信までのベル回数を少なく設定してください。
・「まいと〜く FAX V3 Lite」で設定する場合
[ツール]→[FAXのプロパティ]→[FAX受信]→[着信までのベル回数]を選び、回数を設定してください。（工場出荷時は3回に設定されています。）

内蔵LAN Wake Up機能

＜内蔵LAN Wake Up機能とは＞
ネットワークサーバーからコンピューターの電源を自動的に入れる機能です。
この機能を使用するにはLANによるWake Up機能が可能なネットワーク環境である必要があります。

＜使用時のお願い＞
・必ず、ACアダプターを接続し、電力の供給が可能な状態にしてください。
・LANが使用できる設定を行ってください。（→79ページ）
・「内蔵LAN Wake Up機能」を「有効」に設定してください。
・「ユーザーパスワード設定」を無効にしてください。
・内蔵LAN Wake Up機能を使用する場合、[コントロールパネル]→[電源の管理]→[詳細]の「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」にチェックマークを付けないでください。
詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

省電力管理メニュー

1 ← → で「省電力管理」メニューを選ぶ。

電源オン時に、コンピューターの電源スイッチをスライドしたときの動作を[サスペンド][ハイバーネーション][パワーオフ]のいずれかに設定します。

パワースイッチ：	[サスペンド]
パネルスイッチ：	[LCD オフ]
CD-ROM ドライブ速度：	[高速]

LCDパネルを閉じたときの動作を[LCDオフ][サスペンド][ハイバーネーション]のいずれかに設定します。

<サスペンドを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、スタンバイ状態になる。

↓

LCDパネルを開けると、リジュームする。

<ハイバーネーションを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、休止状態になる。

↓

LCDパネルを開けて電源スイッチをスライドしたら、リジュームする。

<LCDオフを選んだ場合>

LCDパネルを閉じると、LCDの電源が切れる。

↓

LCDパネルを開けると、LCDの電源が入る。

CD-ROMドライブの速度を[高速][中速]のいずれかに設定します。CD-ROMの振動が大きい場合やバッテリーでの使用時に消費電力を抑えたい場合などは、速度を落として使用してください。

◀ セットアップユーティリティーでは、「スタンバイ」を「サスペンド」、「休止状態」を「ハイバーネーション」と呼んでいます。

◀ LCDパネルを閉じる以外の方法でスタンバイ状態にした場合は、LCDパネルを開いてもリジュームしません。

オンラインマニュアルの見かた

画面で見ることができるオンラインマニュアルとして、以下のものが用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

＜困ったときのQ&A＞
　本機が思ったとおりに動かないなど、トラブルが発生したときの対処方法をQ&A方式でまとめています。

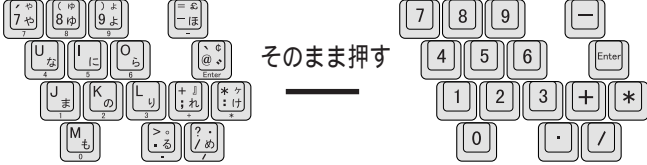
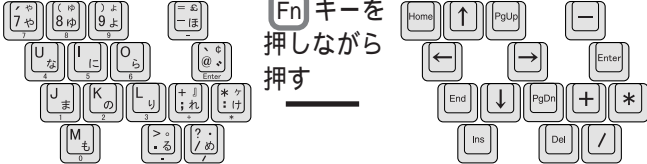
＜パソコン・サポートとつきあう方法＞
　初めてのかたを対象に、電話サポート窓口を上手に利用する方法やコンピューターの専門的な用語・略語などについて説明しています。（編集：社団法人　日本電子工業振興協会）

＜内蔵モデムコマンド一覧＞
　内蔵モデムのATコマンドについて説明しています。

◀ オンラインマニュアルを見るには、Acrobat® Readerがインストールされている必要があります。（→132ページ）

オンラインマニュアルの起動のしかた

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[オンラインマニュアル]をクリックし、見たいマニュアルを選ぶ。

（「困ったときのQ&A」はデスクトップの[困ったときのQ&A]アイコンをダブルクリックしても起動することができます。）

はじめて起動したとき
- 「ソフトウェア使用許諾契約書」画面が表示されるので、内容を確認の上、[同意する]をクリックしてください。
- 左記以外の方法（エクスプローラなどから、マニュアルのファイルをダブルクリックするなど）ではじめてオンラインマニュアルを起動した場合、エラーメッセージが表示されることがあります。その場合は「OK」をクリックしてエラーメッセージ画面を閉じてください。

◀ 下部の「ページ表示・指定」がタスクバーにかくれて見えないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。

キーボードの操作

ここでは、そのキー自体に特殊な機能をもつキー（特殊キー）や、Fn キーといっしょに押すことによって特殊な機能が有効になるキー（ホットキー）の使いかたについて説明します。

特殊キー

キー	機　能
Esc 、ScrLk	アプリケーションソフトによって機能が異なります。
NumLk	Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り換えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。 ＜NumLkインジケーター点灯時：テンキー有効時＞ そのまま押す → テンキーモード ＜NumLkインジケーター消灯時：テンキー無効時＞ Fn キーを押しながら押す → カーソルキーモード
Pause/Break	プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。 Ctrl を押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。
CapsLock/英数	英数字入力になります。 Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。
Enter	コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。
Shift	通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。
Ctrl 、Alt	このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

◀ CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、 Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

キーボードの操作

キーコンビネーション（ホットキー）

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。
この操作を「ホットキー」と呼びます。

キーとアイコン	機　能
Fn ＋ F2	LCDバックライトの輝度を切り換えます。キーを押すごとに5段階で輝度が切り換わります。 輝度が最大（明）のときには、☼のアイコンが表示されます。
Fn ＋ F3	画面の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。
Fn ＋ F4	内蔵スピーカーから出る音を消します。 再度押すと元に戻ります。
Fn ＋ F5	内蔵スピーカーの音量を下げます。
Fn ＋ F6	内蔵スピーカーの音量を上げます。
Fn ＋ F7	本機を休止状態にします。
Fn ＋ F9	バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。 （詳しくは→95ページ）
Fn ＋ F10	本機をスタンバイ状態にします。
Fn ＋ F12	画面全体をクリップボードにコピーします。 Fn ＋ Alt ＋ F12 を押すと選択されているウィンドウのみをコピーできます。

◀ ACアダプターが接続されている状態と接続されていない状態の明るさが別々に記憶されます。

◀ 外部ディスプレイが接続されていない場合でも切り換え処理が行われます。（デュアルディスプレイモード時は無効です。）

◀ Fn ＋ F5 あるいは Fn ＋ F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。

◀ 「ボリュームコントロール」画面（→12ページ）でミュートや音量ゼロにしている場合、スピーカーオンでも音は出ません。

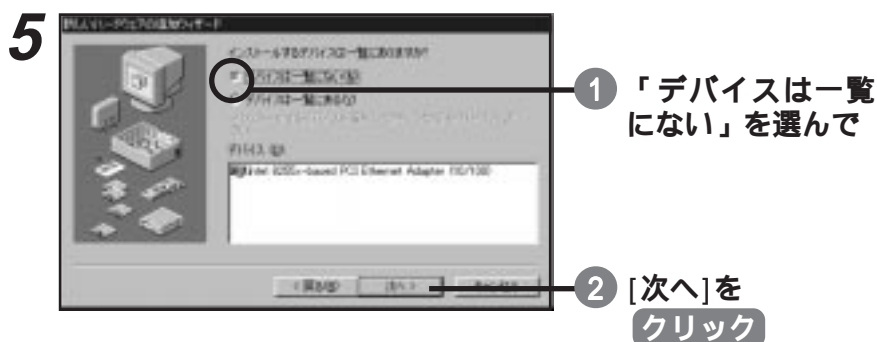
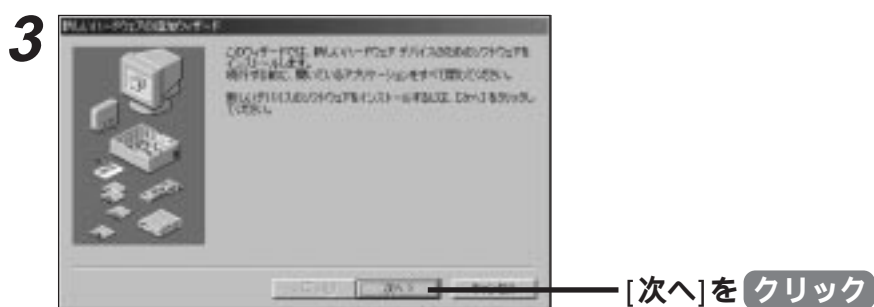
ホットキーの操作について

- Fn ＋ F4 、Fn ＋ F5 、Fn ＋ F6 キーを押した場合は、各設定値を表すアイコンが表示されます。（Fn ＋ F2 キーを押した場合は、輝度が最大のときのみ）
- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれることがあります。
- Fn ＋ F3 、Fn ＋ F4 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティーで設定されている状態に戻ります。

1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き

1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きする場合は、以下の手順に従ってWindows用の３モードFDドライバーをインストールしてください。

1 PowerPanelでCPUスピードを100%に設定する。（→89ページ）

2 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順に選び、[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする。

3

[次へ]を クリック

4

[次へ]を クリック

5

❶「デバイスは一覧にない」を選んで

❷[次へ]を クリック

◀ 左の画面は表示されない場合があります。

6

❶[いいえ]を選んで

❷[次へ]を クリック

（次ページへ続く）

7

❶「フロッピーディスクコントローラ」を選んで

❷ [次へ]を クリック

8

[ディスク使用]を クリック

9

❶「c:\util\drivers\3mode」と入力する。

❷ [OK]を クリック

10

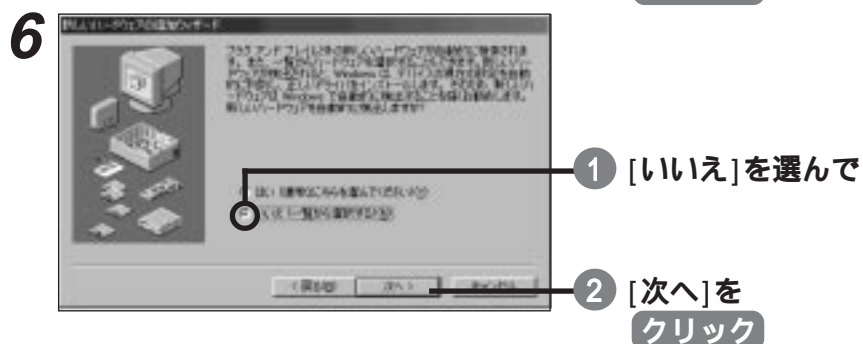
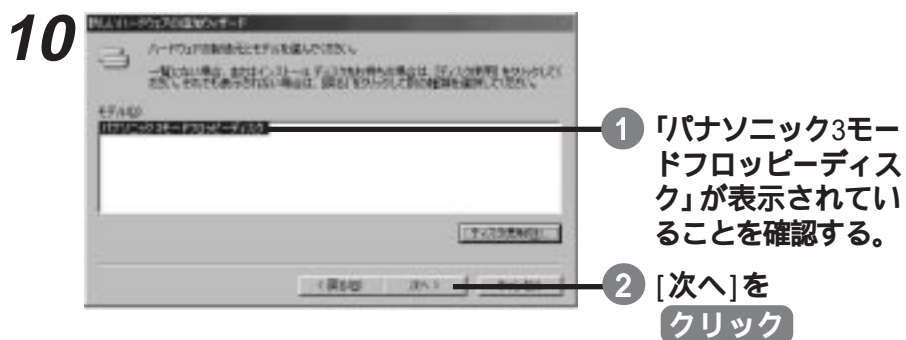
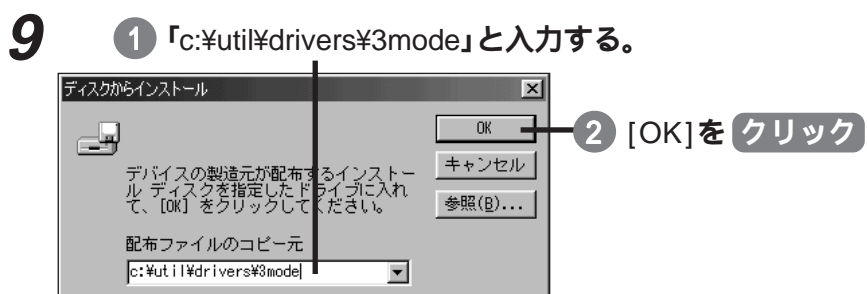
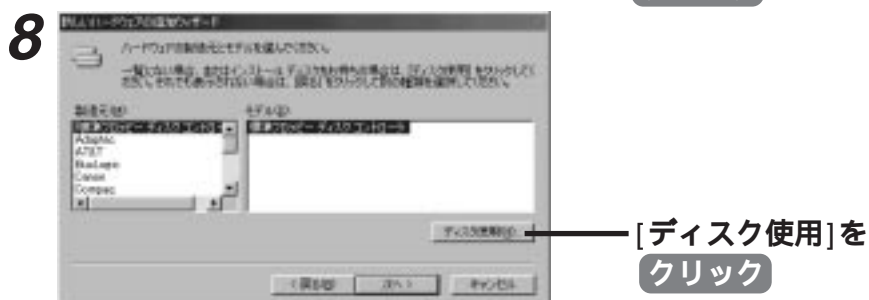
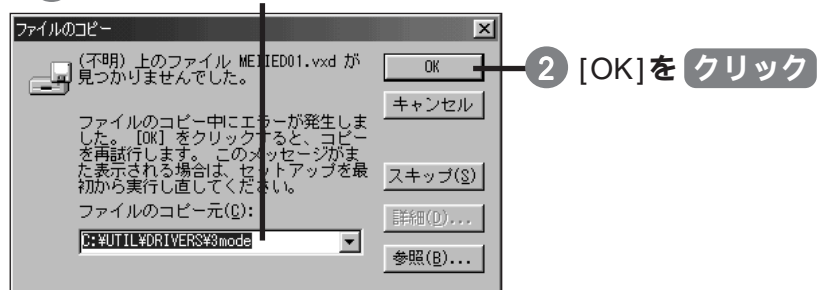
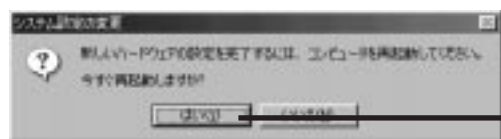
❶「パナソニック3モードフロッピーディスク」が表示されていることを確認する。

❷ [次へ]を クリック

11

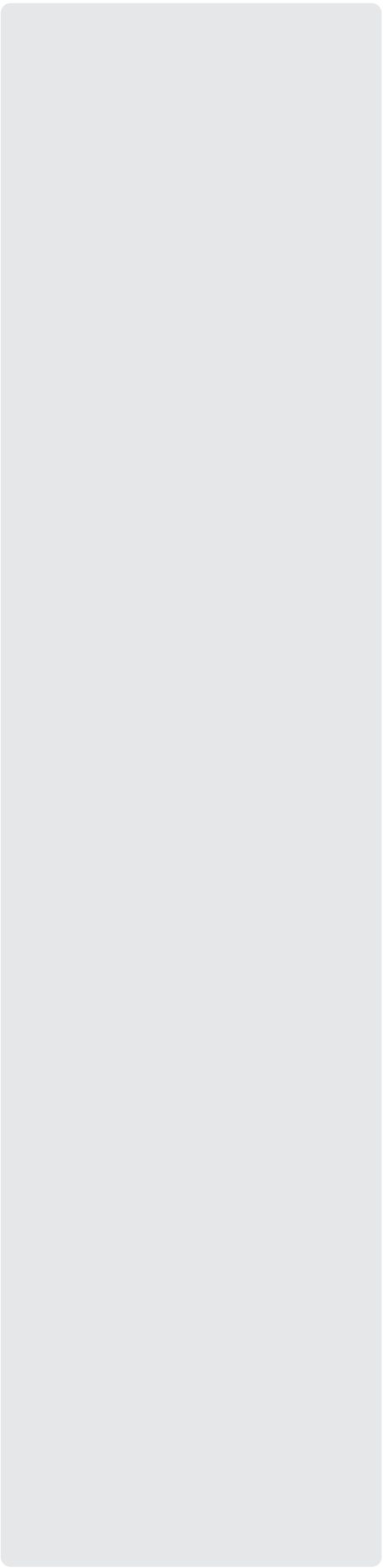
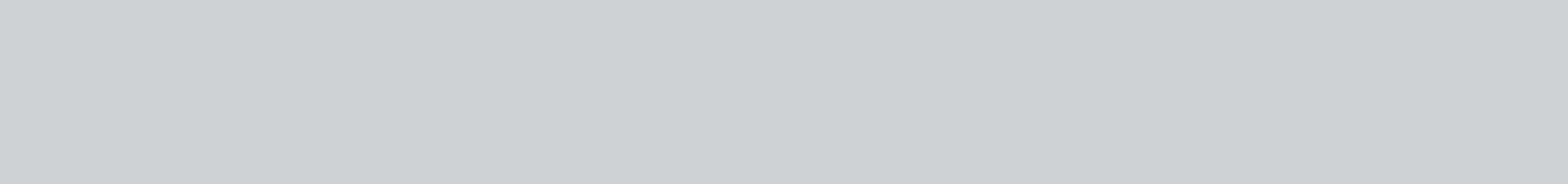
[完了]を クリック

12 ❶「c:\util\drivers\3mode」と入力されていることを確認する。

❷ [OK]を クリック

13

[はい]を クリック

お願い

- [はい]をクリックする前に、[コントロールパネル]の右上の☒をクリックして[コントロールパネル]を閉じてください。
- [はい]をクリックした後、しばらくの間（約2分間）画面が変化しない場合があります。自動的に再起動するまで、キーやスマートポインターなどの操作をしないでそのままお待ちください。

必要なときに

困ったときは

本機を動かそうとして思ったとおりに動かないときの対処方法や再インストールのしかたなどについて説明しています。

もくじ

困ったときのQ&A

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、「オンラインマニュアル」の「困ったときのQ&A」にはより詳しい情報が記載されています。（→「オンラインマニュアルの見かた」122ページ）
その他、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	確認1 • ACアダプターは、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれているか確認してください。 • 十分充電されたバッテリーパックが正しく入っているか確認してください。 • 電源を切った直後は、電源スイッチをスライドしても電源が入らない場合があります。5秒以上待ってから操作してください。 確認2 リセットスイッチを押して、本機を再起動させてみてください。 確認3 本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再度起動してみてください。 確認4 ハードディスクにアクセス可能かどうか確認し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。 ＜確認方法＞ ①フロッピーディスクドライブを接続し、「ファーストエイドFD」をドライブにセットする。 ②電源を入れる。 ③「A:\>」と表示されたら、「C:」と入力し、Enter を押す。 • [C:\>]が表示された場合 Windowsを起動するために必要なファイルが壊れている可能性があります。139ページの手順に従って再インストールを行うと、ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。ただし、作成したデータなどは消えてしまいます。あらかじめご了承ください。 • [C:\>]が表示されない場合 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	確認1 • コントロールパネルの「日付と時刻」を使って、またはセットアップユーティリティーを起動して正しい日付/時刻を設定してください。 • LAN（ネットワーク）に接続している場合、サーバーの日付や時刻を確認してください。 確認2 正しく設定してもすぐに表示が違ってくる場合、日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー（リチウム電池）の残量がない可能性があります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
パスワードを忘れた	お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

起動時の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
「Invalid system disk Replace the disk, and then press any key」と表示される	・システムを起動できないフロッピーディスクがフロッピーディスクドライブにセットされています。フロッピーディスクを取り出してから、何かキーを押してください。 ・フロッピーディスクがセットされていないのに左記メッセージが表示される場合、ハードディスクに何らかの問題が発生していることが考えられます。お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
数字とメッセージが表示される	表示されている番号はエラーコードです。コンピューターに何か問題が発生しています。 「エラーコード一覧」（→138ページ）に従って確認してください。
「Microsoft Scandisk」が起動している	前回終了時に、コンピューターを正しい方法で終了しなかった場合には、次にコンピューターを起動したときにハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft Scandisk」が自動的に動作します。その場合は、画面に従って操作してください。 また、コンピューターは必ず正しい方法で（[スタート]→[Windowsの終了]から）終了するようにしてください。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に動かなくなった	確認1 ・バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーの残量がない可能性があります。ACアダプターを接続してください。 ・使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。以下の手順で操作中のアプリケーションを終了してください。 ① Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押す。 ②動作しなくなったアプリケーションを選び、[終了]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら[終了]をクリックする。 場合によっては、壁紙が白くなることがあります。その場合は、「Active Desktopを元に戻す」をクリックした後、コンピューターを再起動してください。 確認2 ポインター（カーソル）が動かない場合は、リセットスイッチ（→14ページ）を押して、コンピューターを再起動してください。 リセットスイッチを押して再起動するとハードディスクのエラーを検出するプログラム「Microsoft Scandisk」が自動的に動作します。 画面に従って操作してください。

操作中の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で0%と表示された	確認1 ・バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 ・ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。 確認2 ACアダプターが正しく接続されているのに、またバッテリー残量はあるはずなのに赤色点灯や0%表示が続く場合は、「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→97ページ）に従って操作をしてください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	確認1 バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 確認2 それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー･ピー」と音が鳴り始めた	バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	確認1 ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 確認2 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
オンラインマニュアルを表示できない	確認1 Acrobat Readerをアンインストールしませんでしたか？アンインストールした場合は、[スタート]→[ファイル名を指定して実行]で「c:\util\reader\setup.exe」を起動し、画面に従ってインストールしてください。 その際、インストール先のフォルダーを変更しないでください。変更すると、デスクトップのアイコンやスタートメニューからオンラインマニュアルを起動できません。 （Acrobat ReaderはAdobe社のホームページhttp://www.adobe.co.jpからダウンロードすることもできます。） 確認2 「C:\UTIL\MANUAL」フォルダーに次のファイルがありますか？ない場合は「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL\MANUAL」からコピーしてください。 ・QA.PDF（困ったときのQ&A） ・SUPPORT.PDF（パソコン・サポートとつきあう方法） ・MODEM.PDF（内蔵モデムコマンド一覧）

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
画面が消えた	確認1 省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。電源表示ランプが点灯している場合はCtrl*などのキーを押してください。 *選択の際に使われるキー（Enter、Esc、Y、Nや数字キーなど）は使わず、動作に影響のないキー（Ctrl、Shiftなど）を押してください。 また電源表示ランプが点滅している場合は、スタンバイ機能が働いていることも考えられます。電源を入れてください。 確認2 バッテリー残量がなくなっていませんか？ ACアダプターを接続してください。 確認3 表示先が外部ディスプレイに設定されている可能性があります。Fn＋F3を押してディスプレイの表示先を切り換えてみてください。
残像が残る	イメージが画面に残ると、画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が表示されてしばらくすると、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る または正しい色が表示されないドットがある	カラー液晶ディスプレイの製造には精度の高い技術が要求されます。ちょっとした環境変化等で点灯しなかったり、常時点灯したりする画素ができますが、これらの画素が0.002%以下（有効画素が99.998%以上）のものは故障ではありません。あらかじめご了承ください。
ゲームの画面が乱れる	[コントロールパネル]→[画面]→[設定]を選び、[詳細]をクリックして[パフォーマンス]の「ハードウェアアクセラレータ」を「なし」に設定してみてください。
画像がモザイク状になる	True Color（24ビット）色で動画（AVIファイルやMPEGファイル等）を再生しているときに、動画ウィンドウの右上のコマンドボタンにカーソルを置いたり、動画ウィンドウのサイズを変更したりすると画像がモザイク状になることがあります。この場合、コマンドボタンからカーソルを移動するか、動画ウィンドウのサイズを元に戻すと正常な画像に戻ります。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	確認1 ・フロッピーディスクドライブが正しく接続されているか確認してください。 ・フロッピーディスクは正しくセットされているか確認してください。 ・フロッピーディスクは初期化されているか確認してください。 ・ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていないか確認してください。 確認2 セットアップユーティリティーで「フロッピー操作」を「無効」に設定していないか確認してください。
フロッピーディスクが初期化できない	・デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD (A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認してフォーマットしてください。 ・1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットする場合は下記手順に従って操作してください。 ①コンピューターの電源を入れる。 ②すぐに Ctrl を押し、メニュー画面が表示されたら手を離す。 （ユーザーパスワードを設定している場合は、パスワード入力後、約1秒以内に Ctrl を押してください。） ③メニュー画面で「Safe mode command prompt only」を選ぶ。 ④ 全角／半角 を押す。 ⑤次のように入力する。cd \windows\command Enter fd3mode Enter format3 a: Enter ⑥以降、画面のメッセージに従って操作する。
ハードディスクドライブにアクセスできない	原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
CDでトラブルが発生した	指定の方法（→16ページ）でCDのクリーニングを行ってください。
CD-ROMドライブのアクセスランプが点灯しない	CDは正しくトレイにセットされていますか？
CDの再生や読み込みができない	CDが変形していたり、傷や汚れが付いていませんか？
突然、MPEG画像が残った青い画面になった	CD-ROMドライブから、MPEGのCDを取り出しませんでしたか？CDをセットして Enterを押してください。
CDが取り出せない	コンピューターの電源が入っていますか？電源が入っていない状態でCDを取り出すには、ゼムクリップなどを引き伸ばしたものなどをエマージェンシーホールに差し込んでトレイを引き出してください。（→17ページ）
CD-ROMドライブの振動が大きい	・変形したCDや、ラベルをはったCDを使用していませんか？ ・CDドライブ最大速度を低く設定（→121ページ）すれば振動が小さくなる場合があります。

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求（IRQ）、I/Oポートアドレス等、アドレスマップがわからない	「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックし、[コンピュータ]を選んで[プロパティ]をクリックしてください。
プリンターが動かない	確認1 ・ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 ・プリンターの電源が入っているか確認してください。 確認2 ・セットアップユーティリティーで「パラレルポート」を「378」に設定してください。 ・適切なプリンタードライバーが選択されているか確認してください。
マウスが使えない	確認1 マウスケーブルが正しく接続されているか確認してください。 確認2 ・マウスがシリアルまたはUSBコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。 ドライバーをインストールしても動作しない場合： セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定し、「シリアルポート」を「3F8(IRQ4)」に設定してください。 ・インテリマウス™のホイールスクロール機能などを使用する場合は、セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。(→114ページ)
スマートポインターが使えない	セットアップユーティリティーの「スマートポインター」の設定が「有効」になっているか確認してください。
PCカードが使えない	確認1 カードが正しくセットされているか確認してください。 確認2 適切なドライバープログラムがインストールされているか確認してください。

周辺機器の問題（つづき）

こんなときは	ここをお調べください
USB機器を接続中、休止状態から正常にリジュームできない	＜「新しいハードウェアの追加ウィザード」が表示された場合＞ もう一度、USB機器のドライバーをインストールしてください。 ＜何も表示されない、操作できない場合＞ 画面には表示されていなくても、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動している可能性があります。その場合、ESC キーを2回押すと「新しいハードウェアの追加ウィザード」が終了し、Windowsの画面に戻ります。 （ESC キーを2回押してもWindowsの画面に戻れない場合は、Alt ＋ Ctrl ＋ Del キーを押すかリセットスイッチを押して、コンピューターを再起動してください。） Windowsの画面に戻ったら、次の操作をしてください。 1. [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。 2. 次のように入力する。 c:\util\usbroot.bat 3. [OK]をクリックする。 以降は、画面のメッセージに従って操作してください。 4. [完了]画面が表示されたら、画面右上の☒をクリックする。 5. [スタート]→[Windowsの終了]から、コンピューターを再起動する。 上記操作を行うと、再起動後、「新しいハードウェアの追加ウィザード」が起動されるので、もう一度、USB機器のドライバーをインストールしてください。

スタンバイ機能の問題

こんなときは	ここをお調べください
[Windowsの終了]画面で「スタンバイ」が表示されない または スタンバイや休止状態に入れない	以下の手順で「アドバンストパワーマネージメント」を入れ直してください。 ①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[システム]をダブルクリックする。 ②[デバイスマネージャ]をクリックし、「システムデバイス」の中の「アドバンストパワーマネージメントサポート」を選んで、[削除]をクリックする。 ③確認のメッセージが表示されたら、[OK]をクリックして[はい]をクリックし、コンピューターを再起動する。 ④「コントロールパネル」の[ハードウエアの追加]をダブルクリックする。 ⑤「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で[次へ]をクリックし、もう一度[次へ]をクリックする。 ・「インストールするデバイスが一覧にありますか」と表示された場合は、「デバイスは一覧にない」にチェックマークを付け、[次へ]をクリックする。 ⑥「はい」を選んで[次へ]をクリックする。 ⑦[次へ]をクリックする。 ⑧[詳細]をクリックして「アドバンストパワーマネージメントサポート」と表示されていることを確認して、[完了]をクリックする。

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	確認1 電話回線とモデムが正しく接続されているか確認してください。（→39ページ） 確認2 ・電話回線の種類は正しく設定されているか確認してください。（→40、49ページ） ・通信環境の設定をが正しく行われているか確認してください。（→39～46ページ）
メールの自動送受信ができない	「接続できない」場合の対処方法に従って、確認してください。
メールを自動送受信中、接続が切断される	回線を自動的に切断するように設定している可能性があります。（→68ページ）
LANに接続できない	・LANの設定は正しく設定されていますか？（→79ページ） ・詳しくはネットワーク担当のシステム管理者におたずねください。

エラーコード一覧

ここでは、ハードウェアの不良が発生した場合など、起動時に表示されるエラーコードとその原因・対処について説明します。

エラーコード・メッセージ	原 因・対 処
0211 キーボードエラーです。	外部キーボードが動作していません。外部キーボードを取り外してください。
0251 システムCMOSのチェックサムが正しくありません。ーデフォルト値が設定されました。	CMOSデータがアプリケーションによって壊されたか、変更されました。 確認1 セットアップユーティリティーでいったんデフォルト設定にした後、再度、適切な値に設定し直してください。 確認2 それでもエラーになる場合は、CMOSバックアップバッテリーが消耗している可能性がありますので、「ご相談窓口」にご相談ください。
0271 Check date and time settings	システムの日付と時間が正しくありません。セットアップユーティリティーで日付と時間を正しく設定してください。
0280 起動を3回失敗しました。-デフォルト値を使用して起動します。	電源を入れてからOSが起動するまでに、3回連続してシステムがシャットダウンされました。正しくOSを起動すれば表示されることはありません。
02B0 フロッピーディスクAのエラーです。	確認1 ドライブが正しく接続されているか確認してください。 確認2 正しく接続してもエラーになる場合は、ドライブの故障が考えられます。「ご相談窓口」にご相談ください。

下記のエラーコードが表示された場合は、そのメッセージを記録して「ご相談窓口」にご相談ください。

エラーコード・メッセージ	原 因
0200 ハードディスクエラーです。	ハードディスクドライブまたはシステムボードの故障です。
0212 キーボードコントローラエラーです。	システムボードの故障です。
0230 システムRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0231 シャドウRAMエラー。オフセットアドレス：nnnn 0232 拡張RAMエラー。オフセットアドレス：nnnn	メモリーの故障です。
0250 システムのバッテリがありません。ーバッテリを交換して、コンピュータを再起動して下さい。	CMOSバックアップバッテリーが消耗しています。 バッテリーの交換が必要です。
0260 システムタイマーエラーです。	システムボードの故障です。
0270 リアルタイムクロックエラーです。	システムボードの故障です。
02D0 システムキャッシュエラーです。ーキャッシュは使用できません。	CPUの故障です。
02F5 DMAのテストが異常終了しました。	システムボードの故障です。

再インストールのしかた

コンピューターが正常に動作しなくなったり、ハードディスクの内容が消えてしまったりした場合、「再インストール」と呼ばれる操作を行って工場出荷状態に戻すことができます。

再インストールの準備

1 下記のものを準備する。
- あらかじめ作成しておいたバックアップディスク（ファーストエイドFDなど→『セットアップ編』）
- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」（付属）
- フロッピーディスクドライブ（付属）
- 周辺接続ケーブル（付属）
- CD-ROMドライブ（付属）

◀ 必ず、ライトプロテクトタブを書き込み不可の状態にしておいてください。

2 ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。

◀ Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順5で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 Windowsを終了して操作を終わり、電源が切れたことを確認する。（→『セットアップ編』）

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

4 フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを取り付ける。

再インストールする

1 コンピューターの電源を入れ、「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。（→112ページ）

2 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

3 「セキュリティ」メニューから「起動ドライブ」を選び、「CDD/A:/C:」に設定する。

4 ファーストエイド FDおよびプロダクトリカバリーCD-ROMをそれぞれのドライブにセットする。

5 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティーを終了する。

再インストールのしかた

6 「再インストールを開始しますか」と表示されたら Y を押す。

7 <ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合>
[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
<ハードディスク(Cドライブ)を工場出荷の状態にする場合>
[2.Cドライブをフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
または
[3.Cドライブをクイックフォーマットして、工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

◀パーティション設定も行います。

◀パーティション設定は行いません。

◀[3.…クイックフォーマットして...]を選んだ場合は、フォーマット時間が約10～15分短縮されます。

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
再インストールが始まります。（30分～1時間程度かかります。）

9 再インストール完了の画面になったら、プロダクトリカバリーCD-ROMとファーストエイドFDを取り出し、Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押し、再起動する。

10 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。
（→112ページ）

11 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

12 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

13 Windows 98のセットアップを行う。（→取扱説明書『セットアップ編』）

<「アップデートFD」がある場合>
アップデートFD内のREADME.TXTを参照して操作してください。

◀バックアップディスク作成時に、「アップデートFD」を作成した場合

ハードディスクの「C:\UTIL」フォルダーの各種ドライバーやパナソニック製のソフトウェアを個々に復元したいときは：

「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」の「\JA\UTIL」フォルダーにあります。ただし、CD-ROM内のそれらのファイルを使用するときには、更新が必要な場合があります。その場合は、ファーストエイドFDのREADMEファイルをご覧ください。また、パナソニックPCのホームページに新しい情報が掲載されている場合もありますので、そちらもご覧ください。

休止状態用データ領域の作成

休止状態に入るには、ハードディスク上にメモリーの内容を保存するためのデータ領域を確保しておく必要があります。
工場出荷時には、約200 Mバイトの領域が確保されています。

休止状態用データ領域は、「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」のPEDPARTコマンドを使って作成します。
ここでは、PEDPARTコマンドの使用方法について説明します。

◀ データ領域は、通常は変更する必要はありませんが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには確保し直す必要があります。

PEDPARTコマンドの使用方法

PEDPARTは「プロダクトリカバリーCD-ROM 1」から起動したMS-DOS環境で実行してください。Windowsの「MS-DOSプロンプト」などから実行すると、正常に起動しません。
あらかじめ、セットアップユーティリティーの「セキュリティ」（→117ページ）で「起動ドライブ」を「CDD/A:/C:」に設定しておいてください。

「PEDPART」には下記のオプションがあります。コマンドとオプションの間は、１スペース空けて入力してください。

オプション	内容
/RESIZE:[サイズ]	休止状態用データ領域を作成します。[サイズ]にはメインメモリー相当の容量をメガバイト単位で指定します。（メインメモリーの容量以下の値を設定すると休止状態の機能を使用することができません。）
/TOP	ハードディスクの先頭に休止状態用データ領域を設定します。（工場出荷時には先頭に設定されています。）
/?	PEDPARTコマンドの使用方法などを表示します。

お願い

データエリアの作成や削除などを行った後は、すぐに再起動してください。

(例) PEDPART /RESIZE:128 /TOP

メインメモリーが128 Mバイト（オンボードメモリー＋64 Mバイト RAMモジュール装着時）以下の状態で休止状態に入るために必要な領域を、ハードディスクの先頭に作成します。

PEDPARTのエラーメッセージ

画面表示	原因・対策
パーティションテーブルの内容が不正です。	何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。FDISKコマンドで領域の管理情報を初期化する必要があります。 まず、FDISK /MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドを実行して、存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。 再起動の後、もう一度、PEDPARTコマンドを実行してください。
ハイバーネーション領域のための十分な空きがありません。	休止状態用データ領域を作成するためには、十分な容量を持った空き領域が必要になります。 既存の領域を削除するなどして、空き領域を作成してください。

Windows 98関連ファイルのインストール

工場出荷時にはインストールされていない以下のフォルダーのファイルをインストールしたい場合は、下記の手順に従ってインストールしてください。

\add-ons　　\cdsample　　\drivers　　\tools

インストールするには、ハードディスクのCドライブに十分な空き容量が必要です。

＜準備する物＞

- 「プロダクトリカバリーCD-ROM 2」（付属）
- CD-ROMドライブ（付属）

1 コンピューターの電源を入れる。

2 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。

◀ セットアップユーティリティーの起動のしかた→112ページ

3 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

4 「セキュリティ」メニューから「起動ドライブ」を選び、「CDD/A:/C:」に設定する。

5 プロダクトリカバリーCD-ROM2をCD-ROMドライブにセットする。

6 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選ぶ。

コンピューターが再起動されます。

7 「A:\>」に続けて以下のように入力する。

L:\JA\ADDFILE

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

「c:\win98add」フォルダーにファイルがインストールされます。

9 インストール完了のメッセージが表示されたらプロダクトリカバリーCD-ROMを取り出して、Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押す。

コンピューターが再起動します。

10 「Press <F2> to enter SETUP」が表示されているときに、F2 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。

◀ セットアップユーティリティーの起動のしかた→112ページ

11 「終了」メニューから「デフォルト設定する」を選んで、Enter を押す。

確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押す。

12 「終了」メニューから「設定を保存して終了」を選んで、Enter を押す。

コンピューターが再起動されます。

もくじ

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　権利
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、フロッピーディスク、CD-ROM、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　第三者の使用
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　使用コンピューター
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　アフターサービス
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　免責
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

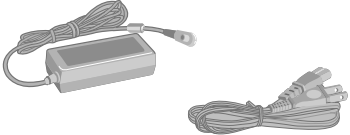
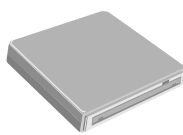
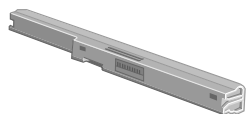
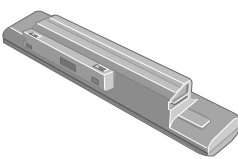
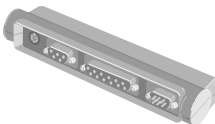
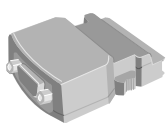
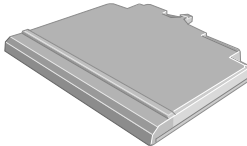
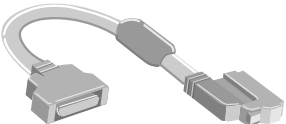
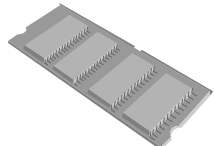
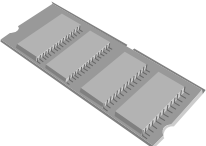
第8条　その他
上記第6条のアフターサービスには、ご愛用者登録が必要です。

仕様

機種			CF-M1R
CPU			Intel® モバイルPentium® III プロセッサ 400 MHz
メモリー	メインメモリー*1		64 Mバイト(最大192 Mバイト)
	キャッシュ	L1	32 Kバイト
		L2	256 K バイト
	ROM		512 Kバイト
	ビデオメモリー		2.5 Mバイト
ハードディスクドライブ			8.1 Gバイト*2
CD-ROMドライブ			最大24倍速
表示機能	テキスト表示		80文字×25行
	グラフィック表示		タイプ:11.3 型(TFT) 解像度:1024×768ドット 色数:1600万色*3
入力装置	キーボード		総数86キー
	ポインティングデバイス		スマートポインターIII
インターフェース	音声	マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)
		オーディオ出力	ミニジャックM3
	赤外線通信ポート		IrDA 1.1準拠(最大転送速度 4 Mbps)
	USBコネクター		4ピン　Universal Serial Bus
	モデム端子		本体内蔵 データ: 56 kbps (V.90 & K56flex両対応) FAX: 14.4 kbps
	LAN端子		本体内蔵 100BASE-TX / 10BASE-T RJ-45
	拡張バスコネクター		専用68ピン
カードスロット	PCカード専用		タイプIまたはタイプII×1スロット CardBusサポート (3.3 V: 500 mA,5 V: 400 mA,12 V: 120 mA)
	RAMモジュール専用		144ピン,SO-DRAM,1スロット
オーディオ機能			PCM音源(16ビットステレオ) モノラルスピーカー/モノラルマイク搭載
時計機能			クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒
電源	入力		DC 15.1 V (ACアダプター:入力AC100 V*4, 50 Hz/60 Hz)
	バッテリーパック		10.8 V (Li-Ion),1.6 Ah (標準バッテリーパック)
	消費電力*5		約37 W
バッテリー稼働時間*6			約1.5時間
外形寸法(幅×奥行×高さ)			270 mm×215 mm×29 mm
質量*7			1.6 kg(CD-ROM搭載時)
使用環境条件			温度:5 ℃〜35 ℃ 湿度:30 %RH〜80 %RH(結露なきこと)
導入済みソフトウェア			Microsoft® Windows® 98 Second Edition, Intellisync® for Notebooks, Acrobat® Reader, Phoenix Power Panel™, Phoenix BaySwap™, インターネットスターター, まいと〜く FAX V3 Lite, イラストメール, ウェブナビゲーター, ドライバー等
フロッピーディスクドライブ			外付け1ドライブ3.5型(1.44 M/1.2 M/720 Kバイト)

*1 シンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り使用可能です。

*2 1Gバイト=10^9バイト表記です。

*3 ディザリング機能を使用して約1600万色表示を実現しています。

*4 ACアダプター本体はAC240 Vまで対応、電源コードは、AC125 Vまで対応です。

*5 電源オン時、バッテリー充電中の表記です。(電源オフ、バッテリー充電終了時、ACアダプターは約0.6 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力はセットアップユーティリティーで「内蔵LAN Wake Up機能」を「無効」に設定した場合、約120 mWです。)

*6 省電力モードでLCDバックライト輝度最低時。また使用条件により異なります。

*7 標準バッテリーパック装着時の表記です。

別売り商品

ACアダプター（電源コード付）	フロッピーディスクドライブ
品番:CF-AA1527JB	品番:CF-VFDU02J*[1]
バッテリーパック	**大容量バッテリーパック**
品番:CF-VZSU10J	品番:CF-VZSU11J*[2]
I/Oボックス	ミニI/Oボックス
品番:CF-VEBU01J*[1]	品番:CF-VEBU02J
拡張バッテリーパック	**周辺接続ケーブル**
品番:CF-VZSA44J*[2]	品番:CF-VCF001J
RAMモジュール	
64 M バイト 品番:CF-BAF1064J	128 M バイト 品番:CF-BAF0128J

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

*[1] 別途、周辺接続ケーブルが必要です。

*[2] CD-ROMドライブとの同時使用はできません。

I/Oボックス
外部FDD・外部ディスプレイ・プリンター・シリアル・拡張キーボード／マウスを接続できます。

ミニI/Oボックス
外部ディスプレイ・拡張キーボード/マウスを接続できます。

さくいん

さくいん

西暦2000年問題について
本パーソナルコンピューターのハードウェア（BIOSなどのファームウェアを含む）は、西暦2000年問題についての動作確認済みです。
西暦2000年問題については、下記のインターネット上の情報などもご覧ください。
・松下電器産業株式会社のパソコンの西暦2000年問題情報
http://www.pcc.panasonic.co.jp/y2000/（1999年11月現在）
・マイクロソフト社の西暦2000年問題情報
http://www.microsoft.com/japan/year2k/（1999年11月現在）

・本書の内容に関しましては、事前に予告なしに変更することがあります。
・本書の内容の一部またはすべてを無断転載することを禁止します。
・落丁、乱丁はお取り替えします。
・本書のサンプルで使われている氏名、住所などは架空のものです。
・本書のイラストや画面は一部実際と異なる場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
・漏洩電流について、この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理・お取り扱い・お手入れ

などのご相談は…

まず、お買い上げの販売店へ

お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- ●修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ!
- ●その他のお問い合わせは、「テクニカルサポートセンター」へ!

■保証書（別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間:お買い上げ日から本体1年間

（バッテリーパックを除く）

■修理を依頼されるとき

『困ったときのQ&A』（→130ページ）に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後6年です。

注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

- 技術料 は、診断・故障個所の修理、および部品の交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代 は、修理に使用した部品、および補助材料代です。
- 出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

・FPANAPC*1アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！

*1 パソコン通信NIFTY SERVEのユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。

・Let's noteのホームページ*2では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のご愛用者登録を行っております。

*2 [お気に入り]→[パナソニックお勧めのサイト]→[パナソニックPCのホームページ]にリンクされています。

パナソニックパソコン
テクニカルサポートセンター

0120-873029（パナソニック）

フリーダイヤル（料金無料）

365日／受付9時～20時

ご来店技術相談窓口

Let's note Station

東京都千代田区岩本町3丁目2番4号
（東京建物岩本町ビル3階）
TEL 03-5821-3150

受付日および時間
月曜日～金曜日（祝・祭日を除く）
10時～12時　12時45分～17時

1999年9月1日現在

ナショナル／パナソニック

修理ご相談窓口

修理のご相談は

ナビダイヤル（全国共通番号） ☎ 0570-087-087（パナ パナ）

●お客様がおかけになった場所から最寄りの地区の修理ご相談窓口につながります。
呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
●携帯電話・PHSからは最寄りの地区の修理ご相談窓口に直接おかけください。
（ナビダイヤルはご利用頂けません）

北海道地区

地区	所在地	電話番号
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	☎(011)894-1251
旭川	旭川市2条通21丁目左1号	☎(0166)31-6151
帯広	帯広市西19条南1丁目7-11	☎(0155)33-8477
函館	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）	☎(0138)48-6631

東北地区

地区	所在地	電話番号
青森	青森市大字八ッ役字矢作1-37	☎(0177)39-9712
秋田	秋田市御所野湯本2丁目1-2	☎(018)826-1600
岩手	盛岡市羽場13地割30-3	☎(019)639-5120
宮城	仙台市泉区市名坂字清水端59-2	☎(022)375-2512
山形	山形市流通センター3丁目12-2	☎(023)641-8100
福島	福島県安達郡本宮町字南ノ内65	☎(0243)34-1301

首都圏地区

地区	所在地	電話番号
栃木	宇都宮市御幸町194-20	☎(028)689-2551
群馬	高崎市萩原町沖中205-18	☎(027)352-1109
水戸	水戸市柳河町309-2	☎(029)225-0249
つくば	つくば市花畑2丁目8-1	☎(0298)64-8756
埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2	☎(048)729-2102
千葉	千葉市中央区星久喜町172	☎(043)208-6034
東京	東京都世田谷区宮坂2丁目26-17	☎(03)5450-7431
山梨	甲府市下飯田2丁目1-27	☎(0552)22-5171
神奈川	横浜市港南区日野5丁目3-16	☎(045)840-3155
新潟	新潟市東明1丁目8-14	☎(025)286-7725

中部地区

地区	所在地	電話番号
石川	石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	☎(076)294-2683
富山	富山市寺島1298	☎(076)432-8705
福井	福井市開発4丁目112	☎(0776)54-5606
長野	松本市大字笹賀7600-7	☎(0263)58-0073
静岡	静岡市西島765	☎(054)287-9000
名古屋	名古屋市瑞穂区塩入町8-10	☎(052)819-0225
岡崎	岡崎市岡町南久保28	☎(0564)55-5719
岐阜	岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30	☎(058)323-6010
高山	高山市花岡町3丁目82	☎(0577)33-0613
三重	久居市森町字北谷1920-3	☎(059)255-1380

近畿地区

地区	所在地	電話番号
滋賀	守山市勝部町6丁目2-1	☎(077)582-5021
京都	京都市南区上鳥羽石橋町20-1	☎(075)672-9636
大阪	大阪市北区本庄西1丁目1-7	☎(06)6359-6225
奈良	大和郡山市椎木町404-2	☎(0743)59-2770
和歌山	和歌山市中島499-1	☎(0734)75-1311
兵庫	神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6	☎(078)272-6645

中国地区

地区	所在地	電話番号
鳥取	鳥取市安長295-1	☎(0857)26-9695
米子	米子市米原4丁目2-33	☎(0859)34-2129
松江	松江市西津田2丁目10-19	☎(0852)23-1128
出雲	出雲市渡橋町416	☎(0853)21-3133
浜田	浜田市下府町327-93	☎(0855)22-6629
岡山	岡山県都窪郡早島町矢尾807	☎(086)292-1162
広島	広島市西区南観音8丁目13-20	☎(082)295-5011
山口	山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23	☎(0839)86-4050

四国地区

地区	所在地	電話番号
香川	高松市勅使町152-2	☎(087)868-9477
徳島	徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	☎(0886)98-1125
高知	南国市岡豊町中島331-1	☎(0888)66-3142
愛媛	松山市土居田町750-2	☎(089)971-2144

九州地区

地区	所在地	電話番号
福岡	春日市春日公園3丁目48	☎(092)593-9036
佐賀	佐賀市本庄町大字本庄896-2	☎(0952)26-9151
長崎	長崎市東町1949-1	☎(095)830-1658
大分	大分市萩原4丁目8-35	☎(097)556-3815
宮崎	宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2	☎(0985)85-6530
熊本	熊本市健軍本町12-3	☎(096)367-6067
天草	本渡市港町18-11	☎(0969)22-3125
鹿児島	鹿児島市与次郎1丁目5-33	☎(099)250-5657
大島	名瀬市矢之脇町10-5	☎(0997)53-5101

沖縄地区

地区	所在地	電話番号
沖縄	浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0999

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った	▶	このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ　おぼえのため記入されると便利です

お買い上げ日	年　月　日	品番*	
販売店名	☎（　　）　－	お客様ご相談窓口	☎（　　）　－

*保証書に記載されている品番（例：CF-M1R）を記入してください。

松下電器産業株式会社　パーソナルコンピュータ事業部

〒570-0021　大阪府守口市八雲東町一丁目10番12号

FJ1199-0
DFQM5311ZA